八尾市文化財調査報告11
昭和59年度国庫補助事業

八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書

1985. 3

八尾市教育委員会

はしがき

八尾市内には周知の遺跡が54ケ所あり、発掘調査対象面積が2300万平方メートルと市域の約6割に相当し、発掘届出件数も年々急速に増加する傾向にあります。

本年度も昨年度に引続き、届出件数が500件以上を数え、そのうち199件について立会調査・発掘調査を実施しました。そのうち大規模開発の調査を要する11件については、㈶八尾市文化財調査研究会に指示し調査しましたが、小規模開発の調査は国庫補助事業の対象として教育委員会文化財室が担当実施しました。

本冊子は立会調査・発掘調査を行いました思智遺跡をはじめ5遺跡6調査地の調査概要報告書でありますが、これらの調査により周知の遺跡範囲の再確認やその性格づけに貴重な資料を提供し得たと思われます。また、この報告書が文化財保護への理解を一層深めるとともに地域文化の向上に寄与できれば幸甚に存じます。

終わりに、これらの調査に当り、深いご理解と多大なご協力をいただきました関係各方面の方々に心から厚くお礼申し上げます。

昭和60年3月20日

八尾市教育委員会
教育長　西崎　宏

例　　言

1. 本書は、八尾市教育委員会が、昭和59年度国庫補助事業として実施した八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は八尾市教育委員会文化財室（室長　谷野　浩）が実施した。
   なお、調査は米田敏幸・鳴村友子（嘱託）が担当し、庶務は山野加代が担当した。
3. 本書には昭和59年度に実施した199件の立会調査・発掘調査（第8表）のうち、5遺跡6調査地（第1表、第1図）の概要報告を収録した。
4. 調査に際しては、相松　隆・麻田　優・太田修司・大地慶子・菊田　成・北尾耕三・黒田尚義・徳谷貴正・中谷　伸・中野龍介・西森忠幸・林　賢吾・前田芳嗣・増井保彦・松尾毅の参加を得た。
5. 本書の作成に際し、遺構図の整理－米田・鳴村、遺物の実測－大地慶子・鳴村、遺物の観察・トレース・レイアウト－鳴村、遺構の写真撮影－米田・鳴村、遺物の写真撮影－米田が行った。また、挿図・図版作成に太田修司・中野龍介・中谷　伸の協力を得た。執筆は米田・鳴村が行い、編集は鳴村が行った。
6. 本調査期間中には以下の諸氏の御教示、御協力を得た。記して感謝の意を表する。
   奥田　尚・福田英人・宮崎泰史・上辻よしえ・吉村幸子・(財)八尾市文化財調査研究会
7. 出土遺物並びに記録図面は一括して八尾市教育委員会文化財室に保管してある。

（以上　敬称略）

凡　　例

1. 遺物の縮尺率は土器　1/4・1/3・1/2、瓦　1/3、石製品　1/2を基調としたが、その他の大きいものは1/6とした。
2. 遺物実測図の表示は以下のとおりである。
   弥生土器・土師器・埴輪・瓦器・木製品の断面－□、須恵器・磁器の断面－■
   瓦の断面－▨、石製品の断面－▩、器表の赤彩・赤色顔料の付着－▪
3. 土器拓影図は外面のみの場合断面図の左側に掲載し、両面の場合外面を右側、内面を左側に掲載した。
4. 遺物観察表における遺物の色調は小山正忠・竹原秀雄「新版　標準土色帖」（1976）に従って記述した。
5. 遺物には通し番号をつけ、遺物実測図・遺構実測図・図版の番号を一致させた。
6. 本書掲載の地図は国土地理院発行の1/25000、八尾市発行の1/2500を使用した。
7. 本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海面であり、ＴＰと略して記載した。

本　文　目　次

はしがき
例言
凡例

1. 跡部遺跡の調査〈跡部本町２丁目44－1、45、46－1〉…… 1
2. 恩智遺跡の調査〈恩智中町１丁目77－2〉…… 18
3. 跡部遺跡の調査〈安中町３丁目52－2〉…… 27
4. 八尾南遺跡の調査〈若林町３丁目117～119〉…… 42
5. 成法寺遺跡の調査〈清水町１丁目33〉…… 45
6. 小阪合遺跡の調査〈青山町４丁目４〉…… 51

挿　図　目　次

第１図　本書報告調査地点位置図　（S＝1／50000）

1. 跡部遺跡の調査〈跡部本町２丁目44－1、45、46－1〉

第２図　調査地位置図　(S=1／5000)…… 1
第３図　調査区設定図　(S=1／800)…… 1
第４図　土層断面模式図　(S=1／40)…… 2
第５図　調査区平面図・遺構断面図　(S=1／80)…… 2
第６図　土坑（SK）出土遺物　(S=1／4)…… 3
第７図　土器溜り（SW）土器出土状況　(S=1／20)…… 3
第８図　土器溜り（SW）出土遺物　[1]　(S=1／4)…… 4
第９図　土器溜り（SW）出土遺物　[2]　(S=1／4)…… 5
第10図　土器溜り（SW）出土遺物　[3]　(S=1／3)…… 6
第11図　遺構に伴わない遺物　[1]　(S=1／4)…… 7
第12図　遺構に伴わない遺物　[2]　(S=¼・⅓)…… 8

2. 恩智遺跡の調査〈恩智中町１丁目77－2〉

第13図　調査地位置図　(S=1／5000)…… 18
第14図　調査区設定図　(S=1／200)…… 18
第15図　第１～第６グリッド土層断面模式図　(S=1／40)…… 19
第16図　第６グリッド平面図　(S=1／40)…… 20

第17図　第7グリッド平面図・土層断面図　(S=1/40)……20
第18図　第8グリッド土層断面図　(S=1/40)……21
第19図　第8グリッド甕棺出土状況　(S=1/10)……21
第20図　第8グリッド出土甕棺　(S=1/4)……22
第21図　第1～第8グリッド出土遺物 [1]　(S=1/4・1/2)……23
第22図　第1～第8グリッド出土遺物 [2]　(S=1/4・1/2)……24

3. 跡部遺跡の調査〈安中町3丁目52－2〉

第23図　調査地位置図　(S=1/5000)……27
第24図　調査区設定図　(S=1/800)……27
第25図　調査区平面図　(S=1/200)……28
第26図　土層断面模式図　(S=1/40)……28
第27図　土坑(SK)出土遺物　(S=1/4)……29
第28図　遺構に伴わない遺物 [1]　(S=1/4・1/2)……30
第29図　遺構に伴わない遺物 [2]　(S=1/4)……31
第30図　遺構に伴わない遺物 [3]　(S=1/4)……32
第31図　遺構に伴わない遺物 [4]　(S=1/3・1/6・1/4)……33
第32図　遺構に伴わない遺物 [5]　(S=1/3)……34
第33図　遺構に伴わない遺物 [6]　(S=1/3)……35

4. 八尾南遺跡の調査〈若林町3丁目117～119〉

第34図　調査地位置図　(S=1/5000)……42
第35図　第1グリッド土層断面模式図　(S=1/40)……42
第36図　調査地平面図　(S=1/400)……43

5. 成法寺遺跡の調査〈清水町1丁目33〉

第37図　調査地位置図　(S=1/5000)……45
第38図　土層断面模式図　(S=1/40)……45
第39図　調査地平面図　(S=1/400)……46
第40図　溝(SD)土層断面図　(S=1/40)……46
第41図　溝(SD)出土遺物　(S=1/4)……47

6. 小阪合遺跡の調査〈青山町4丁目4〉

第42図　調査地位置図　(S=1/5000)……51
第43図　調査区設定図　(S=1/800)……51

第44図　土層断面模式図　（S＝1／40）…… 51
第45図　調査区平面図・遺構断面図　（S＝1／80）…… 52
第46図　ピット（SP）出土遺物（S＝1／4）…… 52
第47図　土坑（SK）平面図・断再図（（S＝1／20）…… 53
第48図　土坑（SK）出土遺物（S＝1／4）…… 53
第49図　溝（SD）1出土遺物（S＝1／4・1／2）…… 54
第50図　溝（SD）2出土遺物（S＝1／4）…… 54
第51図　遺構に伴わない遺物（S＝1／4）…… 54

表　目　次

第1表　本書報告調査一覧表 …… 1
第2表　跡部遺跡〈跡部本町2丁目44－1、45、46－1〉出土遺物観察表 …… 9
第3表　恩智遺跡〈恩智中町1丁目77－2〉出土遺物観察表 …… 25
第4表　跡部遺跡〈安中町3丁目52－2〉出土遺物観察表 …… 36
第5表　成法寺遺跡〈清水町1丁目33〉出土遺物観察表 …… 49
第6表　ピット（SP）一覧表 …… 53
第7表　小阪合遺跡〈青山町4丁目4〉出土遺物観察表 …… 56
第8表　文化財保護法98条にもとづく調査一覧表 …… 58

図　版　目　次

図版1　跡部遺跡〈跡部本町2丁目44－1、45、46－1〉
図版2　恩智遺跡〈恩智中町1丁目77－2〉
図版3　恩智遺跡〈恩智中町1丁目77－2〉
図版4　跡部遺跡〈安中町3丁目52－2〉
図版5　八尾南遺跡〈若林町3丁目117～119〉
図版6　八尾南遺跡〈若林町3丁目117～119〉
図版7　八尾南遺跡〈若林町3丁目117～119〉
図版8　成法寺遺跡〈清水町1丁目33〉
図版9　成法寺遺跡〈青水町1丁目33〉
図版10　小阪合遺跡〈青山町4丁目　4〉
図版11　小阪合遺跡〈青山町4丁目　4〉
図版12　出土遺物
図版13　出土遺物
図版14　出土遺物
図版15　出土遺物

第1図　本書報告調査地点位置図（S＝1／50000）

第1表　本書報告調査一覧表

番号	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積
1	跡部遺跡	跡部本町2丁目44−1、45、46−1	5月10日～ 5月22日	56㎡
2	恩智遺跡	恩智中町1丁目77−2	5月31日～ 6月 7日	9㎡
3	跡部遺跡	安中町3丁目52−2	6月18日～ 7月 2日	69㎡
4	八尾南遺跡	若林町3丁目117～119	7月12日～ 7月28日	204㎡
5	成法寺遺跡	清水町1丁目33	7月23日～ 8月11日	800㎡
6	小阪合遺跡	青山町4丁目4	11月 5日～11月12日	55㎡

1. 跡部遺跡の調査〈跡部本町2丁目44−1、45、46−1〉

1. 調査経過

跡部遺跡は八尾市跡部本町、跡部北の町、太子堂、春日町、渋川町、安中町に所在し、長瀬川左岸の沖積地に位置する集落遺跡である。

昭和56年11月に八尾市教育委員会が行った春日町1丁目57の調査では弥生時代前期〜中期の溝・土坑、古墳時代前期の方形周溝墓状遺構が検出されている。(注1)

第2図　調査地位置図（S＝1／5000）

今回の調査は　　社員寮の浄化槽設置に伴って実施された。なお、当調査地の南東側の隣接地では昭和58年度に（財）八尾市文化財調査研究会が調査を行っている。(注2)

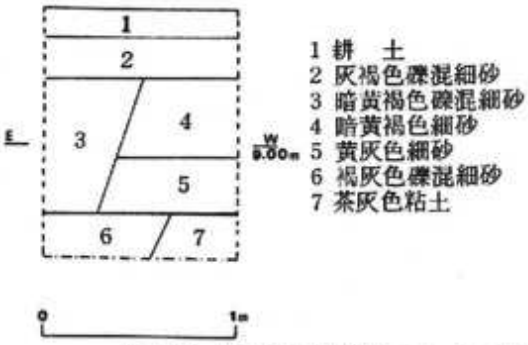
調査は浄化槽設置部分に8m×7mの調査区を設定（第3図）したのち、手掘りで行った。

2. 調査概要

調査地の基本土層は第4図に示すとおりである。第1層　耕土、第2層　灰褐色礫混細砂が調査区全面で確認されたが、第3層以下は調査区の東部と西部では大きく異っている。調査区の東部では第3層　暗黄褐色礫混細砂、調査区の西部では第4層　暗黄褐色細砂、第5層　黄灰色細砂が確認された。第3層、第5層以下は東部では第6層　褐灰色礫混細砂、西部では第7層　茶灰色粘土が確認された。第3〜5層には土師器・瓦器などの平安時代末の遺物が包含されていた。

第3図　調査区設定図（S＝1／800）

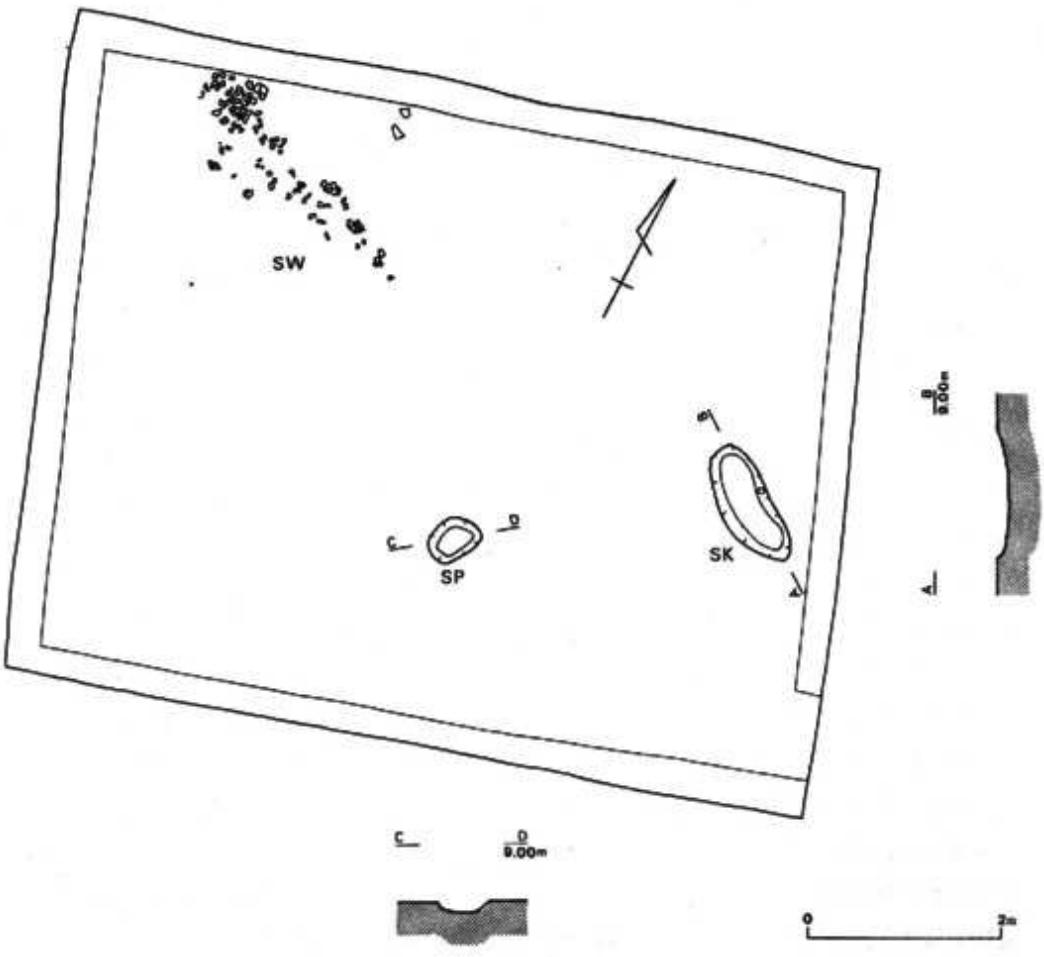
遺構はＴＰ8.7m 前後の第６・７層上面で検出された。検出された遺構は土坑・ピット・土器溜り各１である。（第５図、図版１）



第４図　土層断面模式図（S＝1/40）

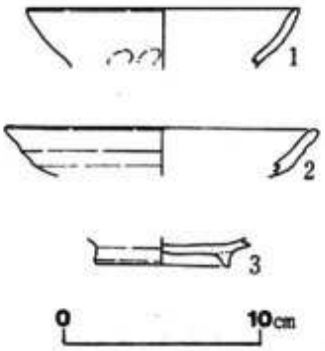
土　坑（SK）　調査区東部で検出されたもので、平面形は楕円形を呈し、現存長径 130cm、短形 50cm、深さ 15cm を測る。断面は浅い皿状を呈し、坑底は平坦である。土坑内には暗褐色礫混細砂が堆積する。東側壁上面で土師器坏(1)・中皿(2)、瓦器椀(3)が出土した。１２世紀中葉に属すると思われる。

ピット（SP）　調査区中央付近で検出された。平面形は円形を呈し、現存径 50cm、深さ 15cm を測る。断面は浅い皿状を呈す。ピット内には暗褐色礫混細砂が堆積する。遺物の出土はなかった。

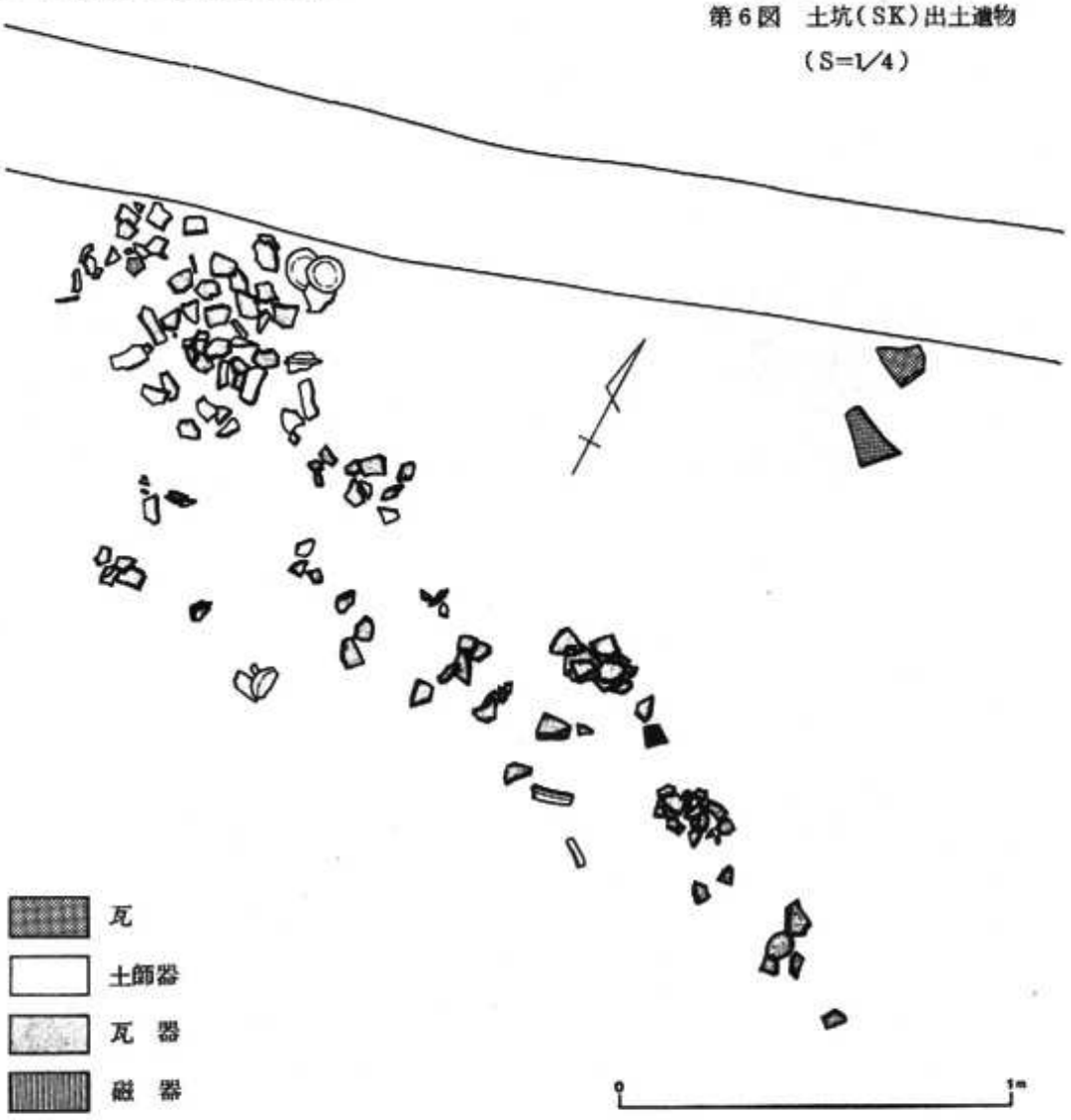


第５図　調査区平面図・遺構断面図（S＝1/80）

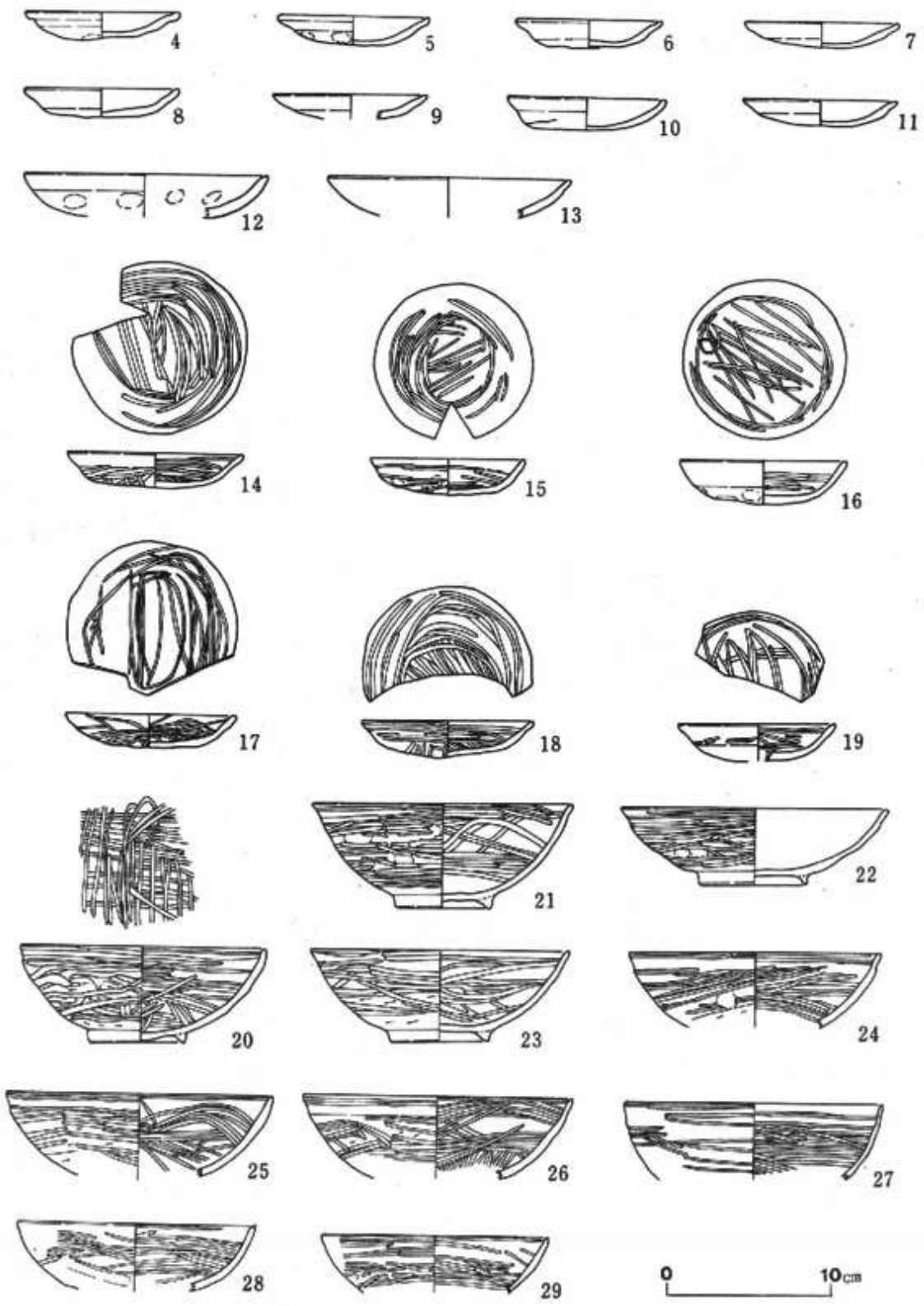
土器溜り（SW）　調査区北西部で検出された。土器集積は調査区内で約2.5×1.0 m を測り、平面形は帯状を呈す。北壁にも多量の土器が確認されており、調査区北側に続くものと思われる。特に掘り込まれた様子はなく、遺物が15cm の高さに集積されていた。遺物は土師器小皿（4～11）・中皿（12･13）、瓦器小皿（14～19）・椀（20～52）、磁器椀（63・64）、平瓦（65・66）の他、土師器羽釜片がみられるが、磨耗したものが多く、廃棄物の集積によるものと思われる。遺物は12世紀前半～中葉に属するものであろう。



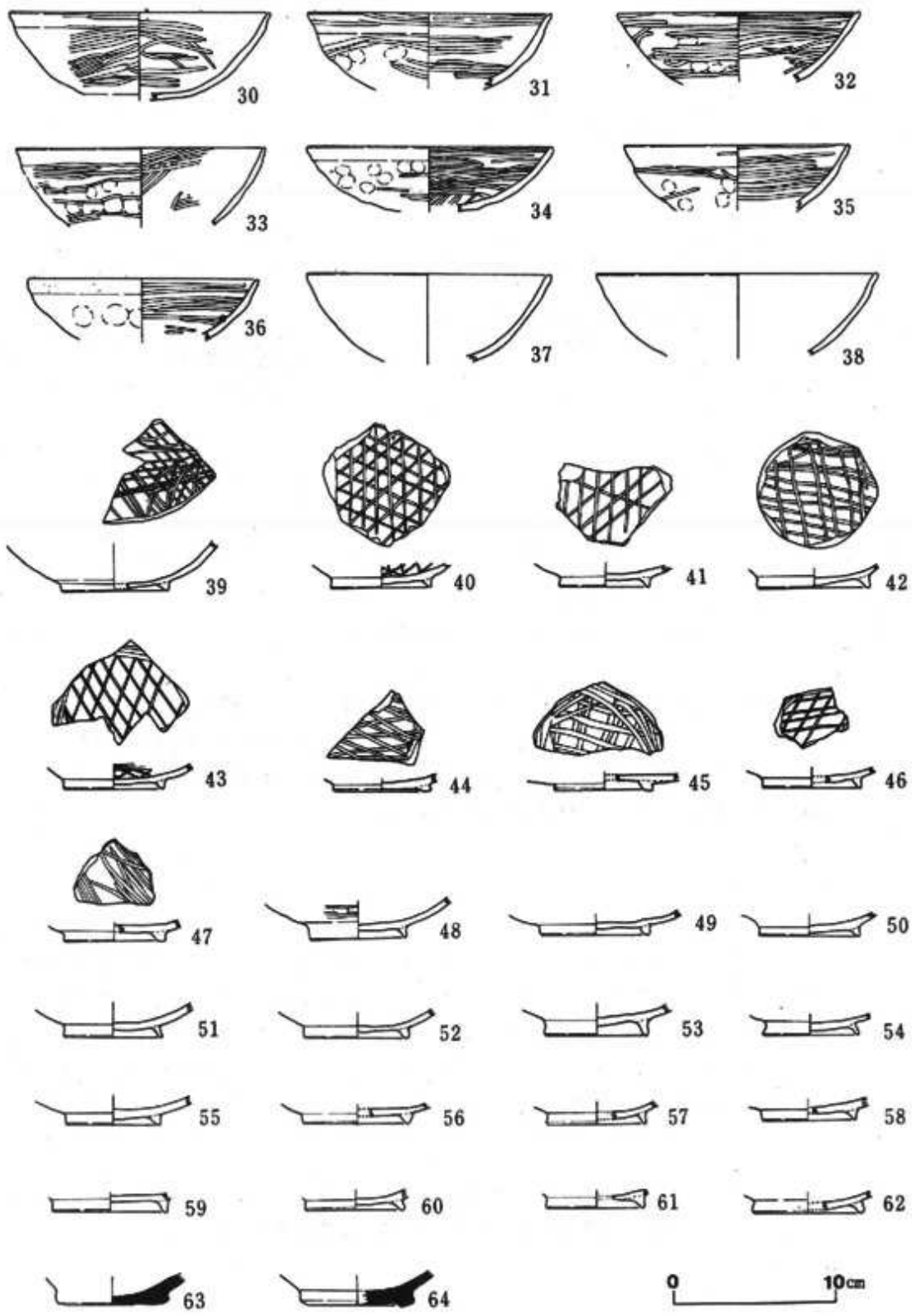
第6図　土坑（SK）出土遺物
（S=1/4）



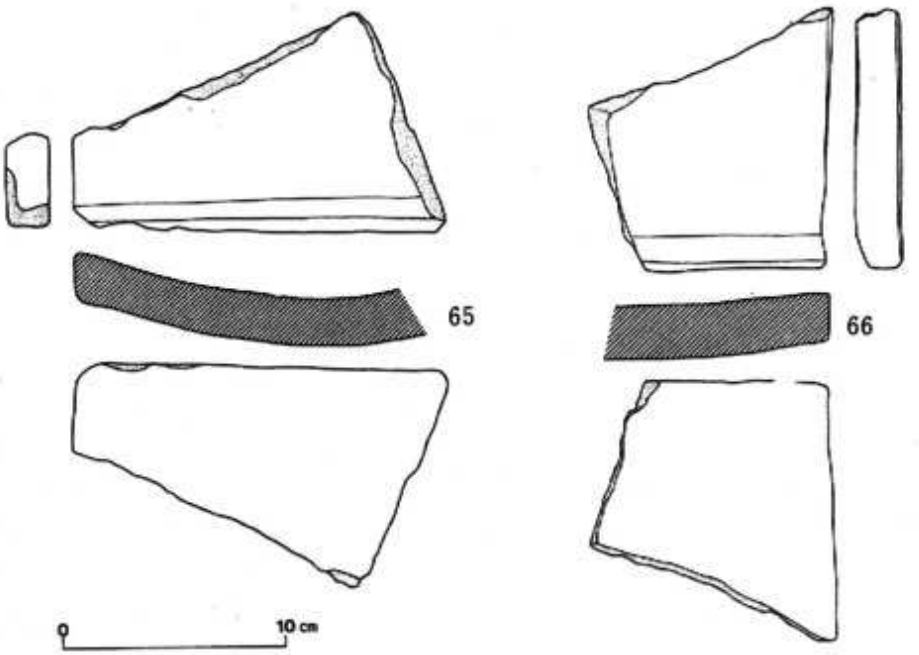
第7図　土器溜り（SW）土器出土状況（S＝1/20）



第8図　土器溜り（SW）出土遺物〔1〕（S＝1／4）



第9図　土器溜り（SW）出土遺物[2]（S＝1／4）



第10図　土器溜り（SW）出土遺物[3]（S＝1/3）

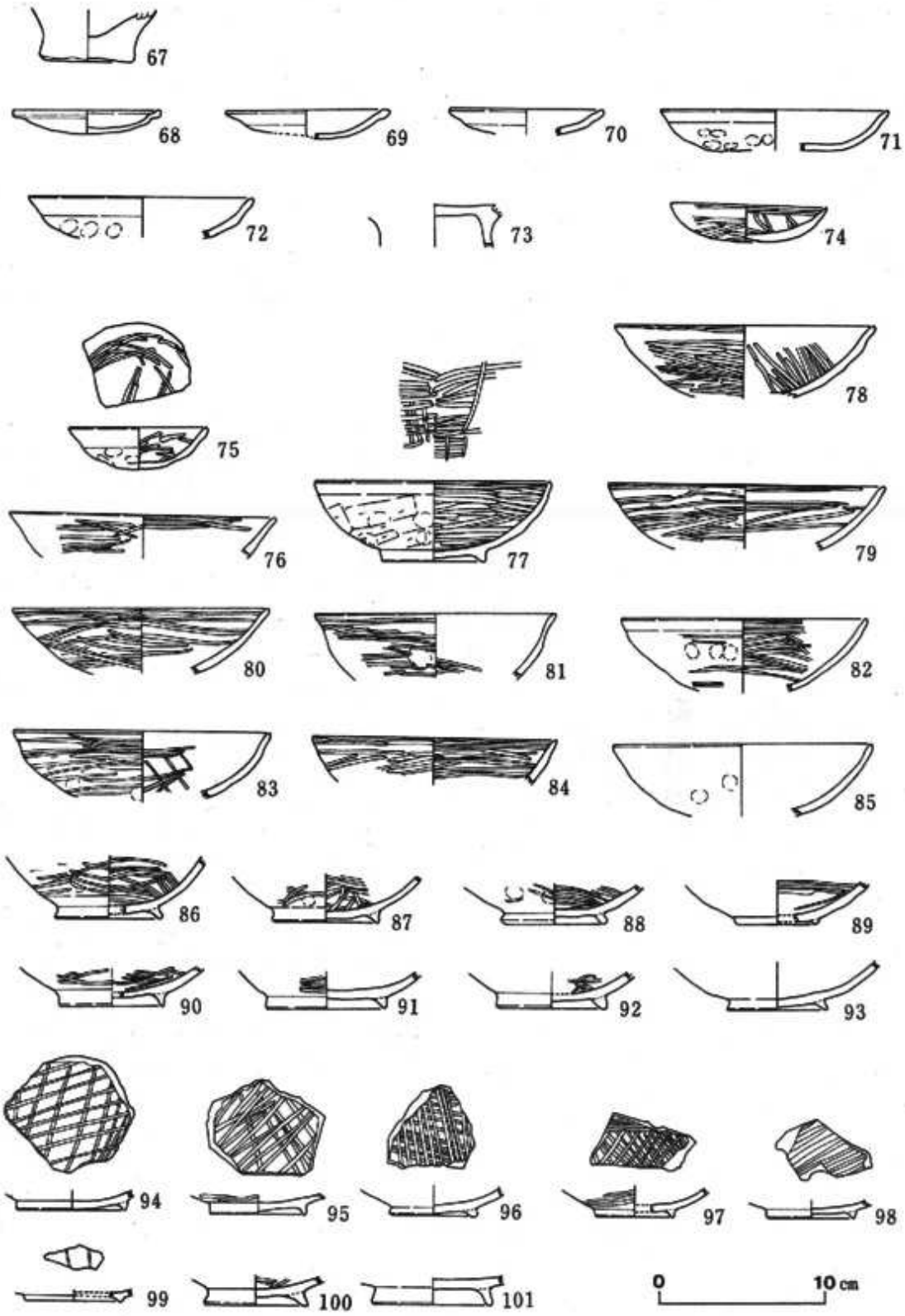
遺構に伴わない遺物　第3～5層中より弥生土器壷？（67）、土師器小皿（68～70）・中皿（71・72）・台付皿（73）、瓦器小皿（74・75）・椀（76～114）・器種不明のもの（115・116）、須恵器甕の破片（118～121）、軒丸瓦（122）、丸瓦（123・124）が出土した。瓦器椀は12世紀前半～中葉に属するものであろう。

3. ま と め

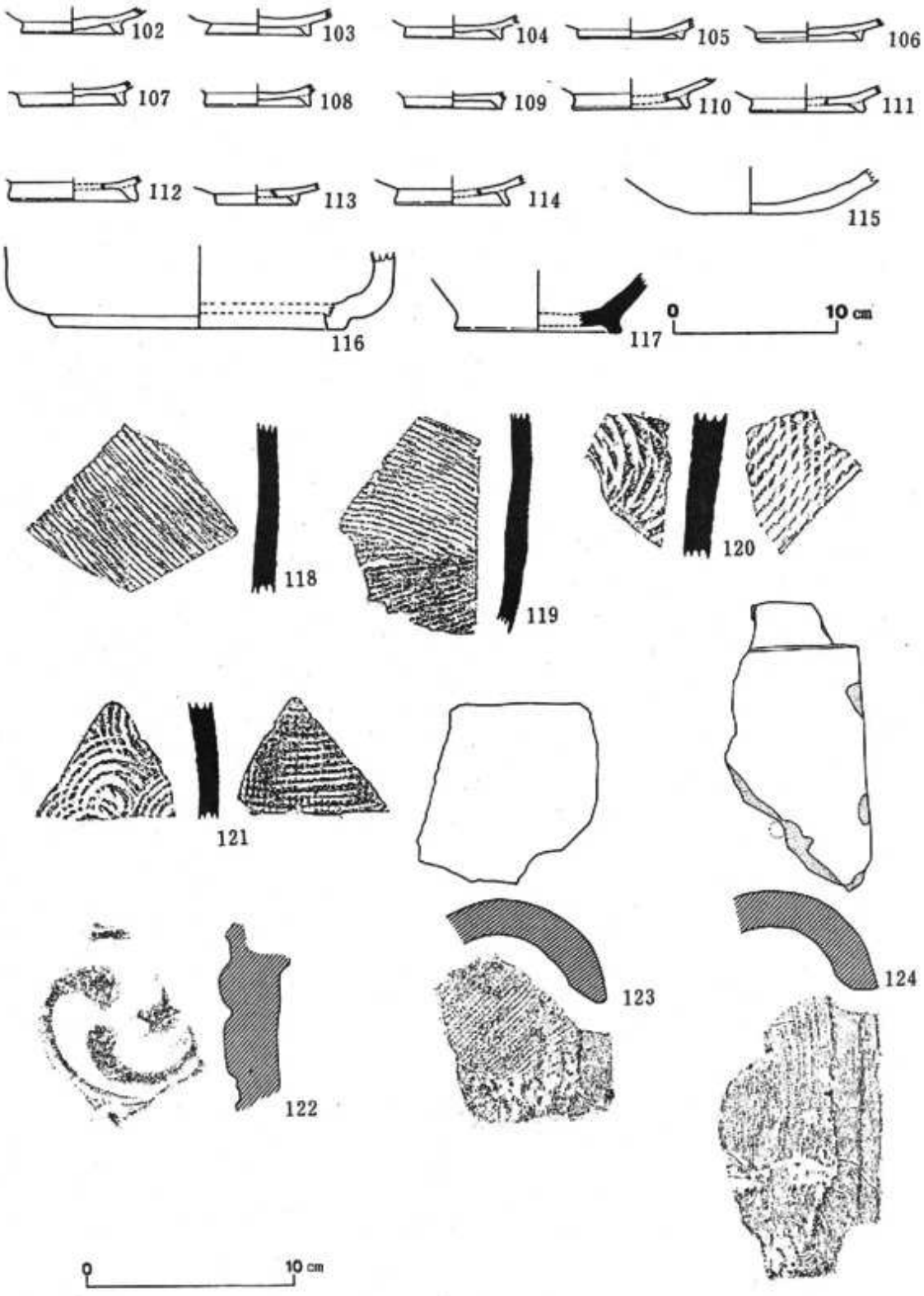
以上のように今回の調査では平安時代末の遺構・遺物を検出することができた。調査区の東部では粗砂上面で遺構のプランが確認されており、東南側に隣接する昭和58年度調査区でもほぼ全域に堆積する砂の上面で平安時代末～室町時代の遺構が確認されている。したがって、当調査地以東には平安時代末以前に埋没する自然河川が存在し、平安時代末以降の居住域は当調査地の東方へ拡大または移動したものと推定される。

（鳴村）

注1　八尾市教育委員会「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　1980.1981年度」（1983）
2　（財）八尾市文化財調査研究会「昭和58年度事業概要報告」（1984）



第11図　遺構に伴わない遺物[1]（S=1/4）



第12図　遺構に伴わない遺物〔2〕（S＝1/4、1/3）

第2表　跡部遺跡〈跡部本町2丁目44－1、45、46－1〉出土遺物観察表

土坑（SK）出土遺物

遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
1	土師器	坏	推定口径 14.0(1/3)	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、ナデ。 内面 ヨコナデ。	淡橙色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。 外面に煤が付着。
2	土師器	中皿	推定口径 16.2(1/4)	外面 ヨコナデ。 内面 ヨコナデ。	淡橙色。 精良。 白色砂粒、雲母を微量含む。	焼成良好。
3	瓦器	椀	高台径 7.0（完存） 高台高 0.9	外面 高台は貼り付け。 内面 底面は一方向ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
土器溜り（SW）出土遺物						
4（図版12）	土師器	小皿	口径 9.4（完存） 器高 1.5～1.8	外面 口縁部はヨコナデ。底部は指押さえののち、ヨコナデ。 内面 ヨコナデ。	灰白色。 精良。 白色砂粒、茶色砂粒を微量含む。	焼成良好。
5（図版12）	土師器	小皿	口径 9.4（完存） 器高 1.7～1.8	外面 口縁部はヨコナデ。底部は指押さえののち、ヨコナデ。 内面 ヨコナデ。	灰白色。 精良。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
6（図版12）	土師器	小皿	推定口径 9.2(1/2) 器高 1.8	外面 口縁部はヨコナデ。底部は指押さえののち、ヨコナデ。 内面 指押さえ、ヘラナデののち、ヨコナデ。	浅黄橙色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
7	土師器	小皿	推定口径 9.4(1/3) 器高 1.6	磨耗のため調整不明。	灰橙色。 精良。 白色砂粒、茶色砂粒を少量含む。	焼成良好。
8（図版12）	土師器	小皿	口径 9.6(1/3) 器高 1.9	外面 指押さえののち、ヨコナデ。 内面 ヨコナデ	淡橙色～浅黄橙色。 精良。 白色砂粒を微量に含む。	焼成良好。
9（図版12）	土師器	小皿	推定口径 9.4(1/3)	外面 ヨコナデ。 内面 ヨコナデ。	浅黄橙色。 精良。 赤色粒を少量含む。	焼成良好。
10	土師器	小皿	口径 9.8(3/8) 器高 2.0	外面 粘土紐巻き上げ痕が残存。ヘラ状工具によるナデ。 内面 ヨコナデ。	浅黄橙色。 精良。 白色砂粒、茶色砂粒を少量含む。	焼成良好。
11	土師器	小皿	口径 9.8(3/4) 器高 1.6	外面 ヨコナデ。 内面 ヨコナデ。	浅黄橙色。 精良。 赤色粒を微量含む。	焼成良好。
12	土師器	中皿	推定口径 15.0(1/3)	外面 口縁部はナデ。体部は指押さえののち、ナデ。 内面 指押さえののち、ヨコナデ。	浅黄橙色。 白色砂粒、赤色粒を少量含む。	焼成良好。
13	土師器	中皿	推定口径 15.0(1/3)	磨耗のため調整不明。	灰橙色。 精良。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
14（図版12）	瓦器	小皿	口径 10.8(3/8) 器高 2.2	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、雑なヘラミガキ。 内面 口縁部～体部はヨコナデののち、ヘラミガキ。底面はやや密なヘラミガキ。	外面は黒色。 内面は黒色～灰白色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
15（図版12）	瓦器	小皿	口径 9.6(3/4) 器高 2.3	外面 口縁部～体部は指押さえののち、粗いヘラミガキ。 内面 ヨコナデののち、粗いヘラミガキ。	灰色。 精良。	焼成良好。
16（図版12）	瓦器	小皿	口径 10.2（完存）	外面 口縁部はヨコナデ。体部～底部は指押さえののち、ナデ。 内面 口縁部はヨコナデ。体部～底部は粗いヘラミガキ。	外面は灰色～灰白色。 内面は灰色。 精良。 白色砂粒を微量に含む。	焼成良好。 体部～底部外面は炭素吸着不良。

遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
17（図版12）	瓦器	小皿	口径 10.6（3/4） 器高 2.1	外面 口縁部はヨコナデ。体部～底部は指押さえののち、ヘラミガキ。 内面 ヨコナデののち、ヘラミガキ。	外、内面は灰色。 精良。 白色砂粒を少量含む	焼成良好。
18	瓦器	小皿	口径 10.6（1/5） 器高 2.2～2.4	外面 口縁部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。体部～底部は指押さえののち、密なヘラミガキ。 内面 口縁部～体部はヨコナデののち、ヘラミガキ。底面は密な一方向ヘラミガキ。	外面は灰色。内面は灰色～灰白色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
19	瓦器	小皿	推定口径 9.6（1/4）	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、一部ヘラミガキ。 内面 ヨコナデののち、粗いヘラミガキ。	外面は灰色～灰白色。 内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
20（図版12）	瓦器	椀	口径 15.2（1/5） 等高 6.0 高台径 6.0 高台高 0.7	高台は貼り付け。 外面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部は指押さえ、ヘラケズリののち、ヘラミガキ。 内面 口縁部～体部は密なヘラミガキ。底面は格子ヘラミガキ。	灰色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
21	瓦器	椀	推定口径 16.2 器高 6.5 推定高台径 6.0（1/3） 高台高 0.7	高台は貼り付け。 外面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部は指押さえののち、密なヘラミガキ。 内面 口縁部～体部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。底面は磨耗のため調整不明。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
22	瓦器	椀	推定口径 16.2（1/4） 器高 4.9 推定高台径 6.6 高台高 0.8	高台は貼り付け。 外面 口縁部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。体部は指押さえ、ヘラケズリののち、密なヘラミガキ。 内面 磨耗のため調整不明。	灰色。 精良。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
23（図版12）	瓦器	椀	口径 16.2（1/2） 器高 5.8 高台径 6.2 高台高 0.8	高台は貼り付け。 外面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部はヘラケズリののち、ヘラミガキ。 内面 口縁部～底面はナデののち、ヘラミガキ。	外面は黒色～灰色。 内面は灰白色～黒色。 精良。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
24	瓦器	椀	推定口径 15.4（1/4）	外面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部は指押さえののち、ヘラケズリ、ヘラミガキ。 内面 口縁部～体部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色～灰白色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
25	瓦器	椀	推定口径 15.4（1/4）	外面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部はヘラケズリののち、ヘラミガキ。 内面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部はヨコナデののち、円弧状ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
26	瓦器	椀	推定口径 15.6（1/5）	外面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部はヘラケズリののち、ヘラミガキ。 内面 口縁部～体部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。	灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
27	瓦器	椀	推定口径 16.2（1/5）	外面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部は指押さえののち、ヘラミガキ。 内面 ヨコナデののち、密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
28	瓦器	椀	推定口径 14.6（1/5）	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、ヘラナデ、ヘラミガキ。 内面 口縁部～体部は密なヘラミガキ。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
29	瓦器	椀	推定口径 14.0（1/5）	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、ヘラナデ、ヘラミガキ。 内面 口縁部～体部は密なヘラミガキ。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
30	瓦器	椀	推定口径 16.0（1/5）	外面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部は指押さえののち、ヘラミガキ。 内面 ヨコナデののち、ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。

遺物番号（図版）	器種		法量（現存中）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
31	瓦器	椀	推定口径 15.0 (1/4)	外面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部は指押さえののち、粗いヘラミガキ。 内面 口縁部～体部は密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
32	瓦器	椀	推定口径 15.0 (1/4)	外面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部は指押さえののち、ヘラミガキ。 内面 口縁部～体部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
33	瓦器	椀	推定口径 15.4 (1/4)	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、粗いヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。磨耗著しい。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
34	瓦器	椀	推定口径 15.2 (1/4)	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、粗いヘラミガキ。 内面 口縁部～体部は密なヘラミガキ。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
35	瓦器	椀	推定口径 14.0 (1/4)	外面 口縁部はヨコナデののち、粗いヘラミガキ。体部は指押さえののち、粗いヘラミガキ。 内面 ヨコナデののち、密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
36	瓦器	椀	推定口径 14.0 (1/4)	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえ。磨耗のため調整不明。 内面 口縁部～体部は密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
37	瓦器	椀	推定口径 15.0 (1/4)	磨耗のため調整不明。	外、内面は黒色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
38	瓦器	椀	推定口径 17.4 (1/4)	磨耗のため調整不明。	外面は不明。 断面はにぶい黄灰色。 内面は黒色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
39	瓦器	椀	推定高台径 6.6 (1/4) 高台高 0.6	高台は貼り付け。 外面 体部下半は磨耗のため調整不明。 内面 底面はナデののち、格子＋ラセンヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
40	瓦器	椀	高台径 6.2 (完存) 高台高 0.6	高台は貼り付け。 内面 底面はナデののち、平行＋斜格子ヘラミガキ。	外面は灰色～灰白色。 内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
41	瓦器	椀	高台径 6.2 (完存) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 内面 ナデののち、斜格子＋平行ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
42	瓦器	椀	高台径 5.4 (1/4) 高台高 0.6	高台は貼り付け。 内面 ナデののち、斜格子ヘラミガキ。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
43	瓦器	椀	推定高台径 6.2 (1/4) 高台高 0.6	高台は貼り付け。 内面 底面はナデののち、斜格子ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
44	瓦器	椀	推定高台径 6.2 (1/4) 高台高 0.5	高台は貼り付け。 内面 底面は斜格子ヘラミガキ。	内、外面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
45	瓦器	椀	推定高台径 6.0 (1/4) 高台高 0.6	高台は貼り付け。 内面 底面は斜格子ヘラミガキ。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。

遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
46	瓦器	椀	推定高台径 6.2(1/6) 高台高 0.7	高台は貼り付け。 内面 底面はナデののち、斜格子ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
47	瓦器	椀	推定高台径 6.2(1/6) 高台高 0.6	高台は貼り付け。 内面 底面は一方向ヘラミガキ。	外面に灰色。 内面は暗灰色～灰白色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
48	瓦器	椀	高台径 6.0(完存) 高台高 0.7	高台は貼り付け。 外面 体部は指押さえののち、ヘラミガキ。 内面 体部～底部はナデののち、ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
49	瓦器	椀	推定高台径 6.6(1/5) 高台高 0.6	高台は貼り付け。 磨耗のため調整不明。	灰色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
50	瓦器	椀	推定高台径 6.0(1/4) 高台高 0.5	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
51	瓦器	椀	推定高台径 6.0(1/4) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外面は黒色～灰白色。 内面は黒色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
52	瓦器	椀	高台径 6.4(3/5) 高台高 0.7	高台は貼り付け。 磨耗のため調整不明。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
53	瓦器	椀	推定高台径 5.4(1/2) 高台高 1.0	高台は貼り付け。 内面 底面は密なヘラミガキ。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
54	瓦器	椀	高台径 6.0(完存) 高台高 0.6	高台は貼り付け。 内面 底面は斜格子のヘラミガキ。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
55	瓦器	椀	高台径 5.8(完存) 高台高 0.7	高台は貼り付け。 磨耗のため調整不明。	外、内面はオリーブ灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
56	瓦器	椀	推定高台径 6.6(1/5) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 内面 底面は一方向ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
57	瓦器	椀	推定高台径 6.2(1/5) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
58	瓦器	椀	推定高台径 5.2(1/2) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
59	瓦器	椀	高台径 6.2(3/4) 高台高 0.7	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
60	瓦器	椀	推定高台径 7.0(1/4) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 磨耗のため調整不明。	外、内面は黒色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。

遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
61	瓦器	椀	推定高台径 6.0(1/3) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
62	瓦器	椀	推定高台径 6.8(1/3) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 内面 底面は一方向ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
63（図版12）	磁器	椀	高台径 6.6(2/3) 高台高 0.8	高台は削り出しによる。 外面 体部下半は施釉。 内面 施釉。	灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 白磁。
64（図版12）	磁器	椀	推定高台径 7.4(3/4) 高台高 0.7	高台は削り出しによる。 外面 体部下半は施釉。高台は施釉なし。 内面 施釉。	灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 白磁。
65	丸	平瓦	厚さ 2.3 端面幅 2.0 側面幅 2.0	凹面 ナデ。端面との稜はヘラケズリののち、ナデ。 凸面 ナデ。 端面 ナデ。 側面 ナデ。	灰黄色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 軟質。
66	瓦	平瓦	厚さ 2.2 端面幅 1.7 側面幅 2.2	凹面 ヘラケズリ。端面との稜はヘラケズリ。 凸面 ヘラケズリ。 端面 ヘラケズリ。 側面 ヘラケズリ。	灰黄色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 軟質。
遺構に伴わない遺物						
67	弥生土器	壺？	底径 5.7(完存)	磨耗のため調整不明。	浅黄橙色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。
68（図版13）	土師器	小皿	口径 9.3(3/4) 器高 1.6	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、ナデ。 内面 ヨコナデ。	淡橙色。 精良。 白色砂粒、茶色砂粒を微量含む。	焼成良好。
69（図版13）	土師器	小皿	口径 10.0(3/4)	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、ナデ。 内面 ヨコナデ。	淡橙色。 精良。 白色砂粒、茶色砂粒を微量含む。	焼成良好。
70	土師器	小皿	推定口径 9.6(1/3)	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、ナデ。 内面 ヨコナデ。	淡橙色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
71	土師器	中皿	推定口径 14.0(1/4)	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、ナデ。 内面 ヨコナデ。	淡橙色。 精良。 白色砂粒、茶色砂粒を微量含む。	焼成良好。
72	土師器	中皿	推定口径 14.0(1/6)	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、ナデ。 内面 ヨコナデ。	淡橙色。 精良。 白色砂粒、茶色砂粒を微量含む。	焼成良好。
73	土師器	台付皿	台部 （完存）	台部は貼り付け。 外面 台部はヨコナデ。 内面 底面はナデ。	淡橙色。 白色砂粒、雲母を微量含む。	焼成良好。
74	瓦器	小皿	推定口径 9.6(1/5) 器高 2.4	外面 口縁部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。体部～底部は密なヘラミガキ。 内面 ヨコナデののち、粗いヘラミガキ。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
75	丸瓦	小皿	推定口径 8.6(1/3) 器高 3.6	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、ナデ。 内面 口縁部～底部はヨコナデののち、粗いヘラミガキ。	暗灰色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
76	瓦器	椀	推定口径 16.6(1/3)	外面 口縁部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。 内面 口縁部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。	焼成良好。

遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
77	弥生土器	鉢	推定口径 15.0 器高 5.0 推定高台径 6.4 (1/4) 高台高 0.7	高台は貼り付け。 外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、ヘラケズリ。磨耗のためヘラミガキは不明瞭。 内面 ヨコナデののち、密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰白～灰白色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
78	弥生土器	鉢	推定口径 16.0 (1/6)	外面 口縁部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。体部は粗なヘラミガキ。 内面 口縁部は磨耗のため不明。体部は密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
79	弥生土器	鉢	推定口径 16.0 (1/6)	外面 口縁部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。体部はヘラケズリののち、密なヘラミガキ。 内面 口縁部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。体部はヘラミガキ。	灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
80	弥生土器	鉢	推定口径 17.0 (1/6)	外面 口縁部は密なヘラミガキ。体部はヘラケズリののち、密なヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	外面は灰色～灰白色。 内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
81	弥生土器	鉢	推定口径 14.8 (1/4)	外面 口縁部はヨコナデののち、ヘラミガキ。体部は指押さえののち、ヘラミガキ。 内面 口縁部は磨耗のため不明。体部はヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。断面は灰白色 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
82	弥生土器	鉢	推定口径 15.0 (1/6)	外面 口縁部はヨコナデ。体部は指押さえののち、ナデ、粗いヘラミガキ。 内面 口縁部～体部は密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
83	弥生土器	鉢	推定口径 16.5 (1/4)	外面 口縁部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。体部は指押さえののち、ヘラミガキ。磨耗のためヘラミガキは不明瞭。 内面 ヘラミガキ、磨耗のためヘラミガキは不明瞭。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
84	弥生土器	鉢	推定口径 15.0 (1/6)	外面 口縁部はヨコナデののち、密なヘラミガキ。 内面 口縁部は密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
85	弥生土器	鉢	推定口径 16.5 (1/6)	磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
86	弥生土器	鉢	推定口台径 6.8 (1/6) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 外面 体部下半はヘラケズリののち、粗いヘラミガキ。 内面 体部～底面は密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
87	弥生土器	鉢	推定高台径 6.6 (1/6) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 外面 体部下半は指押さえののち、粗いヘラミガキ。 内面 底面は格子ヘラミガキ。	外面は灰色～灰白色。 内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
88	弥生土器	鉢	推定高台径 6.6(完存) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 外面 体部下半は指押さえののち、粗いヘラミガキ。 内面 体部はナデののち、密なヘラミガキ。底面中央はナデ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
89	弥生土器	鉢	推定高台径 4.8 (1/6) 高台高 0.5	高台は貼り付け。 外面 体部は指押さえののち、ナデ、ヘラミガキ。 内面 体部はナデののち、粗いヘラミガキ。底面はナデののち、細いヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
90	弥生土器	鉢	推定高台径 6.6 (1/6) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 外面 体部下半は指押さえののち、粗いヘラミガキ。 内面 体部～底面はナデののち、密なヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
91	弥生土器	鉢	高台径 7.4 (3/4) 高台高 0.9	高台は貼り付け。 外面 体部下半は密なヘラミガキ。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。

遺物番号（図版）	部位		法量（現存率）単位cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
92	瓦器	椀	推定高台径 7.0(1/5) 高台高 0.9	高台は貼り付け。 外面 体部下半は磨耗のため調整不明。 内面 ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
93	瓦器	椀	高台径 6.1(1/5) 高台高 0.7	高台は貼り付け。 磨耗のため調整不明。	外、内面は黒色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
94	瓦器	椀	高台径 6.8(完存) 高台高 0.7	高台は貼り付け。 内面 底面はナデののち、斜格子ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
95	瓦器	椀	高台径 6.0(1/5) 高台高 0.6	高台は貼り付け。 内面 底面はナデののち、斜格子ヘラミガキ。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
96	瓦器	椀	推定高台径 5.4(1/5) 高台高 0.5	高台は貼り付け。 外面 体部下半は指押さえ。 内面 底面はナデののち、斜格子ヘラミガキ。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒は微量含む。	焼成良好。
97	瓦器	椀	推定高台径 5.0(1/5) 高台高 0.6	高台は貼り付け。 外面 体部下半はヘラミガキ。 内面 底面はナデののち、斜格子ヘラミガキ。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
98	瓦器	椀	推定高台径 5.2(1/5) 高台高 0.5	高台は貼り付け。 内面 底面は雑な一方向ヘラミガキ。	外面は灰色。 内面は暗灰色～灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
99	瓦器	椀	推定高台径 6.0(1/4) 高台高 0.4	高台は貼り付け。 内面 底面はナデののち、平行ヘラミガキ。	外面は灰色。 内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
100	瓦器	椀	推定高台径 6.4(1/5) 高台高 1.0	高台は貼り付け。 内面 底面はナデののち、粗いヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
101	瓦器	椀	推定高台径 7.6(1/5) 高台高 1.0	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	灰褐色。 白色砂粒・黒色砂粒を 少量含む。	焼成良好。
102	瓦器	椀	高台径 6.4(完存) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
103	瓦器	椀	高台径 12.6(9/10) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
104	瓦器	椀	高台径 6.0(完存) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
105	瓦器	椀	推定高台径 6.6(1/5) 高台高 0.6	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
106	瓦器	椀	高台径 6.2(3/5) 高台高 0.7	高台は貼り付け。 外面 底面は指押さえののち、ナデ。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。

遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
107	瓦器	椀	推定高台径 6.6(1/2) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 内面底面は一方向ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
108	瓦器	椀	推定高台径 6.0(1/2) 高台高 0.7	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
109	瓦器	椀	推定高台径 12.6(1/5) 高台高 0.9	高台は貼り付け。 内面 底面は一方向ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
110	瓦器	椀	推定高台径 7.2(1/4) 高台高 1.0	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
111	瓦器	椀	推定高台径 7.0(1/5) 高台高 0.9	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
112	瓦器	椀	推定高台径 8.0(1/5) 高台高 1.2	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
113	瓦器	椀	推定高台径 5.0(1/5) 高台高 0.7	高台は貼り付け。 内面 磨耗のため調整不明。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
114	瓦器	椀	推定高台径 7.0(1/5) 高台高 1.1	高台は貼り付け。 内面 底面は一方向ヘラミガキ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
115	瓦器	？	推定底径 7.4(1/5)	外面 体部下半はナデ。底部に回転糸切り痕が残存。 内面 ナデ。	外、内面は灰色～灰白色。断面は灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
116	瓦器	？	推定高台径 18.2(1/6) 高台高 0.8	高台は貼り付け。 外面 ナデ。 内面 ヘラナデ。	外、内面は暗灰色。 断面は灰白色。 白色砂粒、小石を少量含む。	焼成良好。
117	須恵器	？	推定高台径 10.4(1/4) 高台高 0.9	高台は貼り付け。 外面 回転ナデ。 内面 回転ナデ。	灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
118	須恵器	甕		外面 平行タタキ。（3本／1cm） 内面 ナデ。	外面は青灰色。 内、断面は灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
119	須恵器	甕		外面 平行タタキ（4本／1cm） 内面 ナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
120	須恵器	甕		外面 平行タタキ。（2本／1cm） 内面 円形タタキ。（2本／1cm）	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
121	須恵器	甕		外面 平行タタキ。（3本／1cm） 内面 円形タタキ。（2本／1cm）	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
122（図版13）	瓦	軒丸瓦		内区 三巴、右廻り。	灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 硬質。

遺物番号（図版）	部	種	法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
123	瓦	丸瓦	厚さ 1.7 筒部側面幅 1.9	筒部凸面 ナデ。 筒部凹面 布目痕残存。 筒部側面 ナデ。凸面との稜はヘラケズリ。	灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 玉縁部を欠損。 硬質。
124	瓦	丸瓦	厚さ 1.5 筒部側面幅 2.0 玉縁部端面幅 1.0	筒部凸面 ナデ。 筒部凹面 布目痕残存。 筒部側面 ナデ。凸面との稜はヘラケズリ。 段部凸面 ヘラケズリ。 玉縁部凸面 ナデ。 玉縁部端面 ナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 硬質。 筒部に刺穴。

2. 恩智遺跡の調査〈恩智中町1丁目77－2〉

1. 調査経過

恩智遺跡は八尾市恩智北町、恩智中町、恩智南町に所在し、生駒山地西麓の扇状地に位置する集落遺跡である。

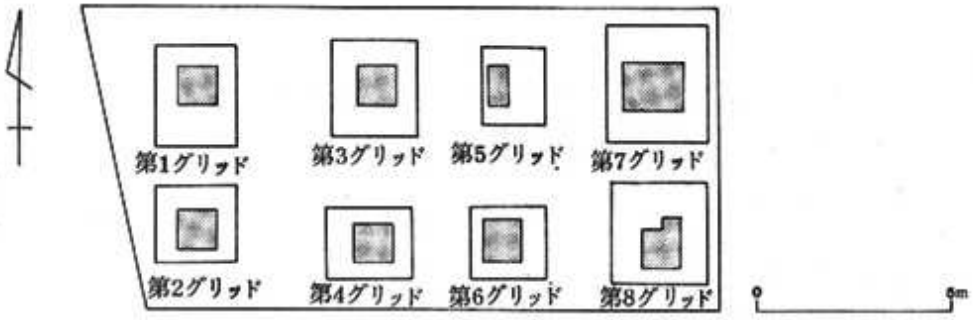
当遺跡は古くから知られており、恩智中町3丁目に所在する「天王の杜」には「恩智石器時代遺蹟」の顕彰碑が建てられている。昭和49年にこの「天王の杜」の一角で防火用貯水槽設置のため掘削工事を行っているが、その際に縄文時代晩期・弥生時代中期の遺物が採集されている。(注1) また昭和50～53年には「天王の杜」の西方250mを流れる恩智川の改修に伴って瓜生堂遺跡調査会が調査を行っており、弥生時代中期を中心とする遺構・遺物が検出されている。(注2)

第13図　調査地位置図（S＝1/5000）

今回の調査は　　信用金庫恩智支店の建設に伴って実施された。調査地は瓜生堂遺跡調査会が昭和53年に調査を実施した恩智橋以北の西岸地点の西方約80mの地点で、当遺跡の調査地中では最西部に位置している。調査は建物予定地内に任意に8ケ所のグリッドを設定し（第14図）、現地表下1.1mまで機械掘削したのち、手掘りで行った。

2. 調査概要

調査地の基本層序は第15図に示すとおりである。現地表より第1層　灰褐色粘土、第2層　淡褐色細砂、第3層　青灰色粘土、第4層　暗灰色粘土、第5層　黒灰色粘土、第6層　灰色



第14図　調査区設定図（S＝1/200）

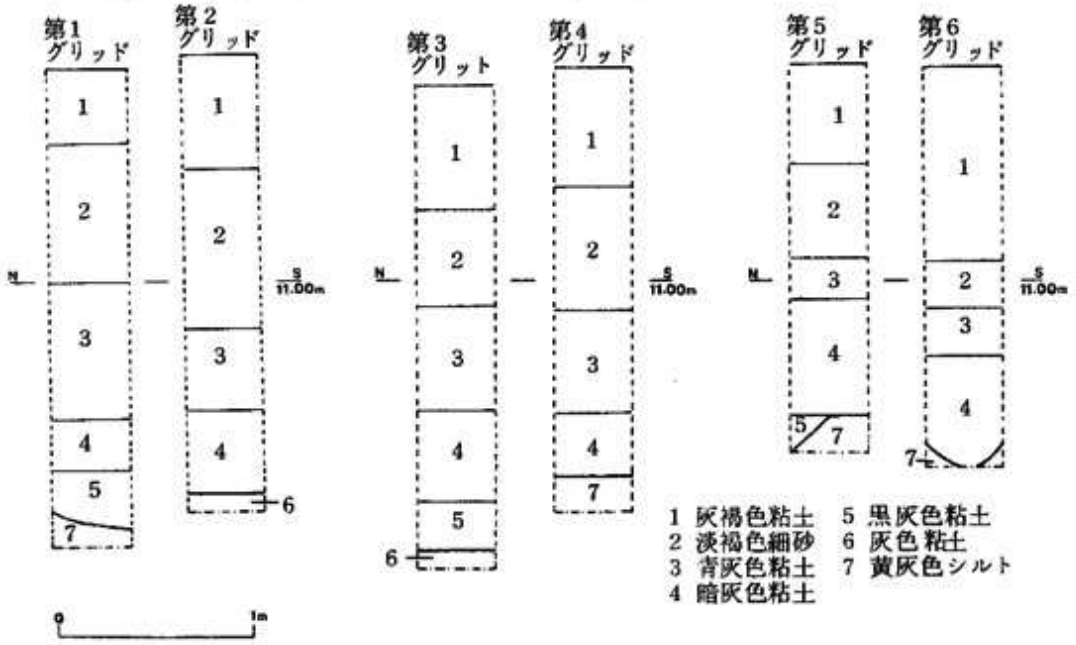
粘土、第７層　黄灰色シルトである。第３層～第５層までは古墳時代～弥生時代の遺物包含層である。第３層は須恵器片を含む。この層上面ではＴＰ10.8～11.2ｍを測る。第４層は植物遺体、弥生時代中期の土器を多く含む。第５層は弥生時代中期の遺構の埋土と思われる。第４層または第５層の下に堆積する第６層または第７層上面が弥生時代の地山面となる。この面は調査地北東隅の第７グリッドでＴＰ10.3ｍを測り、南西隅の第２グリッドでＴＰ9.8ｍを測る。若干の北高差が存在するものの面的にはほぼ同一であり、溝・ピット・土坑などの遺構が存在する。以下、グリッドごとの概要を記述する。

第１グリッド　現地表下1.2ｍで遺物包含層に達し、第３層以下から土器の細片が出土した。現地表下2.4ｍのグリッド南西隅の落ち込み状遺構に第５層が堆積し、第Ⅱ様式の壺の口縁部（１２７・１３０）が出土した。

第２グリッド　現地表下1.4ｍで青灰色粘土層に達する。以下0.8ｍの間、弥生時代の土器片が出土した。遺物を包含する最下層は第４層で、ここからは弥生時代中期の甕の比較的大きな破片が出土した。遺物は他に壷（１３２）が出土した。

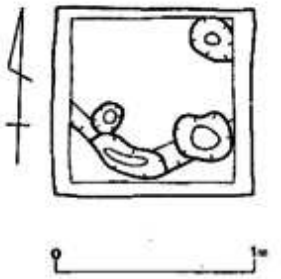
第３グリッド　現地表下1.1ｍで遺物包含層に達する。上層の第３層には須恵器・土師器・弥生土器の破片が含まれる。下層の第４層内には植物遺体が多い。最下層の第５層と地山である第６層との間には弥生時代中期がまとまって出土した。遺物は甕（１４１）、器種不明の底部（１３９）が出土した。

第４グリッド　現地表下３ｍで遺物包含層に達する。第３層内には須恵器、土師器、弥生土器の細片が含まれる。この下層の第４層内には弥生時代中期の土器が細片で含まれる程度である。遺物は壷（１３６）が出土した。



第15図　第１～第６グリッド土層断面模式図（Ｓ＝1/40）

第5グリッド　最初に掘削した試掘坑で、現地表下1mで遺物包含層に達し、以下80cmが包含層であることを確認した。第3層には須恵器が含まれており、第4層から弥生土器が出土し、地山である第7層上面には遺構状の落込みが存在することを確認した。

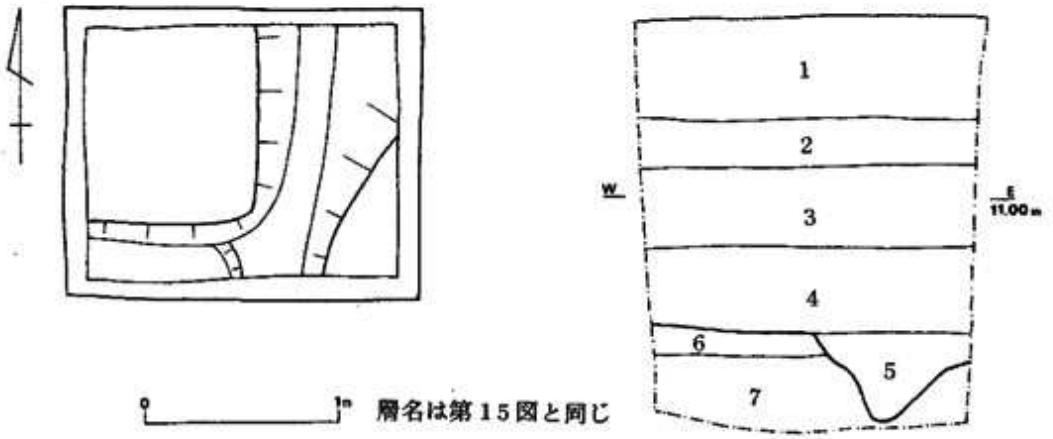


第16図 第6グリッド平面図（S＝1／40）

第6グリッド（第16図、図版2）　現地表下1.2mで遺物包含層に達する。他トレンチと同様第3層には須恵器・土師器・弥生土器の細片が含まれており、第4層には弥生時代中期の土器を含む。現現地表下1.9mで地山である第7層上面に達し、地山面には4ケ所のピットが掘り込まれていた。ピットの径は約20cm大で、深さは25～50cmである。遺物は壷（135）が出土した。

第7グリッド（第17図、図版2）　現地表下0.8mで遺物包含層に達する。現地表下1.6mで地山である第6層に達し、地山面で幅60～70cm、深さ40cmのL字状に曲る溝を検出した。このうち、南西隅部分は井戸状に深く落ち込み、深さ70cm以上を測る。これらの遺構内には第5層が堆積し、弥生時代中期の遺物が出土した。出土遺物には壷（133）、鉢（144）、器種不明の底部（142）、砂岩製の砥石（146）がみられる。

第8グリッド（第18図、図版3）　現地表下0.7mで遺物包含層に達する。第3層は比較的厚く、80cmを測り、下部には須恵器を含む。第4層の最上部から第Ⅳ様式と思われる壷の口縁部（134）が出土した。さらに第4層中、現地表から約1.6mで弥生時代中期の土器棺（第19・20図、図版13）が検出された。この土器棺は甕（126）を横位に埋置し、口を壷の胴部破片（125）で蓋をしたものであるが、土層断面で棺の掘り方等を確認することはできなかった。甕は第Ⅲ～第Ⅳ様式に属する生駒西麓産のもので、壷は沖積地の胎土をもつ。さらに現地表下2.1mの第4層と第5層の境に径25cm大の閃緑岩の石材が検出された。この石材の上に



層名は第15図と同じ

第17図　第7グリッド平面図・土層断面図（S＝1／40）

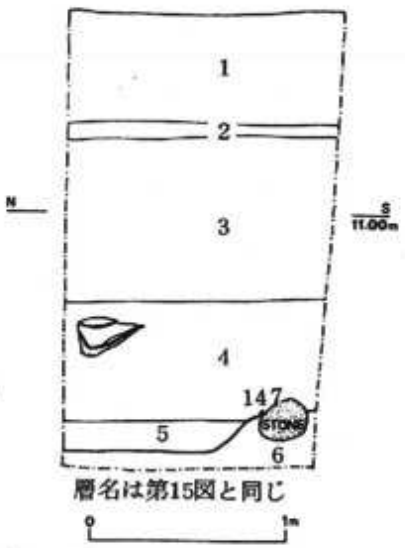
貼りついた状態で、緑色凝灰岩製の石製品（147）が検出された。さらにこの石材基底直下の第5層中より第Ⅰ様式と思われる壺の破片（137）が出土した。他に遺物は壺（128・129・131）・甕（140）・器種不明の底部（143）、サヌカイト製の石器（145）が出土した。

3. ま と め

今回の調査によって良好な遺物包含層及び遺構を確認することができた。調査時期や予算上の制約の為、面的な調査ができなかったことが悔やまれるが、当調査地が従来の恩智遺跡の調査の中では最西端に位置する為、ここで発見された遺構・遺物により、当遺跡の西限が従来考えられていたよりもかなり西側の、旧大和川河川敷の直下にまで至ることが予想された。当調査地の東80mを流れる恩智川改修時の瓜生堂遺跡調査会による調査でも、この付近に最も遺構が密集していたことが確認されている。あわせて、当調査地の調査は恩智遺跡の居住域の推定に貴重な資料を提供したものといえよう。

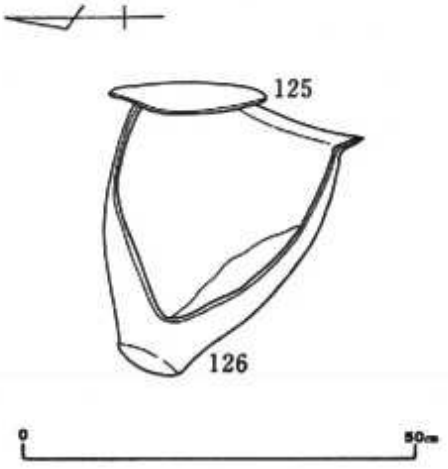
（米田）

注1　山本　昭・泉本知秀・福岡澄男「八尾市恩智遺跡の出土遺物について」『大阪文化誌』第2巻1号（1976）
2　瓜生堂遺跡調査会「恩智遺跡Ⅰ，Ⅱ」（1980）
瓜生堂遺跡調査会「恩智遺跡Ⅲ」（1981）

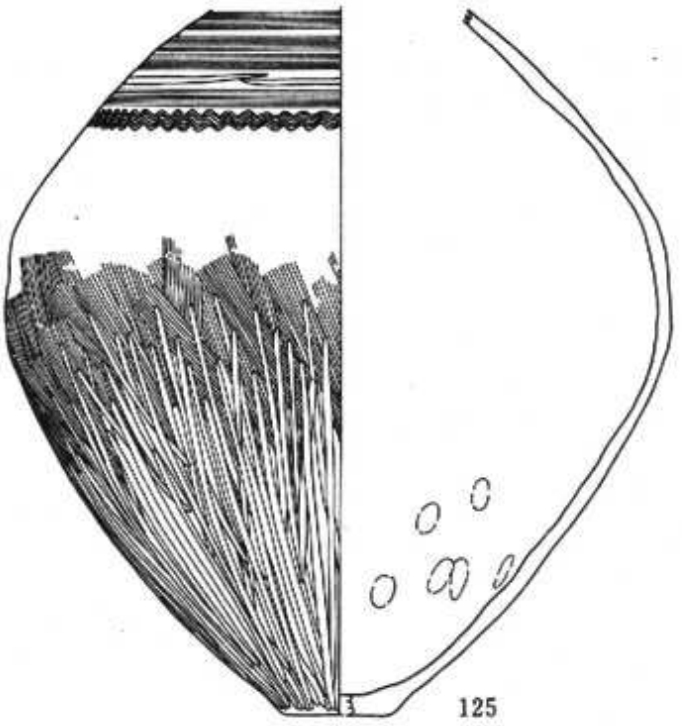


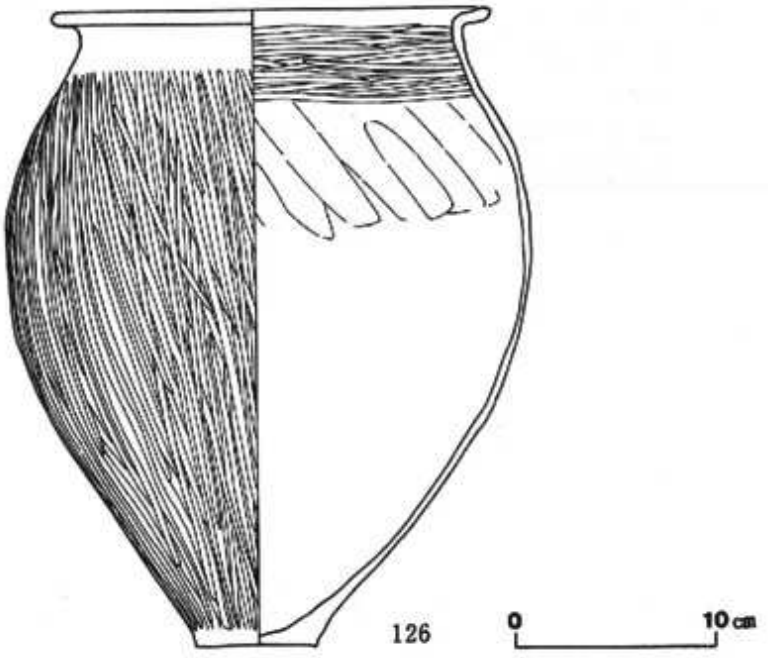
層名は第15図と同じ

第18図　第8グリッド土層断面図
（S＝1／40）

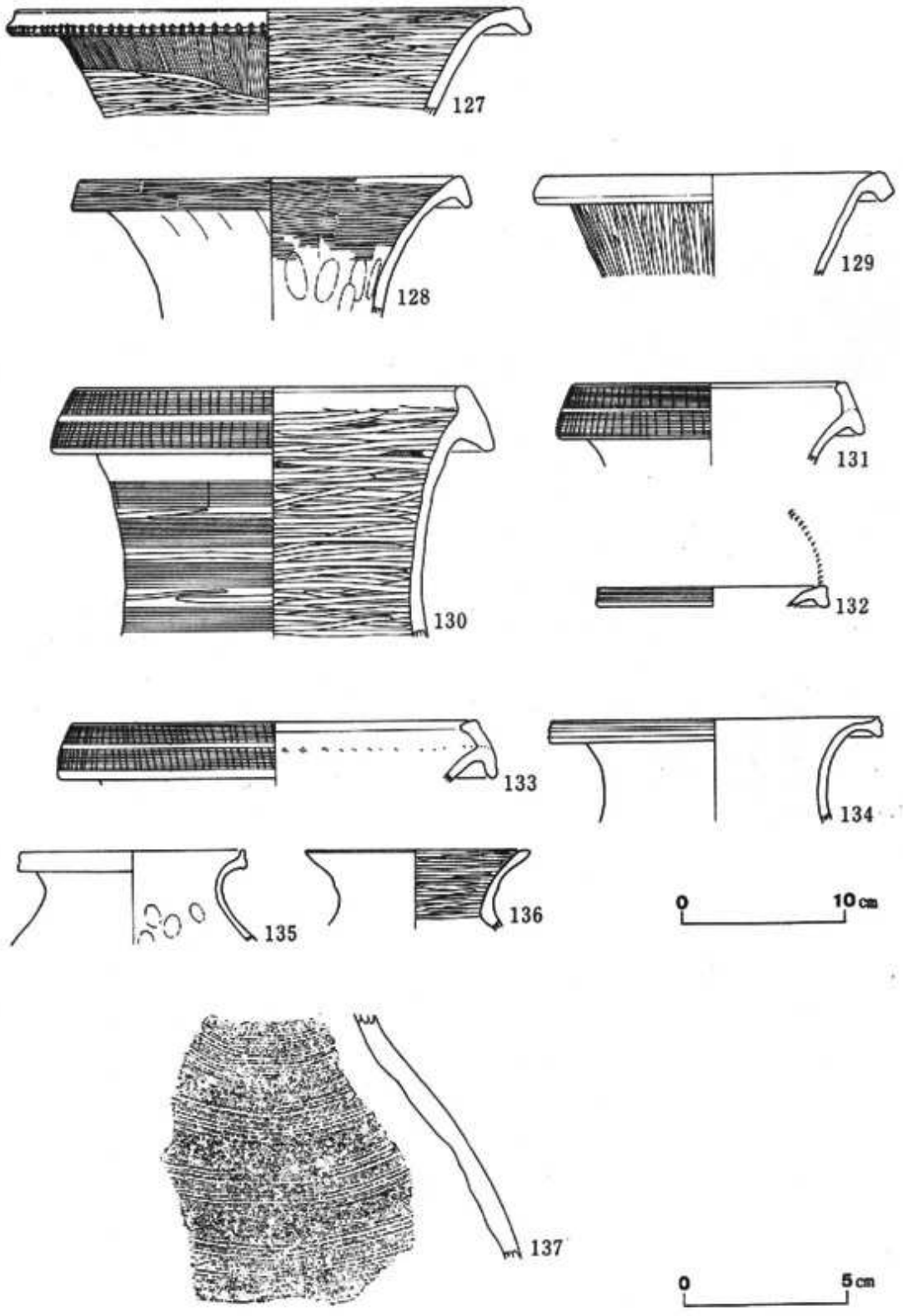


第19図　第8グリッド甕棺出土状況
（S＝1／10）

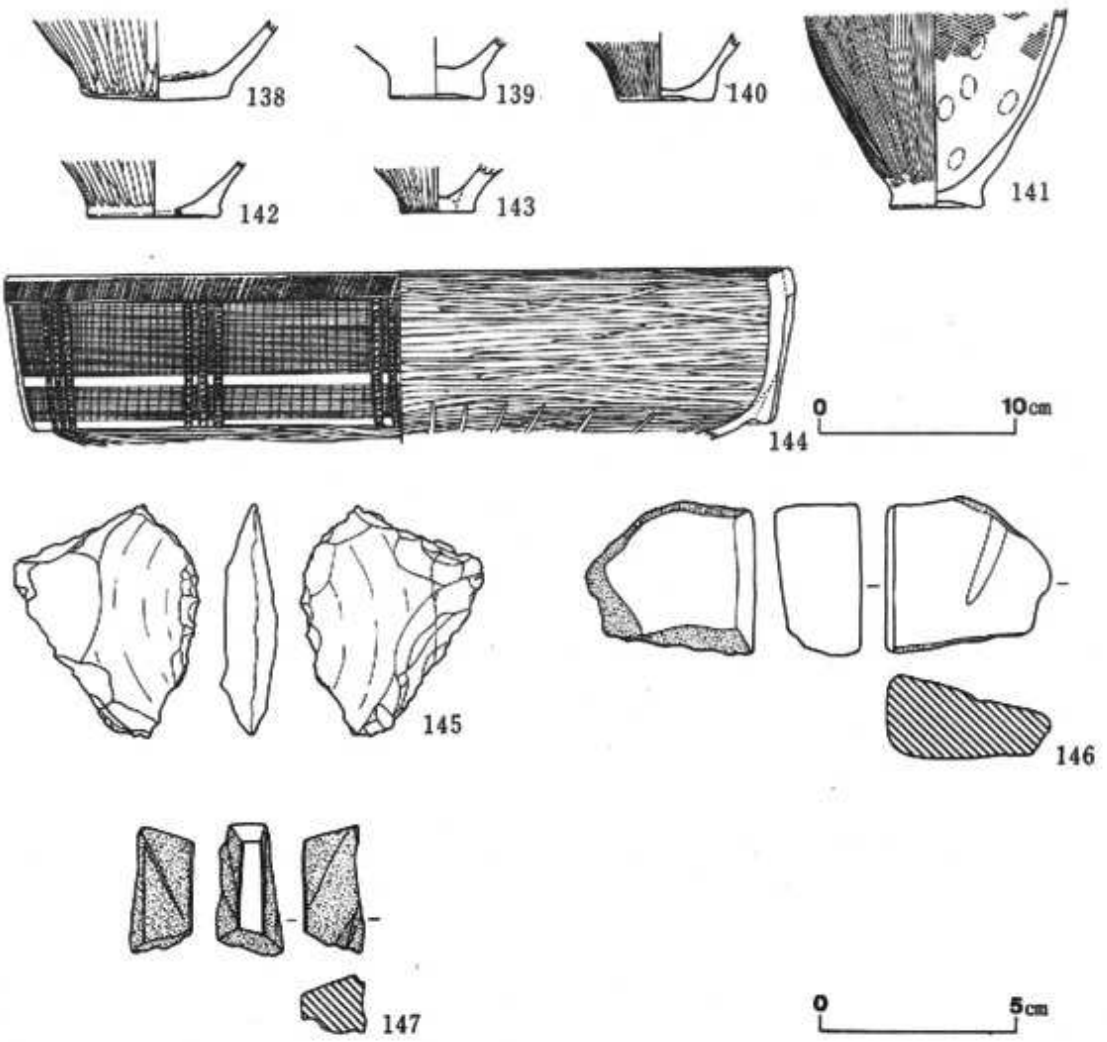




第20図　第8グリッド出土甕棺（S＝1/4）



第21図　第1～第8グリッド出土遺物[1]（S=1/4.1/2）



第22図　第1～第8グリッド出土遺物〔2〕（S＝1/4 .1/2）

第3表　恩智遺跡〈恩智中町1丁目77−2〉出土遺物観察表

第8グリッド出土遺物

遺物番号（図版）	器種	法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
125	壺	推定底径 5.0(1/5)	外面 胴部上半はハケののち、ナデ。3条以上の櫛描直線文（10本/1.1cm）と1条の櫛描波状文（10本/1.1cm）。櫛描文間に1条のヘラミガキ。胴部下半はハケののち、ヘラミガキ。 内面 指押さえ、ナデ。	淡黄橙色。 白色砂粒、雲母を微量含む。	焼成良好。 胴部下半外面に黒斑。
126（図版13）	壺	口径 20.2(完存) 器高 32.7 底径 6.4	外面 口縁部はヨコナデ。胴部はヘラミガキ。底部はヨコナデ。 内面 口縁部はヨコナデ。胴部上半はヘラナデののちヘラミガキ。胴部下半〜底部はナデ。	暗褐色。 生駒西麓の粘土。白色砂粒、角閃石、雲母を少量含む。	焼成良好。 胴部下半〜底部外面に煤が付着。
第1〜第8グリッド出土遺物					
127	皿	推定口径 31.0(1/5)	外面 口縁部はヨコナデののち、端部にヘラ状工具によるキザミメ。頸部はハケののち、ヘラミガキ。 内面 ヘラミガキ。	灰黄色。 生駒西麓の粘土。白色砂粒、雲母、角閃石を少量含む。	焼成良好。 第1グリッド。
128	壺	推定口径 23.4(1/4)	外面 口縁部はハケ。頸部はヘラナデ。 内面 口縁部は指押さえののち、ハケ、ナデ。	外、内面は灰黄色〜明赤褐色。断面は灰黄色。 生駒西麓の粘土。白色砂粒、雲母、角閃石を少量含む。	焼成良好。 外、内面ともに二次焼成のため赤色化。 第8グリッド。
129	壺	推定口径 20.8(1/2)	外面 口縁部はヨコナデ。頸部はヘラミガキ。 内面 口縁部はヨコナデ。	黒褐色。 生駒西麓の粘土。雲母、角閃石、白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 口縁部外面の一部に黒斑。 第8グリッド。
130（図版13）	壺	推定口径 24.2(1/4)	外面 口縁部はヨコナデののち、2条の櫛描波状文（14本/1.7cm）。頸部は4条以上の櫛描直線文（14本/1.7cm）施文ののち、櫛描文間に1条のヘラミガキ。 内面 口縁部はヘラ状工具による押圧ののち、ヨコナデ。頸部はハケののち、ヘラミガキ。	黒褐色。 生駒西麓の粘土。白色砂粒、角閃石、雲母を少量含む。	焼成良好。 口縁部〜頸部外面の一部に黒斑。 第1グリッド。
131	鉢	推定口径 16.8(1/6)	外面 ヨコナデののち、口縁部は2条の櫛描波状文（12本/1.6cm）。 内面 ヨコナデ。	にぶい黄橙色。 白色砂粒、角閃石、雲母を少量含む。	焼成良好。 口縁部端面に黒斑。 第8グリッド。
132	鉢	推定口径 14.2(1/6)	外面 口縁部は凹線文。 内面 ヨコナデののち、半円形竹管文。	外面はにぶい褐色。内面は灰黄色。断面は黄灰色。 白色砂粒、角閃石、雲母を微量含む。	焼成良好。 口縁部端面は二次焼成のため赤色化。 第2グリッド。
133	鉢	推定口径 25.0(1/6)	外面 口縁部はヨコナデののち、2条の櫛描波線文（9本/1.3cm）。頸部はヨコナデ。 内面 ヘラ状工具による押圧ののち、ヨコナデ。	外、内面はにぶい赤褐色〜黒色。断面は灰色。 生駒西麓の粘土。白色砂粒、角閃石、雲母を少量含む。	焼成良好。 外、内面ともに二次焼成のため赤色化。 第7グリッド。
134	鉢	推定口径 20.2(1/6)	外面 口縁部端面は凹線文。頸部はナデ。 内面 ナデ。	にぶい黄橙色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 第8グリッド。
135	鉢	推定口径 13.8(1/6)	外面 ヨコナデ。 内面 口縁部はヨコナデ。胴部は指押さえののち、ナデ。	黄灰色。 生駒西麓の粘土。雲母角閃石、白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 口縁部〜胴部外面に煤が付着。 第6グリッド。
136	鉢	口径 13.6(完存)	外面 磨耗のため不明。 内面 口縁部はヘラミガキ。胴部はナデ。	灰黄色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 第4グリッド。

遺物番号（図版）	器種	法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
137	壺		外面　4条以上の櫛描波状文（13本/1.3cm）施文ののち、櫛描文間に1条のヘラミガキ。 内面　指押さえののち、ハケ。	外面は灰色～茂黄色。 内、断面は黒褐色。 生駒西麓の粘土。角閃石、雲母、白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 第8グリッド。
138	?	底径　7.4(1/5)	外面　胴部はヘラミガキ。底部はナデ。 内面　胴部はナデ。底部は指押さえののち、ナデ。	外面は灰白色～黒色。 内、断面は灰白色。 白色砂粒、雲母、角閃石を微量含む。	焼成良好。 胴部～底部外面に黒斑。 第8グリッド。
139	?	底径　4.8(完存)	外面　ナデ。 内面　ナデ。	外面は灰黄色～灰色。 内面は灰黄色。断面は灰色。 生駒西麓の粘土。白色砂粒、角閃石、雲母を少量含む。	焼成良好。 胴部外面の一部と底部全面に煤が付着。 第3グリッド。
140	壺	底径　4.2(完存)	外面　胴部はハケ。底部はナデ。 内面　ナデ。	灰黄褐色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 胴部～底部外面に黒斑。 第8グリッド。
141	鉢	底径　4.8(完存)	外面　胴部はハケ。底部はナデ。 内面　指押さえののち、ハケ、ナデ。	にぶい黄褐色。 生駒西麓の粘土。角閃石、雲母、白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 外面全面に煤が付着。 第3グリッド。
142	?	推定底径　6.6(1/4)	外面　胴部はヘラミガキ。底部はヨコナデ。 内面　ナデ。	外、断面は灰黄褐色。 内面は黒色。 生駒西麓の粘土。雲母、角閃石、白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 第7グリッド。
143	?	推定底径　3.8(1/4)	外面　胴部はヘラミガキ。底部はナデ。 内面　ナデ。	外、内面は赤褐色～灰白色。断面は暗緑灰色。 雲母、白色砂粒を微量に含む。	焼成良好。 体部外面の一部に煤が付着。 第8グリッド。
144	鉢	推定底径　39.6(1/6)	口縁部端面は貼り付け。 外面　口縁部端面は斜方向の櫛描列点文。体部は2条の櫛描波状文（31本/3.5cm）施文ののち、棒状工具による押圧をもつ推定15組（3本1組）の棒状浮文貼り付け。 内面　ヨコヘラミガキののち、タテヘラミガキ。	灰黄色。 生駒西麓の粘土。角閃石、雲母、白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 体部外面の一部に煤が付着。 第7グリッド。

3. 跡部遺跡の調査〈安中町３丁目52－2〉

第23図　調査地位置図（S=1/5000）

1. 調査経過

今回の調査は　　のビジネスホテル建設に伴って実施された。調査地は跡部本町２丁目の調査地の東方約１Kmに位置しており、調査地の北東約140 mの地点では長瀬川が南東から北西方向に流れている。

調査は建物基礎部分に25m×5mの調査区を設定し、盛土部分約1mを機械掘削した後、1mの内法をつけ、23m×3mを手掘りした。

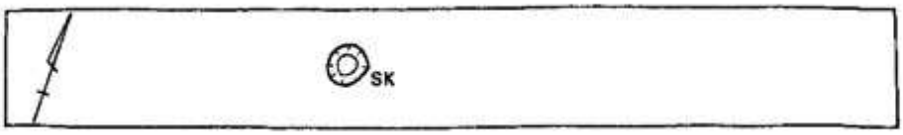
2. 調査概要

調査地の基本土層は第26図に示すとおりである。現地表下約1mまで盛土で、その下には第1層耕土、第2層　褐灰色粘土、第3層　灰色粘土、第4層　青灰色シルトの順で堆積が確認された。遺物は調査区の西半部に集中しており、第2層下部には瓦が含まれており、第3層には土師器、須恵器など古墳時代の遺物が含まれていた。遺構はTP6.9m前後の第4層上面で検出された。検出された遺構は土坑1である。(第25図、図版4)

第24図　調査区設定図（S=1/800）

土　坑（SK）　調査区中央付近で検出されたもので、平面形は円形を呈す。現存径1.0 m、深さ0.2mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、土坑内には灰青色シルト質粘土が堆積する。遺物は弥生土器壷？（148）、土師器高坏（149・150）・製塩土器（151）、須恵器蓋坏（152～159・161～163）・高坏（160・164）・甕（165）が出土した。弥生土器の混入がみられ、また須恵器の所属時期に多少のばらつきが認められるが、出土遺物は概ね古墳時代の5世紀末～6世紀前半に属するものであろう。

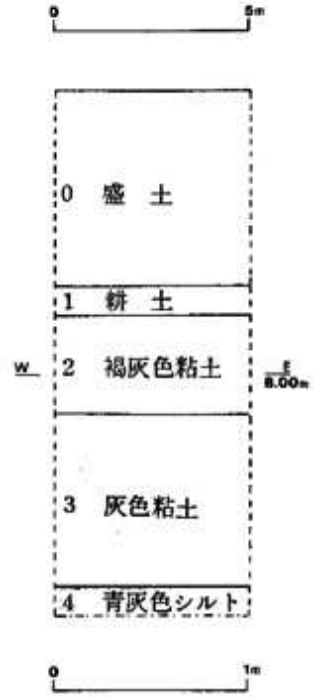
遺構に伴わない遺物　第3層から弥生土器壷（166）・甕（167・168）、土師器甕（169・170）・鉢（171・172・173）・高坏（174～176）・甑（177）・製塩土器（178～181）、土製品（184）、円筒埴輪（185）、須恵器蓋坏（186～203）・高坏（204～208）、短頸（209・210）・壷（211・213）・鉢？（214）・器台（215・216）・甕（217～224）、器種不明のもの（212）、木製品（225）、獣骨、馬歯などが出土した。土師器・



第25図　調査区平面図（S=1/200）

須恵器は5世紀末～6世紀代に属するものである。主に調査区の西半部で出土した。木製品は調査区の西壁付近で出土した。途中で折損しているが、一端が削って尖らされていることより、杭であると思われる。針葉樹である。獣骨は馬の上腕骨で、馬歯とともに調査区中央北壁付近で出土した。(注1)

また、古墳時代の遺物が含まれる第3層の上層の第2層下部からは瓦が出土した。いずれも平瓦で、二次焼成を受けて煤が付着したもの（226・229・230）がみられる。凸面の調整には①タテ方向とヨコ方向の縄目タタキをもつもの（226）、②タテ方向の縄目タタキをもつもの（227～232）、③タテ方向の縄目タタキを施したのち、ナデ調整を施すもの（233・234）の3種類がみられる。226は側面に布目痕が残存することから、一枚作りによって製作されたものであると思われる。軒丸瓦・軒平瓦は出土しておらず、詳細な所属時期は不明であるが、奈良時代～平安時代に属するものであろう。



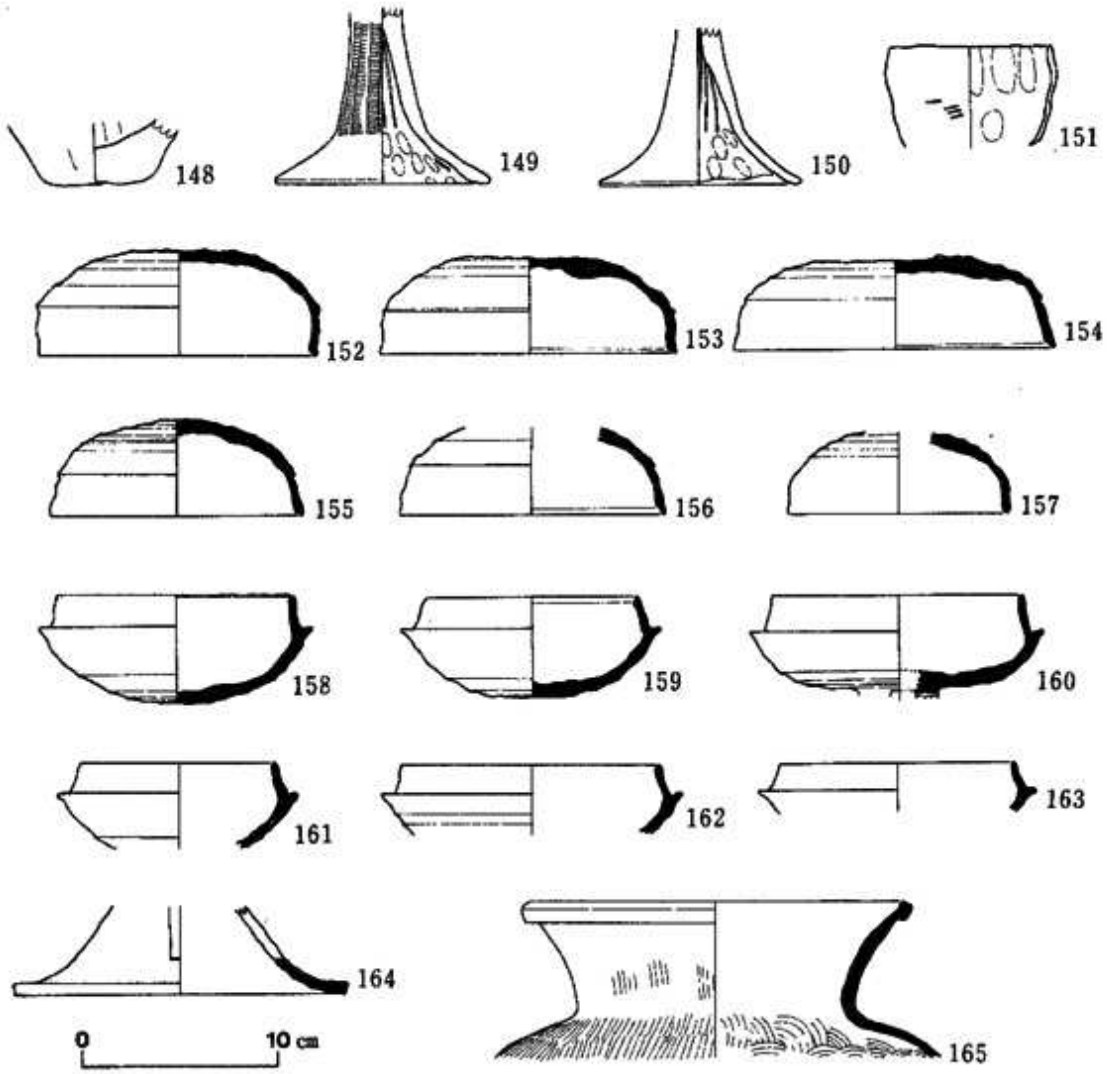
第26図　土層断面模式図
（S=1/40）

3. ま と め

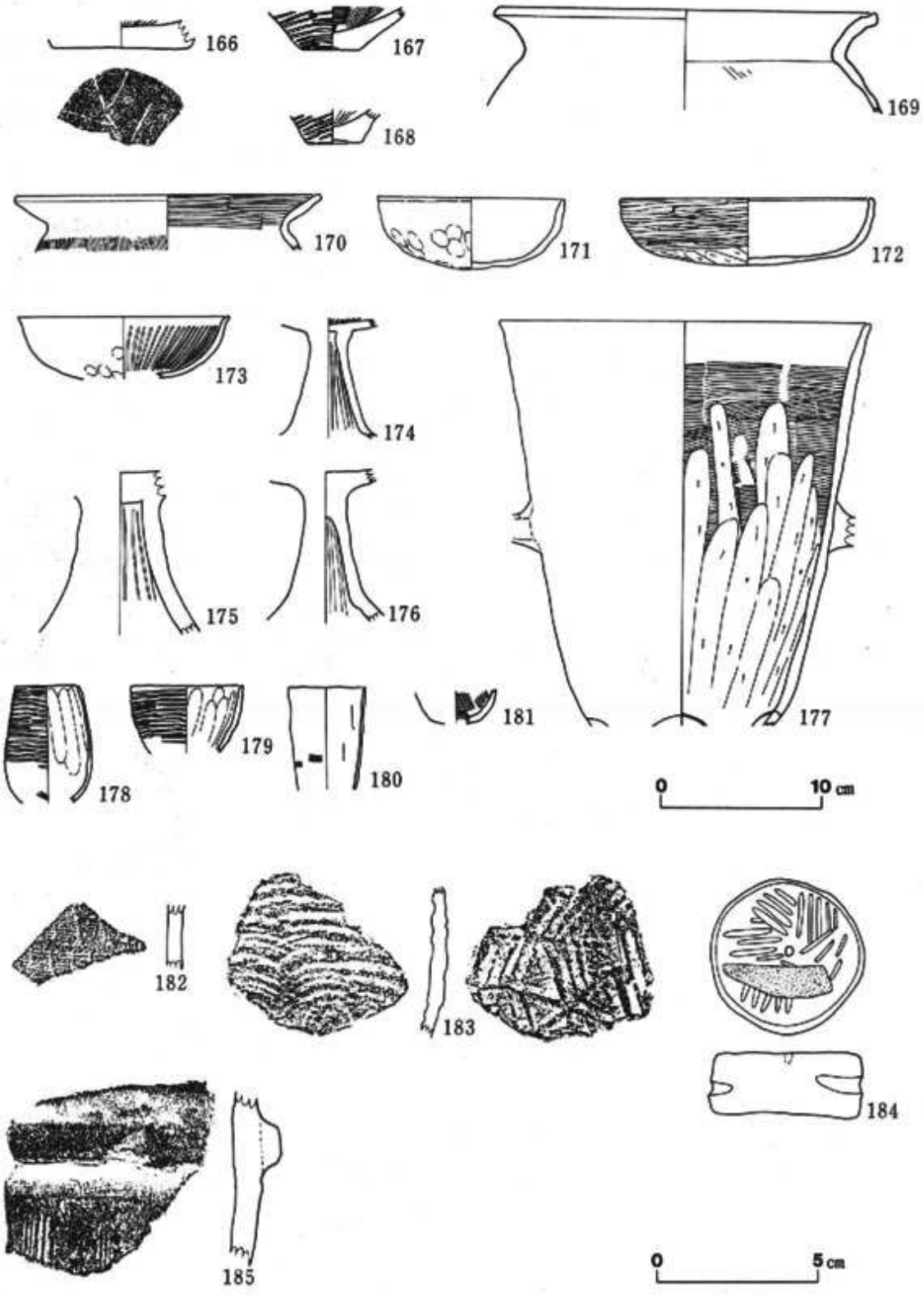
今回の調査地では6世紀代を中心とする遺物包含層、遺構を確認することができた。現在、調査地の北東約140mには長瀬川が流れており、調査地の東方約80mにあたる富士紡績工場の南東側の道路下では工事中の立会調査で現地表下3m以上にわたる砂の堆積が確認されている。以上より、今回の調査地は跡部遺跡の最東部の地点であると考えられる。

（嶋村）

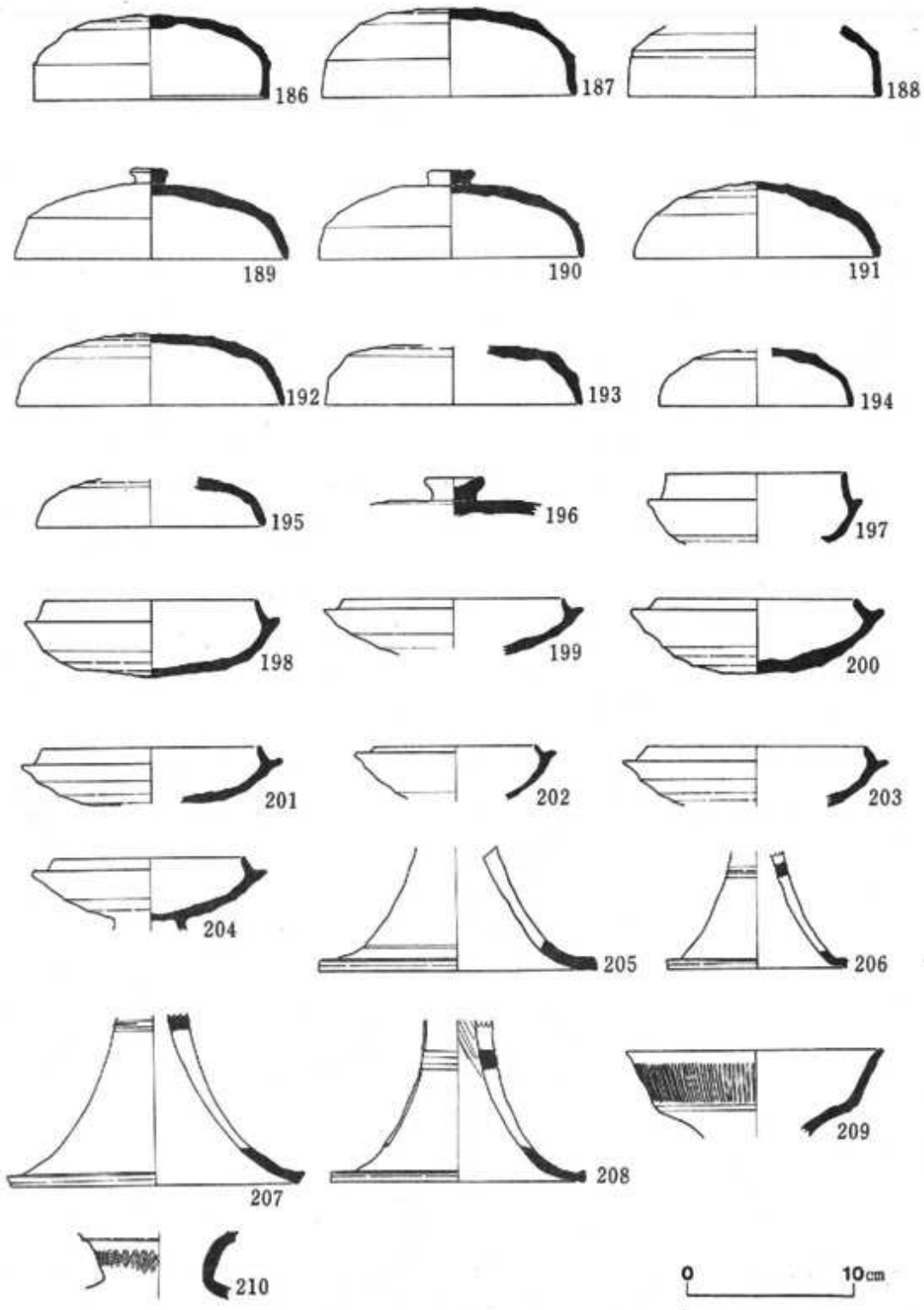
注1　宮崎泰史氏のご教授による。



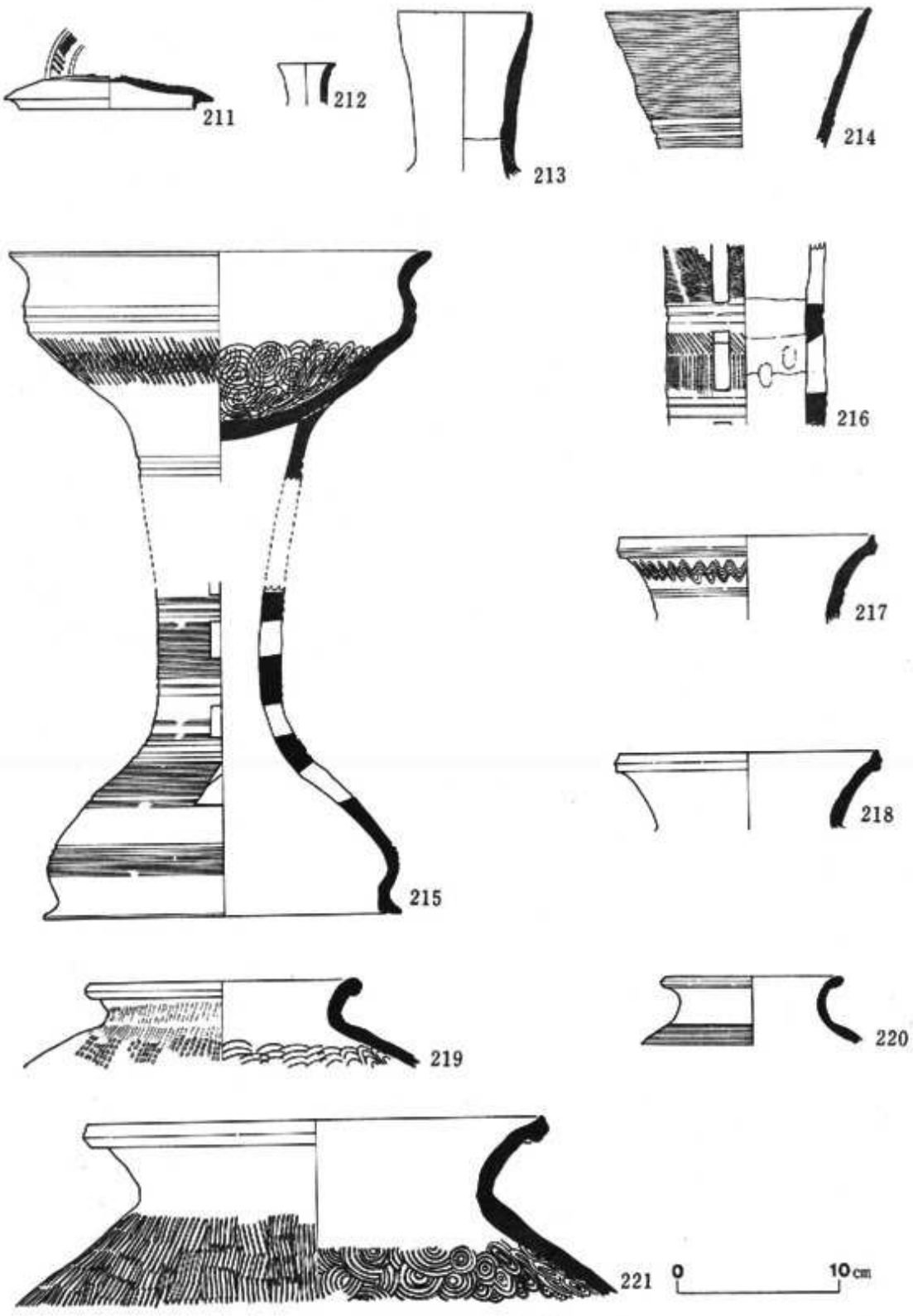
第27図　土坑（SK）出土遺物（S＝1／4）



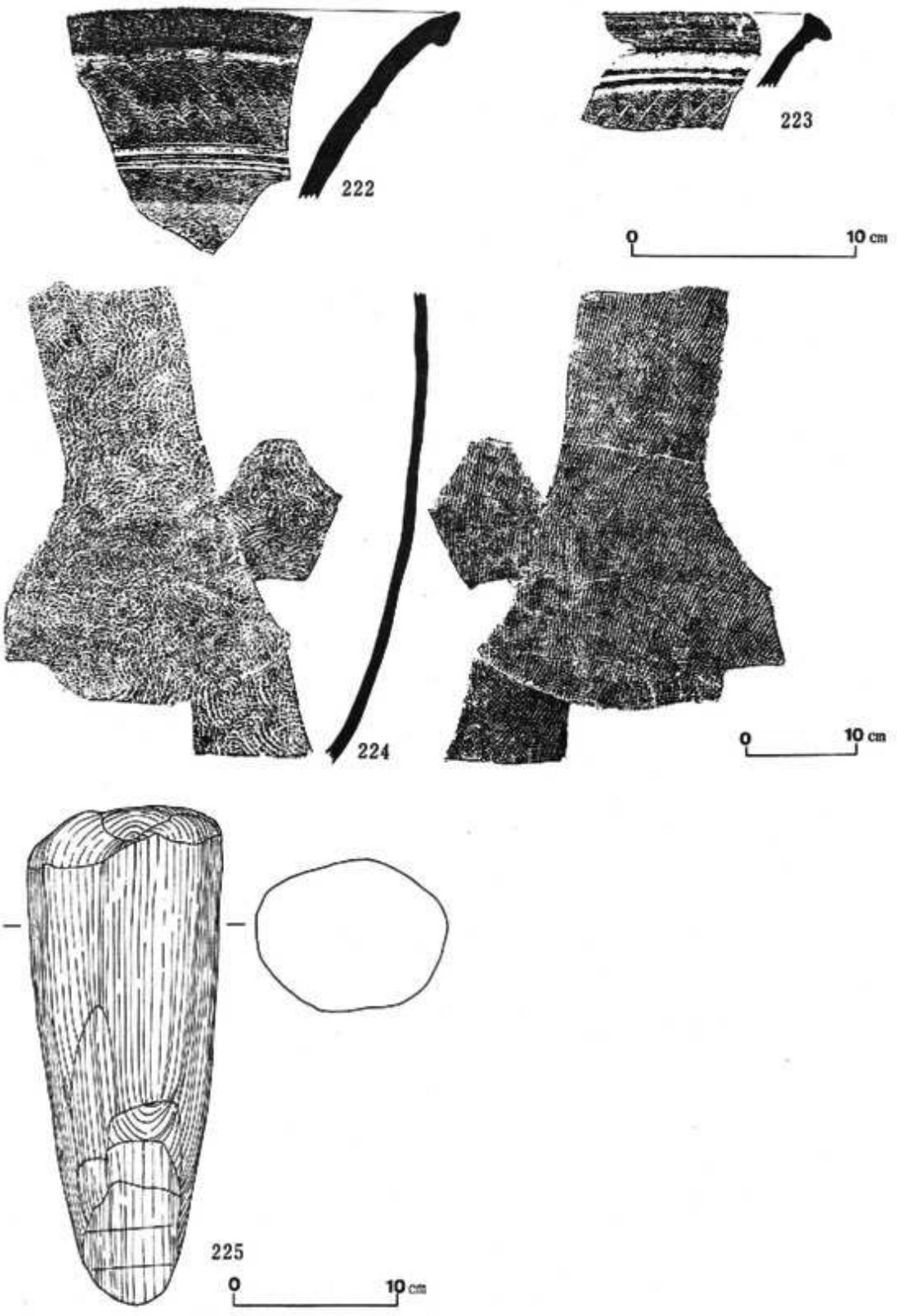
第28図　遺構に伴わない遺物〔1〕（S＝1/4・1/2）



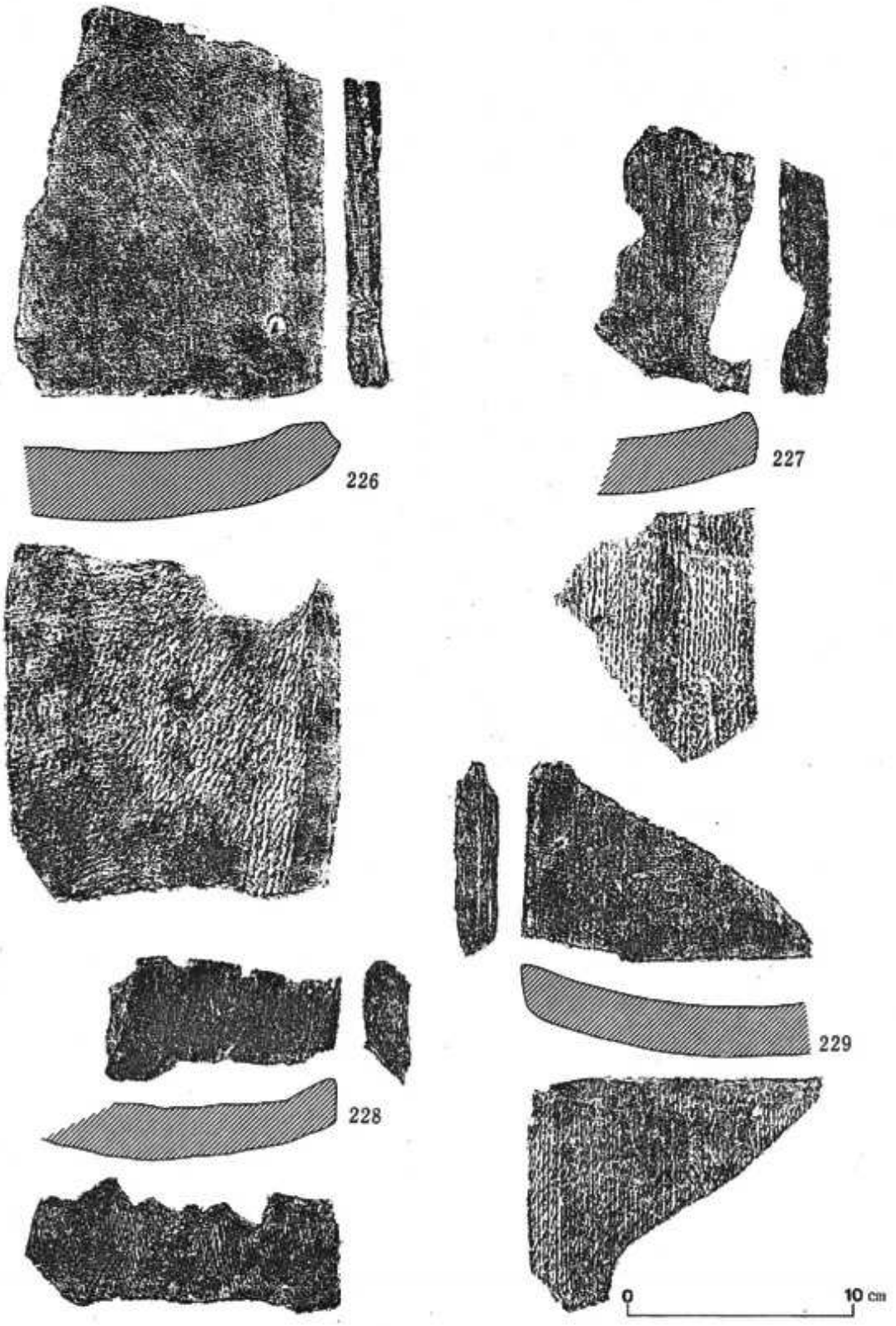
第29図　遺構に伴わない遺物[2]（S＝1/4）



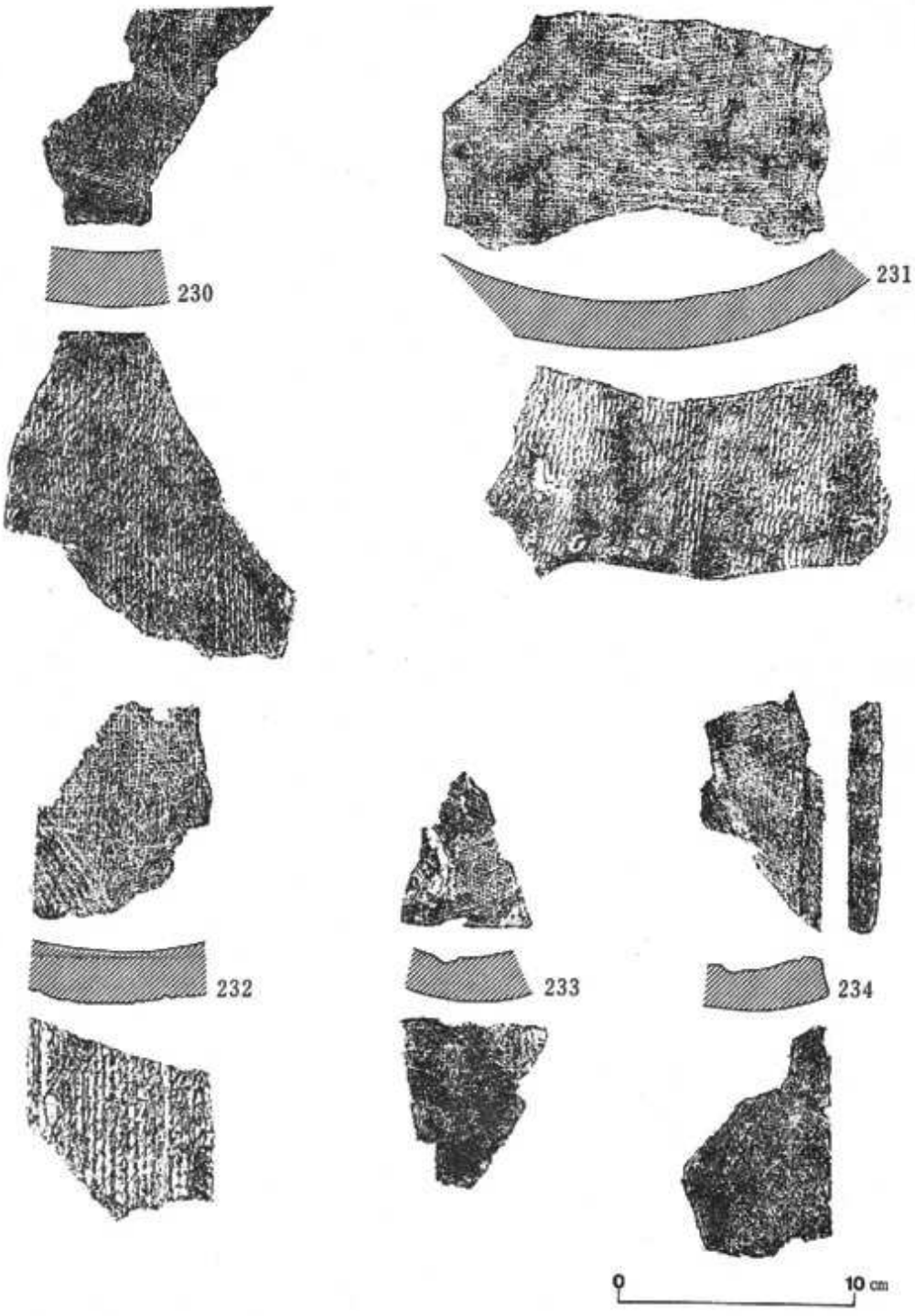
第30図　遺構に伴わない遺物〔3〕（S＝1/4）



第31図　遺構に伴わない遺物[4]（S=1/3.1/6.1/4）



第32図　遺構に伴わない遺物[5]（S＝1/3）



第33図　遺構に伴わない遺物[6]（S=1/3）

第4表　跡部遺跡〈安中町3丁目52−2〉出土遺物観察表

土坑（SK）出土遺物

遺物番号（図版）	器種		出土量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
148	弥生土器	壺？	底径　5.7(完存)	外面　ヘラナデ。 内面　ヘラナデ。	外面は灰黄色。内面は黄灰色。断面はにぶい橙色。 白色砂粒、雲母、角閃石を少量含む。	焼成良好。
149	土師器	高坏	推定脚底径 11.2（1/2）	外面　脚柱部はハケ。脚裾部は磨耗のため調整不明。 内面　脚柱部にしぼりめ残存。脚裾部は指押さえ、ナデ。	灰黄色。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。脚裾部の一部に煤が付着。
150	土師器	高坏	推定脚底径 11.2（1/2）	外面　ナデ。 内面　脚柱部にしぼりめ残存。脚裾部は指押さえ、ナデ。	にぶい橙色。 白色砂粒、雲母を微量含む。	焼成良好。外、内面の一部に煤が付着。
151	土師器	製塩土器	推定口径　8.2(1/5)	外面　タタキ（4本/1cm）ののち、ナデ。 内面　指押さえ、ナデ。	にぶい黄橙色。 白色砂粒、雲母を微量含む。	焼成良好。二次焼成のため一部赤色化。
152 （図版13）	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径　14.2(3/5) 器高　5.0 天井部高　3.0	外面　回転ナデののち、天井部の1/3は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面　天井部中央は不定方向のナデ。他は回転ナデ。	灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。口縁部外面の一部に煤が付着。
153 （図版13）	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径　15.2(1/5) 器高　5.0 天井部高　2.8	外面　回転ナデののち、天井部の1/3は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面　回転ナデ。	暗青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
154 （図版14）	須恵器	蓋坏(蓋)	破（1/4） 推定口径　16.4 器高　4.5 天井部高　2.0	外面　回転ナデののち、天井部の1/3は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面　回転ナデののち、天井部中央は不定方向ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。天井部外面に粘土が付着。天井部外面の上部に自然釉が付着。
155	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径　13.2(1/4) 器高　5.1 天井部高　2.9	外面　回転ナデののち、天井部の1/2は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面　回転ナデののち、天井部中央は不定方向のナデ。同心円タタキ。	暗青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。口縁部外面の一部に煤が付着。
156	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径　13.6(1/5)	外面　回転ナデののち、天井部の一部は回転ヘラケズリ（右回り）。 内面　回転ナデ。	暗青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
157	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径　11.4(1/5)	外面　回転ナデののち、天井部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面　回転ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。天井部外面の一部に灰をかぶる。
158	須恵器	蓋坏(身)	推定口径　12.2(3/4) 器高　5.3 たちあがり高 1.7	外面　回転ナデののち、底体部の1/3は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面　回転ナデ。	暗灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。底体部上半からたちあがり部外面の一部に灰をかぶる。
159	須恵器	蓋坏(身)	推定口径　11.2(3/5) 器高　5.2 たちあがり高 1.7	外面　回転ナデののち、底体部の1/3は回転ヘラケズリ（左回り） 内面　回転ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。受部外面、たちあがり部内面の一部に煤が付着。
160	須恵器	高坏	推定口径　12.8(1/5) たちあがり高 2.0 坏部高　4.8	脚部に推定4方向の方形スカシ。 外面　回転ナデののち、底体部の1/3は回転ヘラケズリ（右回り） 内面　回転ナデ。	暗青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
161	須恵器	蓋坏(身)	推定口径　10.0(1/4) たちあがり高 1.6	外面　回転ナデののち、底体部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面　回転ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
162	須恵器	蓋坏(身)	推定口径　12.0(1/4) たちあがり高 1.7	外面　回転ナデののち、底体部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面　回転ナデ。	暗灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。底体部外面に灰をかぶる。
163	須恵器	蓋坏(身)	推定口径　12.4(1/4) たちあがり高 1.4	外面　回転ナデ。 内面　回転ナデ。	暗青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。受部外面に灰をかぶる。

遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
164	須恵器	高杯	推定脚底径 6.8(1/4)	脚部に推定4方向の方形スカシ。 外面 回転ナデ。 内面 回転ナデ。	外、断面は青灰色。 内面は灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
165	須恵器	壺	推定口径 20.0(1/4)	外面 平行タタキ（4本/1cm）ののち、回転ナデ。 内面 同心円タタキ（4本/1cm）ののち、回転ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
遺構に伴わない遺物						
166	弥生土器	壺	推定口径 8.8(1/4)	外面 底部に木葉痕が残存。 内面 ハケ。	外面は黄灰色。 内面は灰白色。 白色砂粒を少量含み、雲母を微量含む。	焼成良好。 外面に煤が付着。
167	弥生土器	甕	底径 3.6(完存)	外面 胴部はタタキ（4本/1cm）。底部はナデ。 内面 ハケ。	外面は浅黄橙色～灰白色～黒褐色。 内面は浅黄橙色。 断面は灰白色。	焼成良好。 胴部～底部外面に煤が付着。
168	弥生土器	甕	底径 3.4(完存)	外面 胴部はタタキ（4本/1cm）。底部ナデ。 内面 ヘラナデ。	外面は淡赤橙色。 内、断面はにぶい橙色。	焼成良好。 外面は二次焼成のため赤色化。
169	土師器	甕	推定底径 24.0(1/4)	外面 口縁部はヨコナデ。胴部はヘラナデ。 内面 口縁部はヨコナデ。胴部はハケののち、ヘラナデ。	橙色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
170	土師器	甕	推定口径 19.2(1/4)	外面 ハケののち、口縁部はヨコナデ。 内面 口縁部はハケ。胴部はヘラナデ。	にぶい黄橙色。 白色砂粒・茶色砂粒・雲母を微量含む。	焼成良好。 口縁部外 内面の一部に煤が付着。
171（図版14）	土師器	鉢	推定口径 9.6(1/2)	外面 指押さえののち、口縁部はヨコナデ。 内面 口縁部はヨコナデ。その他はナデ。	外面は明赤灰色～淡橙色。 内、断面は淡橙色。	焼成良好。 外面の一部は二次焼成のため赤色化。
172（図版14）	土師器	鉢	推定口径 15.8(1/2) 器高 4.2	外面 ヘラケズリののち、底部以外はヘラミガキ。 内面 ナデ。	暗灰黄色。 白色砂粒を少量含み、雲母を微量含む。	焼成良好。 口縁部外面、口縁部～底部内面の一部に煤が付着。
173	土師器	鉢	推定口径 13.2(1/4)	外面 指押さえののち、口縁部はヨコナデ。 内面 ヨコナデののち、放射状ヘラミガキ。	浅黄橙色。 精良。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
174	土師器	高杯	脚柱部 （完存）	外面 杯部はヘラミガキ。脚柱部にしぼりめが残存。 内面 ハケののち、ナデ。	にぶい橙色。 精良。 白色砂粒を微微量含む。	焼成良好。
175	土師器	高杯	脚柱部 （完存）	外面 ナデ。 内面 脚柱部にしぼりめが残存。脚裾部はナデ。	外、内面は浅黄橙色。 断面は灰白色。	焼成良好。
176	土師器	高杯	脚柱部 （完存）	外面 ナデ。 内面 脚柱部にしぼりめが残存。	灰白色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
177	土師器	甑	推定口径 23.4(1/4)	把手は貼り付け。底部に推定4孔の円孔。 外面 口縁部はヨコナデ。他はナデ。 内面 ハケののち、口縁部はヨコナデ、胴部はヘラケズリ。	にぶい橙色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 胴部外面の一部に煤が付着。
178	土師器	製塩土器	推定口径 4.0(1/4)	外面 タタキ（3本/1cm）ののち、下半はナデ。 内面 ユビナデ。	外面ににぶい橙色～橙色。 内、断面は灰黄褐色。	焼成良好。 外面は二次焼成のため赤色化。
179	土師器	製塩土器	推定口径 7.0(1/4)	外面 タタキ（4本/1cm）ののち、下半はナデ。 内面 ユビナデ。	灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。

遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	成成・備考
180	土師器	製塩土器	推定口径 4.8(1/4)	外面 タタキ（5本／1cm）ののち、ユビナデ。 内面 ヘラナデ。	外面は淡赤橙色。 内、断面は淡橙色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 外面は二次焼成。のため赤色化。
181	土師器	製塩土器	底径 3.4(3/4)	外面 ナデ。 内面 ハケ。	にぶい黄橙色。 白色砂粒、雲母を微量含む。	焼成良好。
182	弥生土器	？		外面 2条以上の櫛描波状文（5本／1cm） 内面 ナデ。	暗灰黄色。 生駒西麓の粘土。 角閃石、白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。
183	土師器？	甑		外面 タタキ（タタキの単位不明）。 内面 同心円タタキ（4本／1cm）	外面は赤黒色。 内、断面は灰白色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 外面に煤が付着。 須恵器の生焼けか？
184（図版14）	土製品	？	径 4.8(完存) 高さ 1.9	側面に凹線（幅0.5cm）がめぐる。上面に径2cmの円孔。 上面 タタキ（4本／1cm）？。 下面 ナデ。	にぶい橙色～赤橙色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 上面上部欠損。 二次焼成のため一部赤色化。
185	埴輪	円筒埴輪	凸帯幅 1.2 凸帯高 0.6	外面 タテハケ；凸帯部のみヨコナデ。 内面 ヘラナデ。	外面は橙色。 内、断面は灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 土師質。
186	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径 14.2(1/4) 器高 3.1 天井部高 2.9	外面 回転ナデののち、天井部の1/3は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	外面は橙色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
187	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径 15.2(3/4) 器高 5.2 天井部高 3.0	外面 回転ナデののち、天井部の1/3は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
188	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径 15.2(1/3)	外面 回転ナデののち、天井部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 天井部外面の一部に松ヤニが付着。
189（図版14）	須恵器	蓋坏(蓋)	口径 16.4(3/4) 器高 5.9 天井部高 2.2	つまみは貼り付け。 外面 回転ナデ。 内面 回転ナデののち、天井部は不定方向のナデ。	外面は青灰色～黒色。 内、断面は青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 天井部～口縁部外面にかけて灰をかぶる。
190	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径 15.8(1/4) 器高 5.3 天井部高 2.5 つまみ高 2.8	つまみは貼り付け。 外面 回転ナデののち、天井部の2/3は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	外面は灰白～黒色。 内、断面は灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成不良。
191	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径 14.6(1/4) 器高 4.6	外面 回転ナデののち、器高の1/2は回転ヘラケズリ（右回り）。 内面 回転ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
192	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径 16.0(1/4) 器高 4.3	外面 回転ナデののち、器高の1/3は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	オリーブ灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
193	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径 15.4(1/4)	外面 回転ナデののち、天井部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
194	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径 11.6(1/4)	外面 回転ナデののち、天井部の一部は回転ヘラケズリ（右回り）。 内面 回転ナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
195	須恵器	蓋坏(蓋)	推定口径 13.8(1/4)	外面 回転ナデののち、天井部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	灰白色。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
196	須恵器	蓋坏(蓋)	つまみ径 3.6(完存)	つまみは貼り付け。 外面 回転ヘラケズリ。 内面 回転ナデののち、中央に同心円タタキ。	外、内面は青灰色。 断面は暗赤灰色。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
197	須恵器	蓋坏(身)	推定口径 10.8(1/4) たちあがり径 1.6	外面 回転ナデののち、底体部の一部は回転ヘラケズリ（左回り） 内面 回転ナデ。	暗青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。

遺物番号（同版）	器種		法量（現存率）単位cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
198	須恵器	蓋坏(身)	受部 (1/3) 推定口径 12.6 器高 4.7 たちあがり高 1.3	外面 回転ナデののち、底体部の1/2は回転ヘラケズリ（右回り） 内面 回転ナデ。	灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
199	須恵器	蓋坏(身)	推定口径 13.2(1/3)	外面 回転ナデののち、底体部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
200	須恵器	蓋坏(身)	推定口径 12.2(3/4) 器高 4.5 たちあがり高 0.8	外面 回転ナデののち、底体部の1/2は回転ヘラケズリ（右回り）。 内面 回転ナデ。	暗灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成やや不良。
201	須恵器	蓋坏(身)	推定口径 13.2(3/4) たちあがり高 0.9	外面 回転ナデののち、底体部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	外、断面は暗灰色。 内面は灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 底体部全面に灰をかぶる。
202	須恵器	蓋坏(身)	推定口径 9.8(3/4) たちあがり高 0.5	外面 回転ナデののち、底体部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 受部～底体部上半外面に灰をかぶる。
203	須恵器	蓋坏(身)	推定口径 13.4(3/4) たちあがり高 0.6	外面 回転ナデののち、底体部の一部は回転ヘラケズリ（右回り）。 内面 回転ナデ。	内、外面は灰色。 断面は暗赤灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 底体部外面全面に灰をかぶる。
204	須恵器	高坏	推定口径 11.2(3/4) 坏部高 3.7 たちあがり高 0.9	脚部は貼り付け。 外面 回転ナデののち、底体部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
205	須恵器	高坏	推定脚底径 16.6(3/4)	脚部に推定4方向の方形スカシ（数不明）。 外面 回転ナデ。 内面 回転ナデ。	外面は明赤灰色～灰色。断面は灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
206	須恵器	高坏	推定脚底径 8.8(3/4)	脚部に推定4方向、2段の方形スカシ（数不明）。 外面 回転ナデ。 内面 回転ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
207	須恵器	高坏	推定脚底径 13.8(3/4)	脚部に推定4方向、2段の方形スカシ（数不明）。 外面 回転ナデ。 内面 回転ナデ。	青灰色～灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
208	須恵器	高坏	推定脚底径 15.4(1/2)	脚部に2方向、2段の方形スカシ（幅1.2cm、長さ5cm）。 外面 回転ナデ。 内面 脚部上半にしぼりめが残存。回転ナデ。	外面は灰色～暗灰色。 内、断面は灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
209	須恵器	壺	推定口径 15.4(1/2)	外面 回転ナデののち、口縁部にヘラ状工具によるナデ？ 内面 回転ナデ。	外、内面は灰色。 断面は赤灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 外面に灰をかぶる。
210	須恵器	壺	口頸部の破片 (1/4)	外面 回転ナデ。頸部に一条の櫛描波文（6本／0.9cm）。 内面 回転ナデ。	暗緑灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 内面の一部に自然釉が付着。
211	須恵器	壺(蓋)	推定口径 11.2(3/4) 天井部高 1.6	外面 天井部につまみの痕跡。回転ナデののち、天井部に櫛描列点文。 内面 回転ナデ。	外、内面は青灰色。 断面は暗赤灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 天井部内面の一部に灰をかぶる。
212	須恵器	？	口径 3.6(完形)	外面 回転ナデ。 内面 回転ナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 外、内面の一部に灰をかぶる。
213	須恵器	壺	推定口径 8.4(1/3)	外面 回転ナデ。 内面 頸部に粘土紐の巻き上げ痕が残存。回転ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
214	須恵器	鉢？	推定口径 16.4(1/4)	口頸部に2条の凹線。 外面 カキ目。 内面 回転ナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。

遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
215（図版14）	須恵器	器台	推定口径 26.4(1/4) 台部高 9.6 推定脚底径 23.3(1/6)	台部の調整ののち、脚部貼り付け。脚部に推定4方向の方形スカシ（幅1.6cm、長さ2.0cm）と三角形スカシ（底辺3.6cm、高さ2.6cm）。 外面 台部上半は回転ナデ。台部下半は平行タタキ（3本／1cm）。脚部はカキ目、回転ナデ。 内面 台部上半は回転ナデ。台部下半は同心円タタキ（3本／1cm）。脚部は回転ナデ。	外面は青黒色。 内、断面は灰色。 白色砂粒をやや多く含む。	台部中央の一部に灰をかぶる。
216	須恵器	器台	裾 (1/4)	推定4方向、3段以上の方形スカシ（幅1cm、長さ3cm）。 外面 上段は櫛描波状文（25本以上／4cm）、下段は斜め方向と縦方向の櫛描列点文。 内面 粘土紐マキアゲ痕が残存。指押さえののち、板状工具による不定方向のナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
217	須恵器	壺	推定口径 15.8(1/2)	外面 回転ナデ。頸部に1条の櫛描波状文（10本／0.9cm）。 内面 回転ナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
218	須恵器	壺	推定口径 16.2(1/4)	外面 回転ナデ。 内面 回転ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 口縁部は多少ゆがみをもつ。
219	須恵器	壺	推定口径 17.4(1/2)	外面 口頸部～頸部上半は平行タタキ（4本／1cm）ののち、回転ナデ。 内面 口頸部は回転ナデ。胴部上半は同心円タタキ（3本／1cm）	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
220	須恵器	壺	推定口径 11.4(1/2)	外面 口頸部は回転ナデ。胴部上半はカキ目。 内面 回転ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 口頸部内面の一部、頸部～胴部外面の一部に灰をかぶる。
221	須恵器	壺	推定口径 28.4(1/4)	外面 口頸部は回転ナデ。胴部は平行タタキ（3本／1cm）。 内面 口頸部は回転ナデ。胴部は同心円タタキ（3本／1cm）。	暗緑灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 外、内面に松ヤニが付着。 口頸部～胴部外面、口頸部内面に灰をかぶる。
222	須恵器	壺		外面 回転ナデののち、2条の櫛描波状文（26本／3.2cm、14本／1.5cm）。 内面 回転ナデ。	外、内面は灰色。 断面は明赤灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 口縁部端面、口頸部内面に灰をかぶる。
223	須恵器	壺		外面 回転ナデののち、頸部に2条の櫛描波状文（7本／0.7cm）。 内面 回転ナデ。	灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
224	須恵器	壺		外面 平行タタキ（3本／1cm）。 内面 同心円タタキ（3本／1cm）。	外、内面は灰色。 他は灰赤色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
226（図版14）	瓦	平瓦	厚さ 3.0 端面幅 2.6 側面幅 1.4	凹面 布目残存。側面との稜はヘラケズリ。 凸面 タテ方向、ヨコ方向の縄目タタキ。側面との稜はヘラケズリ。 端面 ヘラケズリ。 側面 布目痕が残存。	灰黄色～灰白色 白色砂粒を少量含み、雲母、茶色砂粒、角閃石を微量に含む。	焼成良好。 硬質。 凹面に繊が付着。
227	瓦	平瓦	厚さ 2.0 側面幅 2.0	凹面 布目残存。側面との稜は軽くヘラケズリ。 凸面 タテ方向の縄目タタキ。 側面 ヘラケズリ。凹面との稜はヘラケズリ。	灰色。 白色砂粒、雲母を微量に含む。	焼成良好。 硬質。
228	瓦	平瓦	厚さ 2.3 側面幅 2.0	凹面 布目付着ののち、一部ナデ。 凸面 タテ方向の縄目タタキ。 側面 ヘラケズリ。	黄褐色。 白色砂粒、雲母、角閃石、茶色砂粒を微量に含む。	焼成良好。 硬質。
229	瓦	平瓦	厚さ 2.3 端面幅 2.2 側面幅 1.8	凹面 布目残存。 凸面 タテ方向の縄目タタキ。 端面 ヘラケズリ。 側面 ヘラケズリ。	灰白色。 白色砂粒を少量含み、茶色砂粒、角閃石、雲母を微量に含む。	焼成良好。 硬質。 凹面に繊が付着。

遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位 cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
230	瓦	平瓦	厚さ 2.2 幅面幅 2.0	凹面 布目残存。端面との境の縁はヘラケズリ。 凸面 タテ方向の縄目タタキ。 端面 ヘラケズリ。	凹面は灰白色～黒色。 凸面は灰色～黒色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 凹面は一部剥離している。 硬質。 凹面、端面、凸面の一部に煤が付着。
231	瓦	平瓦	厚さ 2.1	凹面 布目残存。 凸面 タテ方向の縄目タタキ。	凹面は暗青灰色。 凸面は灰色～黒色。 白色砂粒をやや多量に含み、茶色砂粒を少量含む。	焼成良好。 硬質。
232	瓦	平瓦	厚さ 2.2	凹面 布目残存。 凸面 タテ方向の縄目タタキ。	にぶい橙色。 白色砂粒、茶色砂粒を少量含み、雲母を微量含む。	焼成良好。 軟質。
233	瓦	平瓦	厚さ 1.7 端面幅 1.9	凹面 2種類の布目残存。 凸面 タテ方向の縄目タタキ。布目付着ののち、ナデ。 端面 ヘラケズリ。	凹、断面は灰黄色。 凸、端面は褐灰色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 硬質。
234	瓦	平瓦	厚さ 1.6 側面幅 1.4	凹面 布目残存。側面との縁はヘラケズリ。 凸面 ナデ。 側面 ヘラケズリ。	凹、凸、側面は灰色。 断面は灰白色。 白色砂粒を少量含み、角閃石、雲母を微量含む。	焼成良好。 硬質。

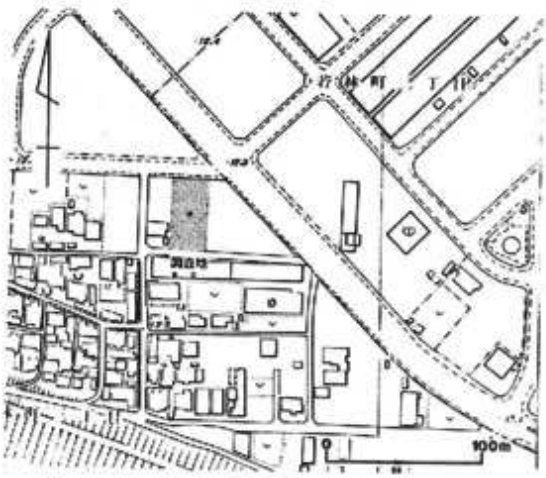
4. 八尾南遺跡の調査〈若林町3丁目117～119〉

1. 調査経過

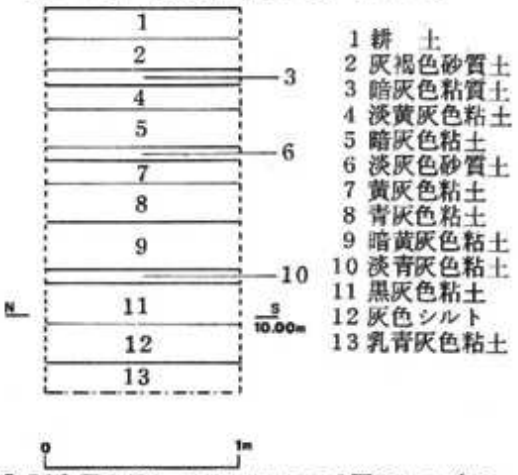
八尾南遺跡は八尾市若林町、西木の本に所在し、南からのびる羽曳野丘陵の縁辺に位置する集落遺跡である。

この遺跡は昭和53～54年度に行われた地下鉄谷町線建設に伴う発掘調査(注1)を契機として、今までに数次にわたる発掘調査が行われている。

今回の調査は〔　　〕共同住宅建設に伴って実施された。調査地は八尾南遺跡の南西部に当たり、八尾市教育委員会が昭和55年度に実施した範囲確認調査(注2)の第1調査区及び、大阪市長原遺跡NG82－41調査区に近接している。昭和59年2月24日、八尾市教育委員会が建築予定地内にグリッド2カ所を設定し、部分発掘を試みたが、明確な遺構及び遺物包含層を検出できなかった。しかし、隣接地の調査状況からみて、当該地の遺物包含層が完全に削平を受けているとしても遺構だけは残存している可能性が考えられるので、昭和59年度に再度面的な試掘調査を実施することとした。



第34図　調査地位置図（S＝1／5000）



第35図 第1グリッド土層断面模式図（S＝1／40）

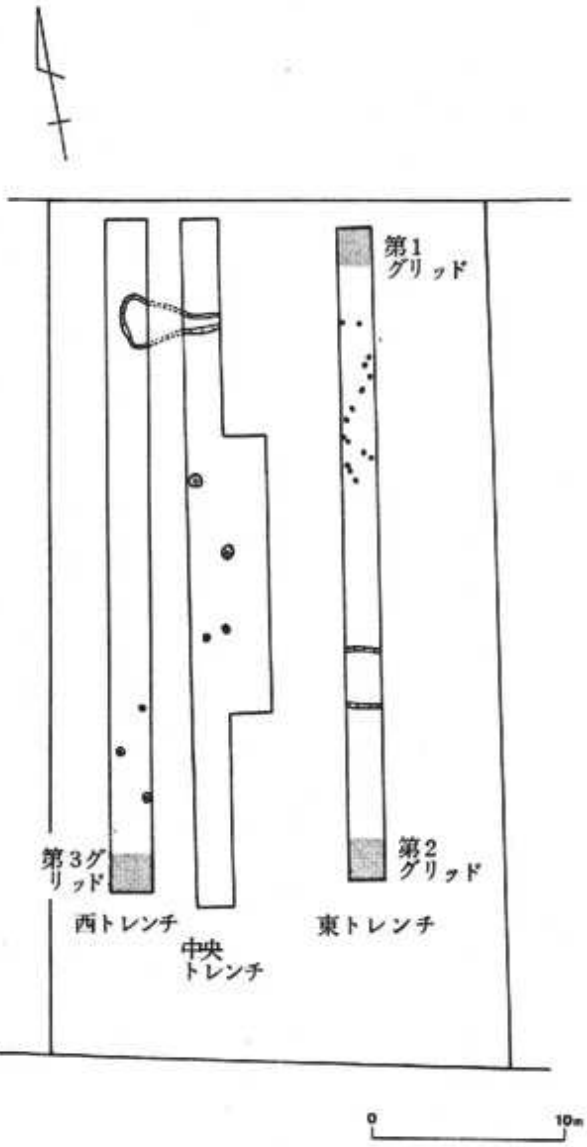
調査は建築予定地に幅2m、長さ34mのトレンチを3本設定し、人力掘削により行い、古墳時代～弥生時代後期の遺構面を面的に精査し、この面より下層についてはグリッドによる確認調査を実施した。

2. 調査概要

西トレンチ（第36図、図版6）　基本層序は、第1層耕土、第2層灰褐色砂質土、第3層暗灰色粘質土、第4層は淡黄灰色粘土または黄褐色砂質土となる。第3層は弥生時代～古墳時代の包含層で、第4層上面が遺構面となる。しかし、トレンチ南側においては第2層直下に第4

層が存在しているため、第３層は削平を受けているものと思われる。遺構面は耕土下20～30cmで、標高はＴＰ11.4～11.3ｍである。この面において検出した遺構は小ピット３個のみであった。いずれも暗灰色の砂質土を埋土としており、径40cm程度を測る。

中央トレンチ（第36図、図版５、図版７）　基本層序は、西トレンチとほぼ同一であるが、第４層上面は大半が黄褐色砂質土で、トレンチ南半は耕土下直下に第４層が存在する。第２・第３層中は弥生・古墳・平安時代の遺物を包含しているが、いずれも細片になっている。第４層上面を精査した結果、トレンチ中央付近で古墳時代または弥生時代のものと思われるピットを３個、中世のものと思われるピットを１個検出した。前者は径40～70cm、深さ20cm前後で、後者は径50cm、深さ30cmである。ピットの出土遺遺物は希少であった。また、トレンチ北側では、東西方向にのびる一条の中世溝を検出した。これは第３層上面より切り込むもので幅80cm、深さ15cm程度のものであるが、東西両トレンチではその延長を認めることができなかった。



第36図　調査地平面図（S＝1/400）

東トレンチ（第36図、図版６）　基本層序は他のトレンチと同じであるが、第４層は淡黄灰色粘土を主体としており、南端部分のみ黄褐色砂質土である。したがって遺構面は粘質であり、精査したところ、径20cm、深さ5cm程度のピットを約９個検出した。これらはほとんどトレンチ南半部にみられ、埋土には第３層とほぼ同じ暗灰白粘土を埋土としている。また、トレンチ北側では、第３層より切り込む幅４ｍ、深さ20cmの東西方向の溝状の落込みを検出したが、この延長は中央トレンチでは確認できなかった。

グリッド1（第35図、図版7） 古墳、弥生時代面の地山となる第4層は黄灰色粘土で、20cmの厚みで堆積する。それ以下は第5層暗灰色粘土、第6層淡灰色砂質土、第7層黄灰色粘土、第8層青灰色粘土、第9層暗黄灰色粘土、第10層淡青灰色粘土、第11層 黒灰色粘土第12層灰色シルト、第13層乳青灰色粘土となる。このうち、第6層は厚さ6cmであるが、砂層であることから長原遺跡（NG82−41調査区）の弥生時代中期とされている8C層に対応し、第7層上面が弥生時代の水田面に対応している。この面の標高はTP10.8mである。また、第11層は縄文時代晩期とされる長原遺跡9C層に対応する。この層の標高はTP9.95～10.2mである。第13層は長原遺跡では旧石器時代層に対応し、この層の上面の標高はTP9.8mである。

グリッド2 グリッド1の層序と対応させると、耕土直下で弥生、古墳の遺構面である第4層となる。以下の層序はグリッド1とほぼ同じで、第6層・第12層がなく第10層が細砂に変わっている。第7層上面の標高はTP 10.9m、第11層上面の標高はTP 10.1m、第13層上面の標高はTP 9.9mとなり、いずれもわずかながらグリッド1より高くなっている。

グリッド3 グリッド内の層序は、第1層耕土、第2層灰褐色砂粘土で、直下に古墳時代遺構面がくる。グリッド1の第4層に対応するのは、黄褐色の砂質上の55cmに及ぶ厚い堆積で、旧河川跡となっている。この河川の時期は弥生時代中期以後、弥生時代後期以前の限定された時期であろう。この砂層の下は第8層の青灰色粘土となり、その下は第9層の暗青灰色粘土まで確認した。第8層上面の標高はTP 11.0mで、他のグリッドの第8層とほぼ同じレベルである。

3. ま と め

今回の調査は、古墳時代～弥生時代後期の遺構確認に重点をおいたが、いずれのトレンチにおいてもピット以外の明確な遺構を確認することはできなかった。第3層に包含されている弥生時代後期～平安時代後期の遺物もかなり磨滅を受けており、原位置を保たず2次堆積によるものと考えられる。しかし、検出した遺構面の深さは予想外に浅く、当調査地が居住地として適した自然の微高地に位置することは確実で、かって存在した遺構が後世の削平によって残存しなかった可能性も充分考えられる。特に、弥生後期または古墳時代と考えられるピットがきわめて浅いものであることからも、中世以後の開発による削平が考えられる。

（米田）

注1 八尾南遺跡調査会「八尾南遺跡」（1981）
2 八尾市教育委員会「八尾南・東郷遺跡発掘調査概要」（1981）

5. 成法寺遺跡の調査〈清水町１丁目３３〉

1. 調査経過

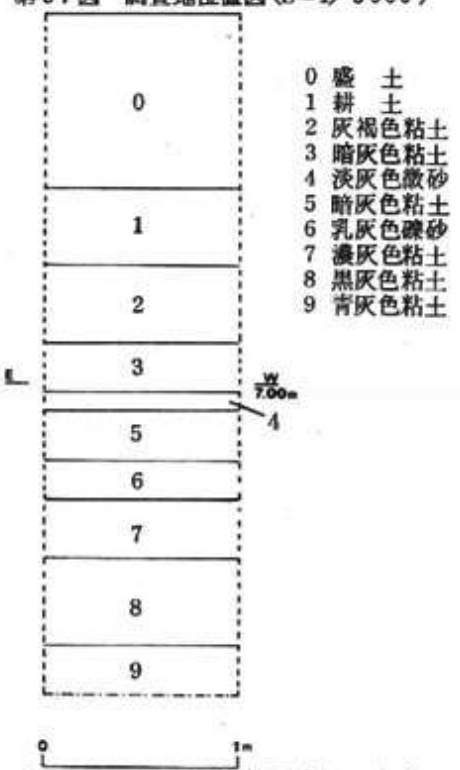
成法寺遺跡は、八尾市光南町、清水町、本町、東本町、南本町、松山町、明美町、陽光園に所在し、長瀬川右岸の沖積地に位置する集落遺跡である。

成法寺遺跡の発見は、昭和５６年７月～９月に光南町１丁目29で実施した発掘調査で、古墳時代前期の方形周溝墓や古墳時代後期の建物群等を検出したのが発端である。(注1)この調査地の15ｍ東方に今回の調査地が所在する。

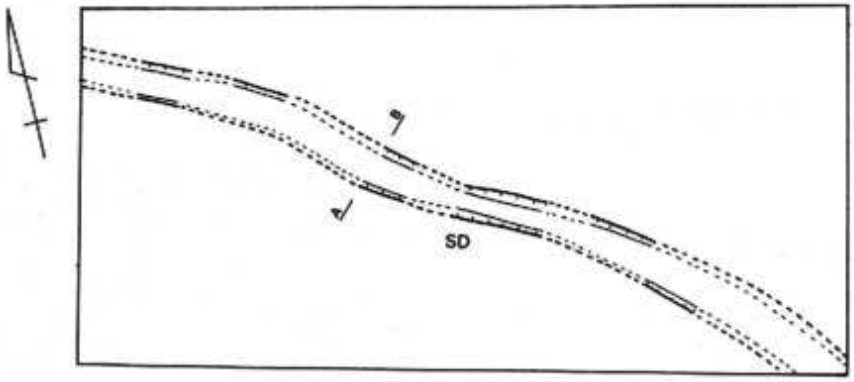
今回の調査は　　の貸事務所建設に伴って実施された。八尾市教育委員会では昭和５８年１２月24日に試掘調査を実施したが、遺構及び遺物包含層と考えられる土層を確認することができなかった。しかし、当該地が昭和５６年度調査地に近接しており、なお何らかの遺構が存在する可能性もあるので、基礎の掘削工事に八尾市教育委員会の立会調査を受けることを条件とし、施工を指導した。昭和５９年７月２０日に立会調査を行ったところ、東南東から西北西方向にのびる黒色粘土帯が掘削基底付近で認められた。この時点に、遺構の半分以上は基礎工事によって破壊されていたが、残存部分について部分発掘が必要であると判断し、調査の実施を行うことを施工者である新宮工務店に承諾を得た。

調査は遺構残存部を手掘りによって掘り抜き、遺構の平面、断面の形状を記録することとして行った。

第３７図　調査地位置図(S=1／5000)



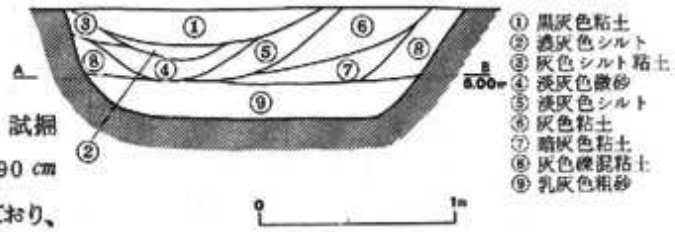
第３８図　土層断面模式図（S=1/40）



第39図　調査地平面図（S＝1／400）

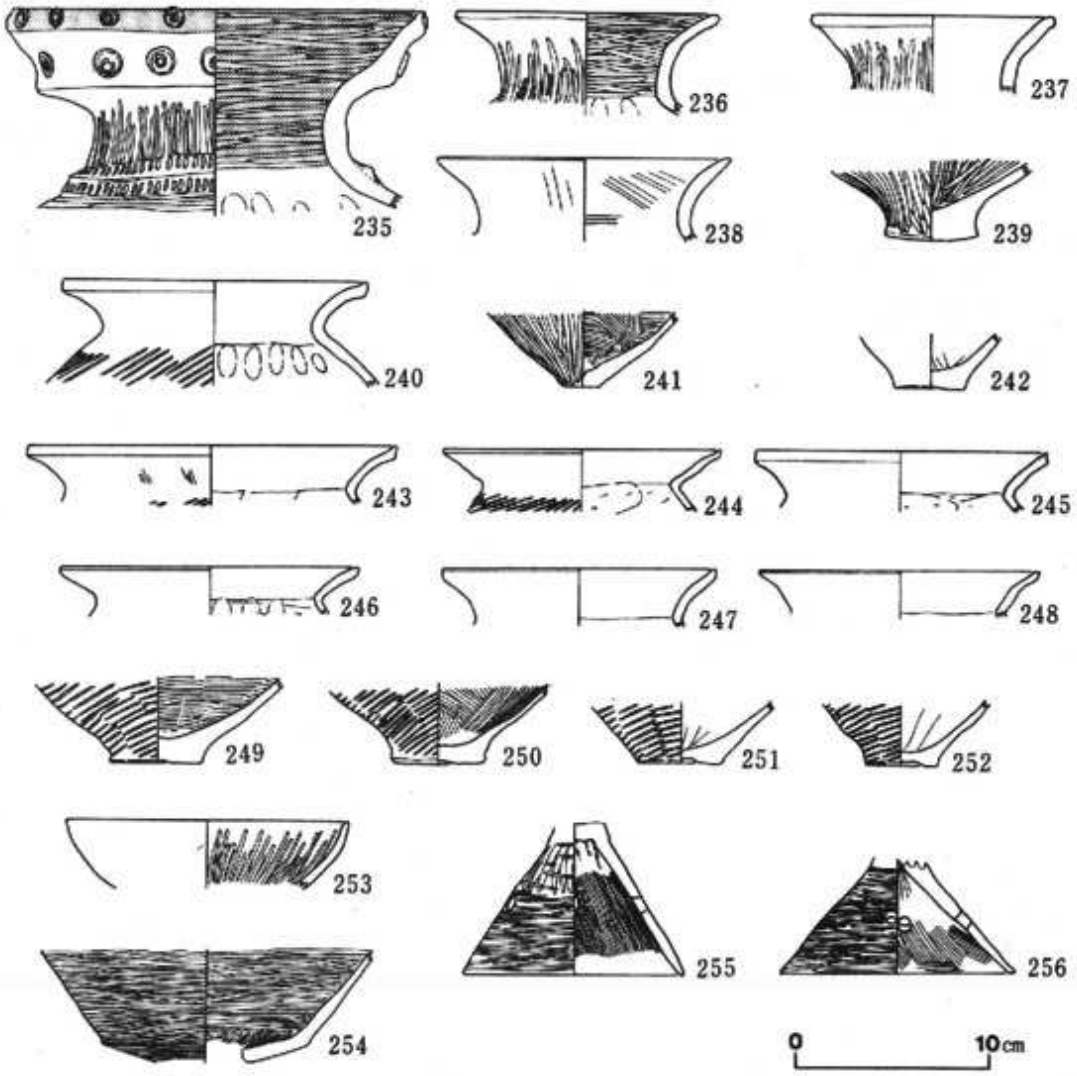
3. 調査概要

本調査区の層位（第38図）は、試掘調査時の資料によると地表下約90 cmで約40cmの厚みの旧耕土層に達しており、以下10 cmほどの砂質土をはさんで約70 cmの灰褐色粘土層が堆積し、その下に暗灰色粘土層が約30 cmの厚みで堆積する。その下は再び青灰色粘土が90 cm以上厚く堆積する。基礎工事の掘削基底はこの青灰色粘土層に達しており、青灰色粘土層上面において遺構の存在を確認した。この検出面はTP 6.6～6.3 mで、光南町1丁目29の調査地で検出した遺構面（TP 6.8 m）にほぼ対応する。本調査地で検出した遺構は溝1である。（第39図、図版9）



第40図　溝（SD）土層断面図（S＝1／40）

溝（SD）　溝は幅約2.0 m、深さ約0.6 mで東南東から西北西へ直線状にのびる。調査地内で確認した溝の総延長は41 mを測り、調査地外にのびている。断面は逆台形を呈し、溝底は平坦である。底幅は約1.3mを測る。溝の最下層には粗砂（第⑨層）が堆積しており、溝底の北高は東端付近よりも西端付近のほうが、0.2 m ほど低くなっていることより、東から西方向へ流れる流路として機能していたことがわかる。中層（第②～⑧層）は粘土、シルト、微砂が入りまじり、樹木の枝や種子などの自然遺体を多く含む。最上層（第①層）には炭化物を多く含む黒灰色粘土が堆積する。上層から下層まで古式土師器片を含む。上層では遺物はごくわずかであるが、下層には比較的多くの遺物がみられる。いずれも庄内式に属するものである。器種には壺（235～239、241～242）・甕（240、243～252）・高坏（253・254）・器台（255・256）がみられるが、完形になるものは全く含まれていなかった。235は口縁部を下にした状態で溝底から出土した。



第41図　溝（SD）出土遺物（S＝1/4）

3. ま と め

今回の調査は事前の試掘調査の段階で遺構や遺物包含層の存在を確認することができなかったため、工事中に遺構を検出するという最も不幸な事態になってしまった。しかし、部分的にせよ、発掘調査を実施することができたのは、慎重を期して、工事立会を行ったことの成果である。今回の調査で検出した溝は、出土遺物より庄内式期だけ機能していた単時期のものであることがわかった。また、溝の断面形状や堆積状況より、この溝が人工的な水路として掘削されたものであることは間違いない。したがって、今後成法寺遺跡の性格を考察するうえで、いくつかの問題を提起している。まず、すぐ西側に隣接して存在する庄内期の方形周溝墓との関

係である。この周溝墓群は、現在４基検出され、このうち３基は東南東から西北西へ並ぶようにして造営されており、４基とも方向は同じである。この方向は今回検出した溝の流路の方向ともほぼ一致しており、これらが有機的関連をもって同時存在していた可能性を示している。さらに、本調査地の南東１２０ｍの成法中学校（清水町２丁目）内の発掘調査(注２)でも、庄内期の南東から北西方向の溝が２本検出されている。当調査地の溝がこれらとつながっている可能性も考えられるし、あるいは並行して走っている可能性も考えられる。いずれにせよ、庄内期の成法寺遺跡の問題を解決する手がかりを得たことだけは間違いなさそうである。

（米田）

注１　八尾市教育委員会「成法寺遺跡」（1983）
　２　（財）八尾市文化財調査研究会「昭和58年度事業概要報告」（1984）

第5表　成法寺遺跡〈清水町1丁目33〉出土遺物観察表

溝（SD）出土遺物

遺物番号（図版）	器種	法量（現存率）単位cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
235（図版15）	壺	口径　21.6(1/2)	外面　ヨコナデののち、口縁端部と口縁部に竹管文をもつ円形押文貼り付け。頸部はキザミメをもつ突帯貼り付けののち、ヘラミガキ。 内面　口頸部はヘラミガキ。胴部は指押さえ、ナデ。	外、内面は橙色～淡橙色。断面は灰白色。白色砂粒、小石を少量含む。	焼成良好。口縁端部と口頸部内面に赤彩。
236	壺	推定口径　13.6(1/4)	外面　ハケののち、ヨコナデ。ヘラミガキ。 内面　口頸部はヘラミガキ。胴部は指押さえ、ナデ。	暗灰黄色。生駒西麓の粘土。白色砂粒、雲母、角閃石を少量含む。	焼成良好。口頸部外面の一部に煤が付着。
237	壺	推定口径　12.6(1/4)	外面　ヨコナデののちに、ヘラミガキ。 内面　ヨコナデ。	浅黄色。白色砂粒、赤色砂粒を微量含む。	焼成良好。
238	壺	推定口径　13.0(1/4)	外面　ヘラナデののち、ヨコナデ。 内面　ヘラナデののち、ヨコナデ。	黄灰色。白色砂粒、雲母、角閃石を少量含む。	焼成良好。
239	壺	底径　4.8(完存)	外面　胴部はヘラミガキ。底部はナデ。 内面　ヘラミガキ。	灰白色。白色砂粒、雲母を微量に含む。	焼成良好。内面の一部に赤色顔料が付着。
240	壺	推定底径　15.6(1/4)	外面　口縁部はヨコナデ。胴部はタタキののち、ヘラナデ。 内面　口縁部はヨコナデ。胴部は指押さえ、ナデ。	灰白色。白色砂粒を少量含み、雲母、角閃石を微量含む。	焼成良好。口縁部外面の一部に煤が付着。
241	壺	底径　2.2(3/4)	外面　胴部はヘラミガキ。底部はナデ。 内面　ハケ。	灰黄色。白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
242	壺	底径　3.8(完存)	外面　ナデ。 内面　ヘラナデ。	にぶい黄橙色。白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
243	壺	推定口径　18.8(1/4)	外面　口縁部はハケののち、ヨコナデ。胴部はタタキ。 内面　口縁部はヨコナデ。胴部はヘラケズリ。	灰白色。白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。
244	壺	推定口径　14.2(1/4)	外面　口縁部はナデ。胴部はタタキ。 内面　口縁部はナデ。胴部はヘラケズリ。	外面は暗褐色～黒色。内、断面は褐色。生駒西麓の粘土。白色砂粒、角閃石、雲母を少量含む。	焼成良好。外面全面に煤が付着。
245	壺	推定口径　15.0(1/4)	外面　ヨコナデ。 内面　口縁部はヨコナデ。胴部はヘラケズリ。	灰白色。白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。外面全面に煤が付着。
246	壺	推定口径　15.4(1/4)	外面　ヨコナデ。 内面　口縁部はヨコナデ。胴部上半は指押さえののち、ヘラケズリ。	黒褐色。生駒西麓の粘土。白色砂粒、角閃石、雲母を少量含む。	焼成良好。外面全面に煤が付着。
247	壺	推定口径　14.0(1/4)	外面　ヨコナデ。 内面　口縁部はヨコナデ。胴部はヘラケズリ。	浅黄色。白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。外面の一部に煤が付着。
248	壺	推定口径　14.4(1/4)	外面　ヨコナデ。 内面　口縁部はヨコナデ。胴部はヘラケズリ。	灰黄褐色。生駒西麓の粘土。白色砂粒、雲母、角閃石をやや多量に含む。	焼成良好。外面の一部に煤が付着。
249	壺	推定底径　4.8(1/2)	外面　胴部はタタキ。底部はナデ。 内面　ハケ。	外、内面はにぶい黄橙色～黒色。断面はにぶい黄橙色。白色砂粒を少量含む。	焼成良好。底部内外面の一部に煤が付着。
250	壺	底径　4.8(完存)	外面　胴部はタタキ。底部はナデ。 内面　ハケ。	外、断面は灰黄色。内面は黒色。白色砂粒を多量に含み雲母を少量含む。	焼成良好。胴部下半外面と内面全面に煤が付着。

遺物番号（図版）	器種	法量（残存率）単位cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
251	鉢	底径 4.2(完存)	外面 胴部はタタキ。底部はナデ。 内面 ヘラナデ。	外面は灰黄色～黒色。 内、断面は灰黄色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。
252	壺	底径 3.8(完存)	外面 胴部はタタキ。底部はナデ。 内面 ヘラナデ。	外面は灰黄色～にぶい橙色～黒色。 内、断面は黒褐色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 外面は二次焼成のため赤色化し、煤が付着。内面は煤が付着。
253	高杯	推定口径 14.6(1/4)	外面 ヨコナデ。 内面 ヨコナデののち、ヘラミガキ。	にぶい橙色。 精良。白色砂粒、雲母を微量に含む。	焼成良好。
254	高杯	脚 (1/4)	外面 ヘラミガキ。 内面 ハケののち、ヘラミガキ。	外面は橙色～橙色。 内面は橙色。断面は褐灰色。 精良。白色砂粒、雲母を微量に含む。	焼成良好。
255（図版5）	器台	脚底径 11.4(3/4)	脚部に推定4孔の円孔。 外面 脚部上半はヘラナデののち、ヘラミガキ。脚部下半はヘラミガキ。 内面 脚部上半にシボリメが残存。ハケののち、脚部上端はナデ。下端はヨコナデ。	外面は浅黄色～淡赤橙色～黒色。内、断面は橙色。 精良。白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 脚部下端外面の一部は二次焼成のため赤色化し、煤が付着。
256	器台	脚底径 12.0(完存)	外面 ヘラミガキ。 内面 脚部上半にシボリメが残存。ハケののち、脚部上半はナデ。脚部下端はヨコナデ。	外面はにぶい橙色～灰赤色～赤灰色。内面は橙色。 精良。白色砂粒、雲母を微量に含む。	焼成良好。 脚部下端の一部は二次焼成のため赤色化し、煤が付着。

6. 小阪合遺跡の調査〈青山町４丁目４〉

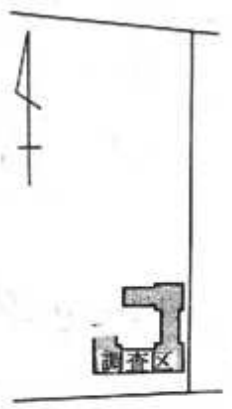
1. 調査経過

小阪合遺跡は八尾市青山町、南小阪合町に所在し、長瀬川と玉串川にはさまれた沖積地に位置する集落遺跡である。

当遺跡は昭和２７年、大阪府営小阪合住宅建設の掘削工事の際、土器の出土が確認されたことによって発見された。この後、実施された八尾市教育委員会(注1)、(財)八尾市文化財調査研究会(注2)、大阪府教育委員会(注3)の調査によって、中田遺跡に北接する遺跡であり、弥生時代後期より始まる遺跡であることが確認されている。

今回の調査は関西電力株式会社の鉄塔新設に伴って実施された。調査にあたっては、鉄塔基礎部分に幅２mのトレンチ（第４３図）をめぐらし、現地表下約１mまで機械掘削したのち、手掘りで掘り下げた。

第４２図　調査地位置図（S=1／5000）



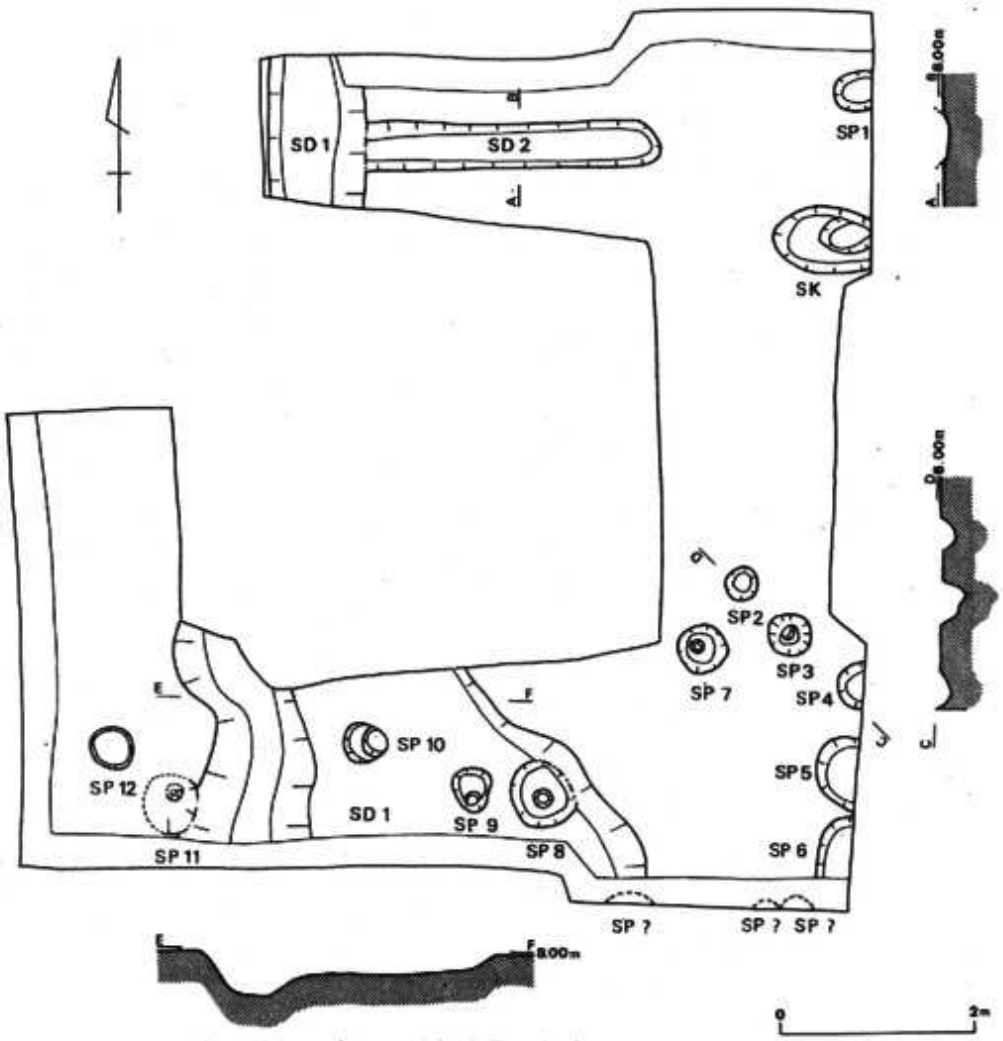
第43図　調査区設定図（S＝1／800）

第44図　土層断面模式図（S＝1／40）

2. 調査概要

調査地の基本土層は第４４図に示すとおりである。現地表下約５０cmが盛土で、その下に第１層　耕土、第２層　褐灰色細砂質粘土、第３層　暗灰褐色細砂質粘土、第４層　茶灰色細砂の順で堆積が確認された。また調査区の北西隅では第４層の茶灰色細砂が茶灰色粗砂に変わっている。第３層下部では弥生土器古墳時代の土師器、須恵器が確認された。遺構は第４層上面で検出された。検出された遺構は溝２、土坑１、ピット12である。（第４５図、図版10）

ピット（SP）1～12（図版11、第７表）　12のピットが調査区内で検出された。いずれも平面形は円形を呈し、現存径は３５～７５cm、深さは１５～４５cmを測る。掘り方は１段掘りのものと２段掘りのものの２種類が確認された。いずれも覆土は黒茶色細砂質粘土である。ピット（SP）１から土師器高坏（２５７）、ピット（SP）８から土師器小型丸底壷（２５８）、ピット（SP）12から土師器高坏（２５９）が出土した。その他、土師器細片・須恵器細片が出



第45図　調査区平面図・遺構断面図（S＝1/80）

土した。出土遺物は4世紀後半～5世紀代に属するものと思われる。

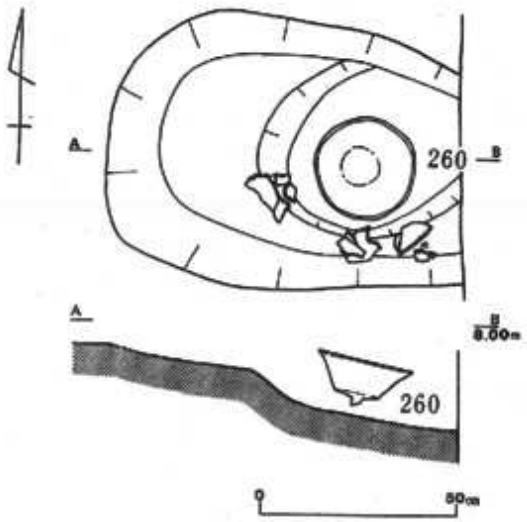
土　坑（SK）（第47図、図版11）　調査区の北東隅で検出されたもので、平面形は楕円形を呈す。現存長径90cm、短径70cm、深さ20cmを測る。掘り方は2段掘りで、周囲に平坦面をもち、東側が深く掘り込まれている。土坑内には黒茶色細砂質粘土が堆積する。遺物は東側の深く掘り込まれた部分から5世紀中葉のものと思われる土師器高坏（260）が出土し、周囲の平坦側から土師器甕片が出土した。

第46図　ピット（SP）出土遺物（S＝1/4）

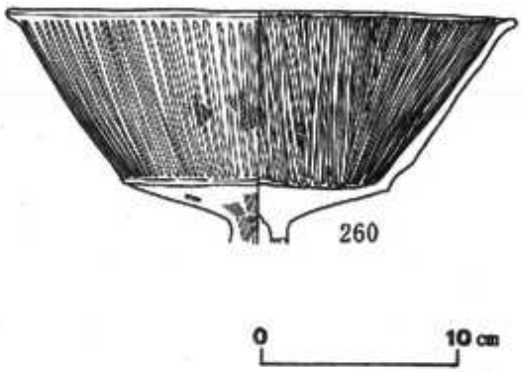
溝（SD）1　調査区の中央付近で検出されたもので、調査区を南北に横断する。溝（SD）2に切られており、溝内には黒茶色細砂質粘土が堆積する。断面は調査区北部では逆台形を呈するが、調査区南部では東側に一段フラットな面をもつ。調査区北部では現存幅100㎝、深さ30㎝を測り、調査区南部では現存幅300～480㎝、深さ50㎝を測る。土師器鉢(261)高坏（262～264）、須恵器蓋坏（265～269）、甕（270）が出土した。出土遺物は5世紀中葉に属するものである。

第7表　ピット（SP）一覧表

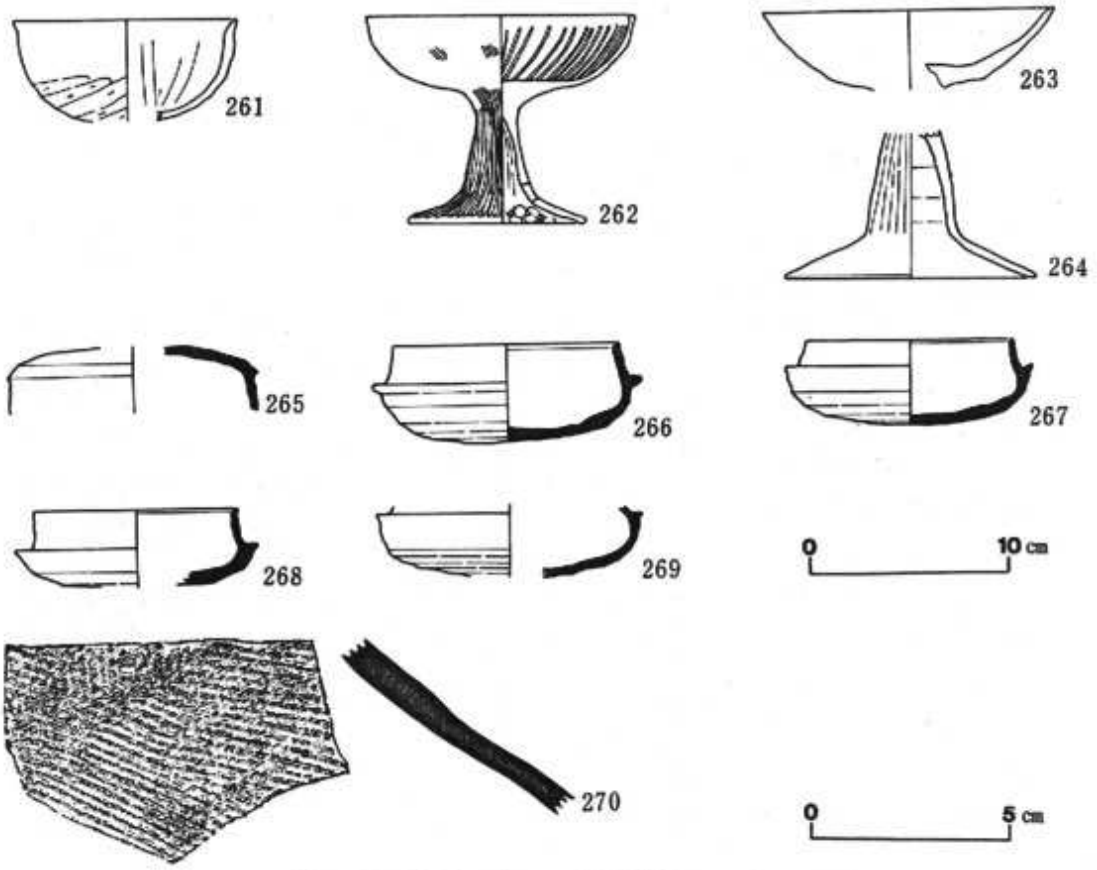
SP	平面形	現存径	深さ	掘り方	出土遺物
1	円	40㎝	18㎝	1段掘り	257
2	円	36㎝	18㎝	1段掘り	土師器甕片
3	円	43㎝	20㎝	2段掘り	土師器片
4	円	48㎝	15㎝	1段掘り	土師器片 須恵器片
5	円	75㎝	15㎝	1段掘り	土師器壺片
6	円	?	15㎝	1段掘り	土師器甕片
7	円	50㎝	30㎝	2段掘り	土師器片 須恵器甕片
8	円	60㎝	45㎝	2段掘り	258 土師器甕片
9	円	35㎝	38㎝	2段掘り	土師器片 須恵器片
10	円	40㎝	25㎝	2段掘り	土師器片
11	円?	?	?	2段掘り	土師器高坏片
12	円	40㎝	20㎝	1段掘り	259



第47図　土坑（SK）平面図・断面図
（S＝1/20）

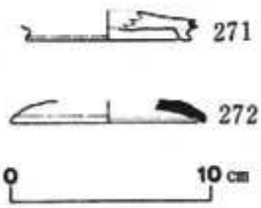


第48図　土坑（SK）出土遺物
（S＝1/4）



第49図　溝（SD）1　出土遺物（S=1/4・1/2）

溝（SD）2　調査区の北部で検出されたもので、東西に走る。溝（SD）1を切っており、溝内には暗褐灰色細砂質粘土が堆積する。断面は浅い皿状を呈し、現存幅50cm、深さ10cmを測る。溝の底から土師器坏（271）、須恵器蓋坏（272）が出土した。出土遺物は奈良時代に属するものである。



第50図
溝（SD）2 出土遺物
（S＝1/4）

遺構に伴わない遺物　第3層下部から弥生土器甕（273）、土師器高坏（274）、須恵器蓋坏（275）が出土した。

第51図　遺構に伴わない遺物（S＝1/4）

3. ま と め

今回の調査地では主に古墳時代中期の遺構・遺物が検出された。これらの遺構は細砂、粗砂上面で検出されており、特に北西隅に粗砂が堆積することから、本調査区遺構構築以前に調査区の北西を流れる自然河川が存在していたものと考えられる。また、今回の調査以前に(財)八尾市文化財調査研究会が昭和58年度に当調査区の南方200～400mの地点を調査しており(注4)、青山町4丁目地区では古墳時代前期以前に埋没する自然河川を検出している。したがって、小阪合遺跡では古墳時代前期以前に昭和58年度の調査地区である青山4丁目地区から当調査区の北西側を流れる自然河川が存在したものと考えられる。この自然河川が存在していたと推定される時期の遺構は主に当調査区の南東100～400mの地点で検出されていることより、この自然河川が埋没したのち、居住域は当調査区まで及び、4世紀後半～5世紀代にピットで構成される建物群が構築されたものと考えられる。（鳴村）

注1　八尾市教育委員会「昭和53・54年度埋蔵文化財発掘調査年報」（1980）
2　（財）八尾市文化財調査研究会「昭和58年度事業概要報告」（1984）
3　大阪府教育委員会昭和58・59年度実施
4　注2と同じ

第7表　小阪合遺跡〈青山町4丁目4〉出土遺物観察表

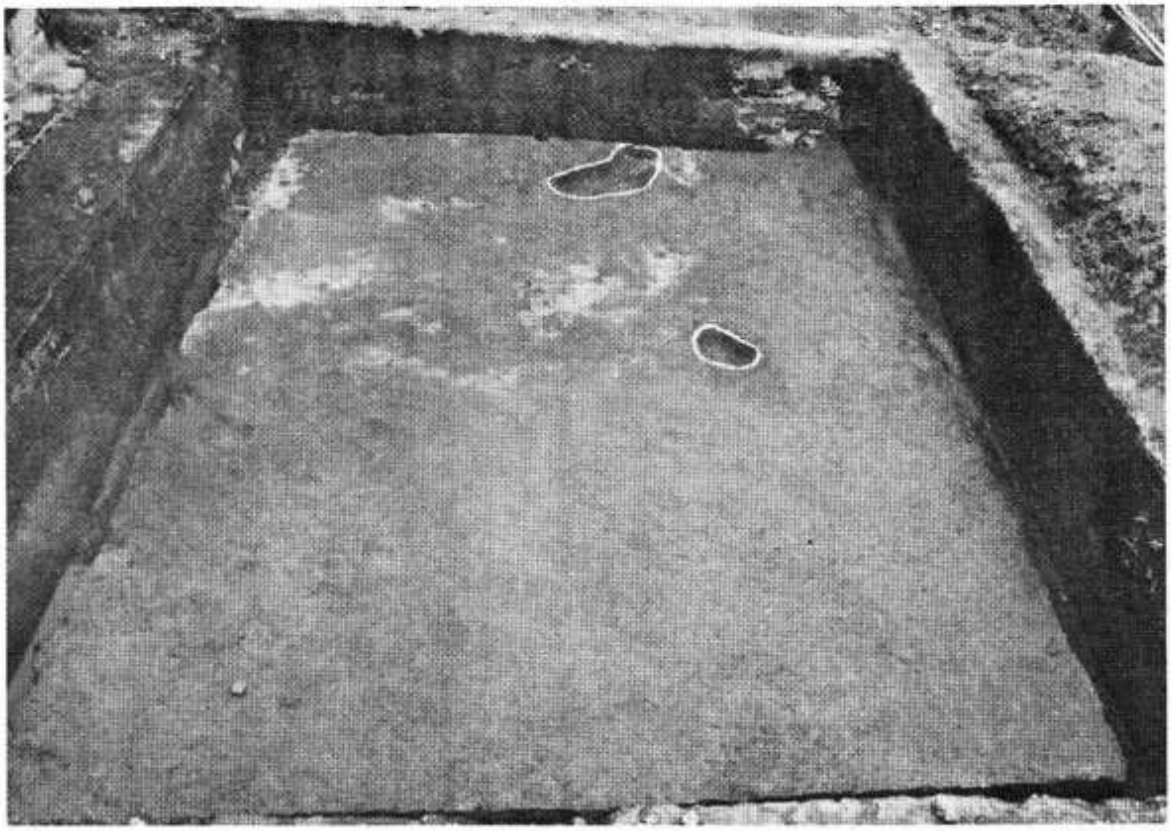
ピット（SP）出土遺物

遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
257	土師器	高坏	推定口径 13.2(1/5)	外面 ヨコナデ。 内面 ヨコナデ。	外面は橙色。 内、断面は桃橙色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 SP1出土。
258	土師器	小型丸底壺	口径 10.0(3/4) 器高 6.7	外面 口縁部～胴部上半はヘラミガキ。胴部下半はヘラケズリ。 内面 口縁部はヘラミガキ。胴部～底部は指押さえ、ナデ。	橙色。 精良。 雲母を微量含む。	焼成良好。 SP8出土。
259	土師器	高坏	推定口径 15.6(1/2) 坏部高 5.5	外面 ハケののち、ヨコナデ。 内面 ハケののち、ヨコナデ。	外面は橙色。 内面は明赤褐色。 断面は暗赤褐色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 SP12出土。
						土坑（SK）出土遺物
260（図版15）	土師器	鉢	坏部径 25.0(5/24)	外面 坏部はハケののち、ナデ、ヘラミガキ。 胴部はハケののち、ナデ。 内面 ハケののち、ヘラミガキ。	外面はにぶい橙色～黒色。 内面はにぶい橙色。 白色砂粒、茶色砂粒雲母を少量含む。	焼成良好。 坏部外面の一部に黒斑。
						溝（SD）1出土遺物
261	土師器	高坏	推定口径 11.4(1/4)	外面 ヘラケズリののち、口縁部～胴部上半はヨコナデ。 内面 ヘラナデののち、ヨコナデ。	外、内面は橙色。 断面は灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
262（図版15）	土師器	高坏	坏部口径 13.6(1/4) 器高 10.7 坏部高 5.1 脚部底径 9.2	脚部に推定2孔の円孔。 外部 坏部はハケののちヨコナデ。胴部はハケののちヘラミガキ。 内部 坏部はヨコナデののち、放射状暗文。脚柱部にしぼりめが残存。脚裾部はハケののち指押さえ。	橙色。 精良。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
263	土師器	高坏	推定口径 14.8(1/4) 坏部高 4.1	外部 ヨコナデ。 内部 ヨコナデ。	外面は黒色～にぶい黄橙色。 内、断面はにぶい黄橙色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。 坏部外面の一部に煤が付着。
264	土師器	高坏	推定脚底径 12.8(1/4)	外面 脚裾部はヨコナデ。 内面 脚柱部に粘土紐巻き上げ痕が残存。脚裾部はヨコナデ。	橙色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。
265	須恵器	蓋坏(蓋)	破 (1/5)	外面 口縁部は回転ナデ、天井部の一部は回転ヘラケズリ（ケズリの方向は不明）。 内面 回転ナデ。	外面は黒色。 内、断面は暗青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 天井部外面に灰をかぶる。
266	須恵器	蓋坏(身)	口径 11.6(完存) 器高 5.0 たちあがり高 1.7	外面 回転ナデののち、底体部の5/6は回転ヘラケズリ（右回り） 内面 回転ナデ。	灰白色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
267（図版15）	須恵器	蓋坏(身)	推定口径 10.4(完存) 器高 4.4 たちあがり高 1.5	外面 回転ナデののち、底体部の3/5は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。 底体部外面に灰をかぶる。
268（図版15）	須恵器	蓋坏(身)	推定口径 10.4(1/2) たちあがり高 1.9	外面 回転ナデののち、底体部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。	青灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
269	須恵器	蓋坏(身)	破 (1/4)	外面 回転ナデののち、底体部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 底体部は不定方向のナデ。他は回転ナデ。	灰色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。
270	須恵器	壺		外面 平行タタキ（10本/2.5cm） 内面 ナデ。	外、内面は暗褐灰色。 断面はにぶい灰褐色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。

溝（ＳＤ）2出土遺物

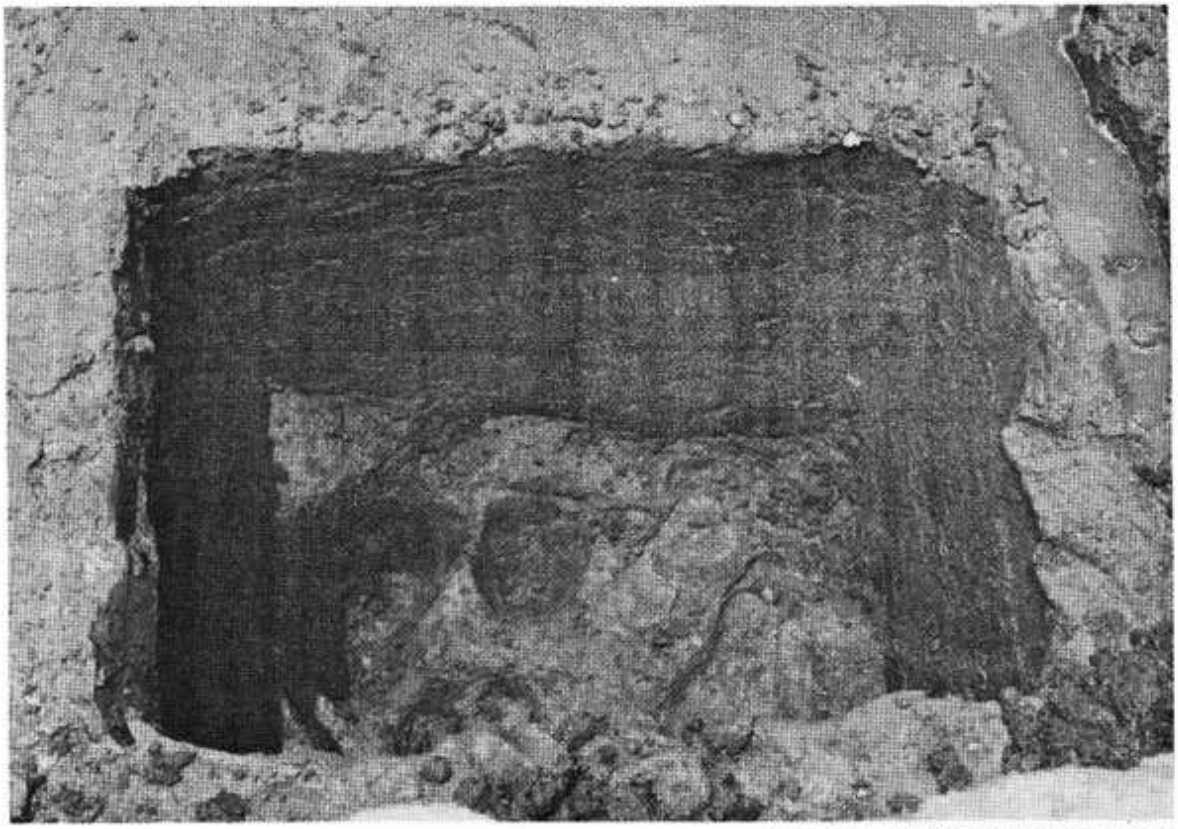
遺物番号（図版）	器種		法量（現存率）単位cm	成形・調整	色調・胎土	焼成・備考
271	土師器	杯	高台径 8.2(1/2)	高台は貼り付け。 外面 底部はナデ。高台部はヨコナデ。 内面 ナデ。	外、内面は橙色。 断面は灰色。 白色砂粒、雲母を微量含む。	焼成良好
272	須恵器	蓋杯（蓋）	推定口径 9.8(1/3)	外面 回転ナデ。 内面 回転ナデ。	淡灰色。 白色砂粒を微量含む。	焼成良好。
遺構に伴わない遺物						
273	弥生土器	壺	推定口径 4.4(1/2)	外面 胴部はタタキ。頸部はナデ。 内面 ナデ。	外面はにぶい褐色。 内、断面はにぶい黄褐色。 生駒西麓の粘土。 白色砂粒、角閃石、雲母を少量含む。	焼成良好。
274	土師器	高杯	脚底部 8.6(3/5)	外面 ナデ。 内面 脚柱部はヘラケズリ。脚裾部はハケ。	にぶい橙色。 白色砂粒、雲母を少量含む。	焼成良好。
275	須恵器	蓋杯（身）	受（1/5） 推定口径 9.4	外面 回転ナデののち、底体部の一部は回転ヘラケズリ（左回り）。 内面 回転ナデ。	暗赤褐色。 白色砂粒を少量含む。	焼成良好。

図版1　跡部遺跡〈遺跡本町2丁目44－1、45、46－1〉

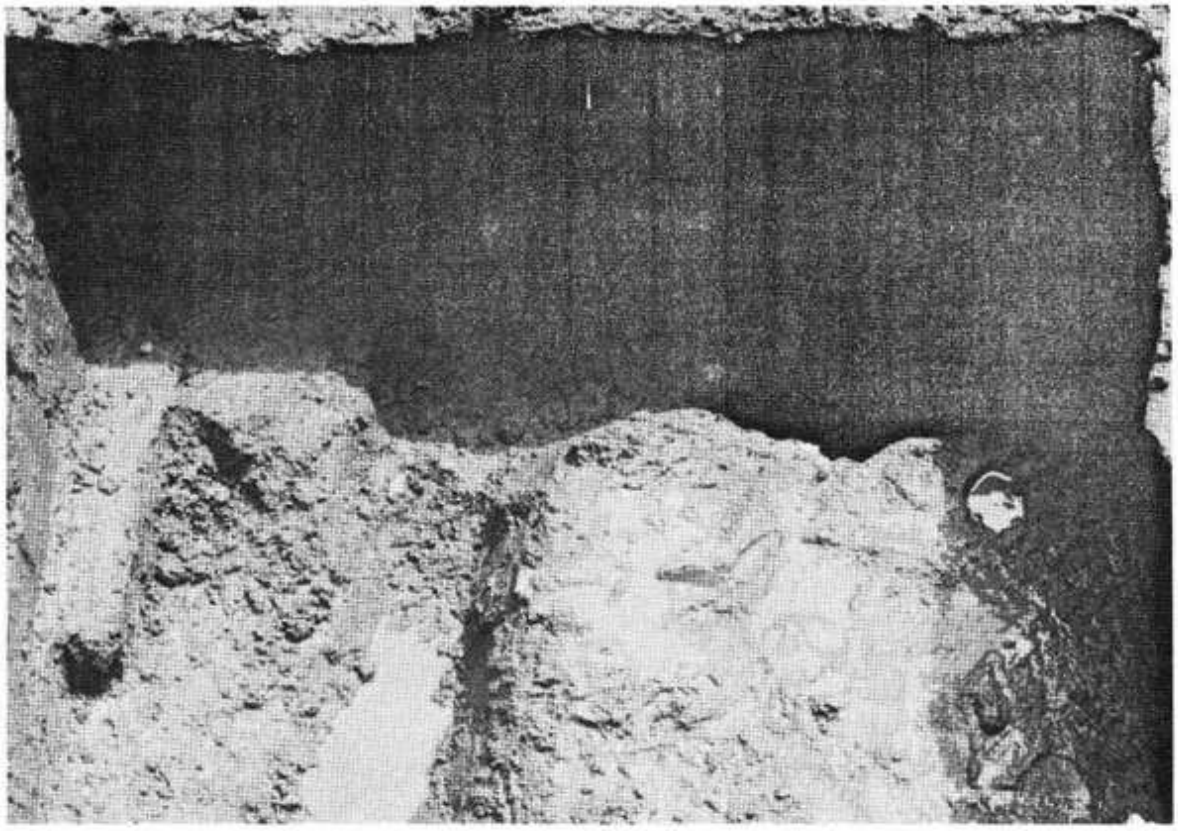


遺構検出状況（西から）

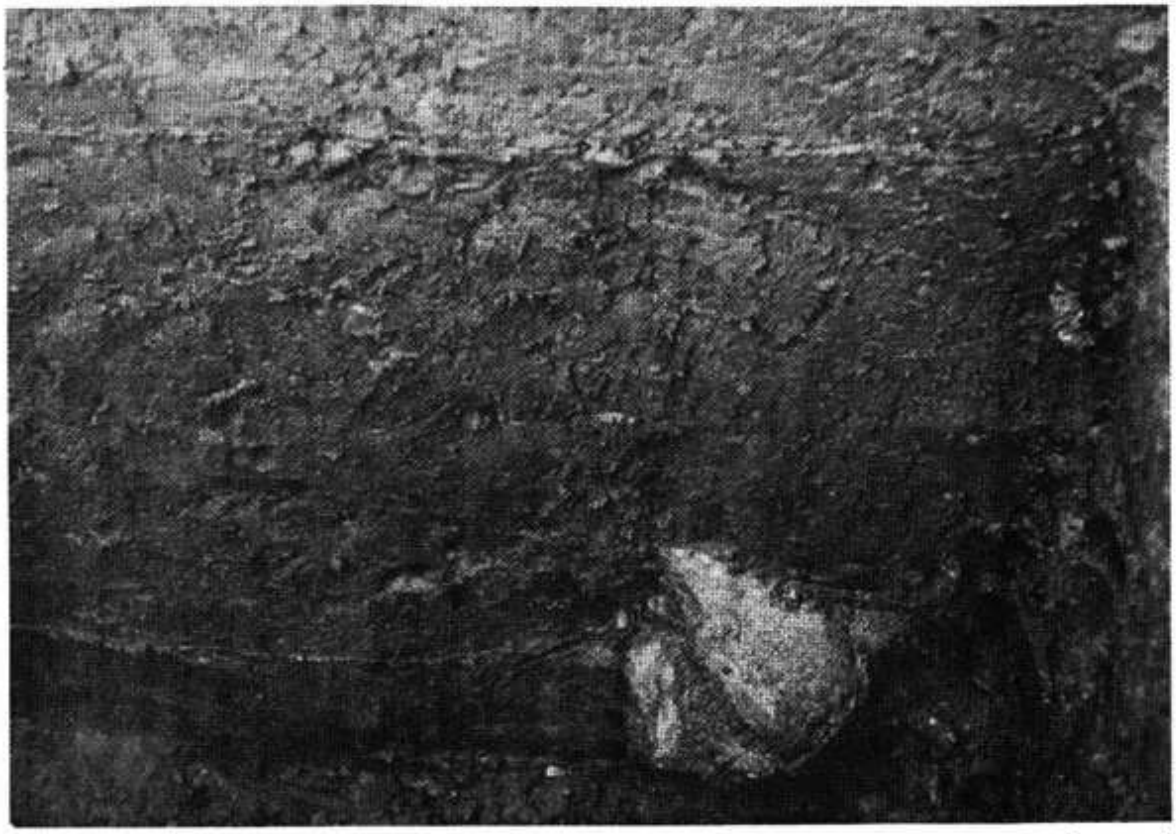
土器溜り（SW）遺物出土状況（南から）



第6グリッド遺構検出状況（東から）

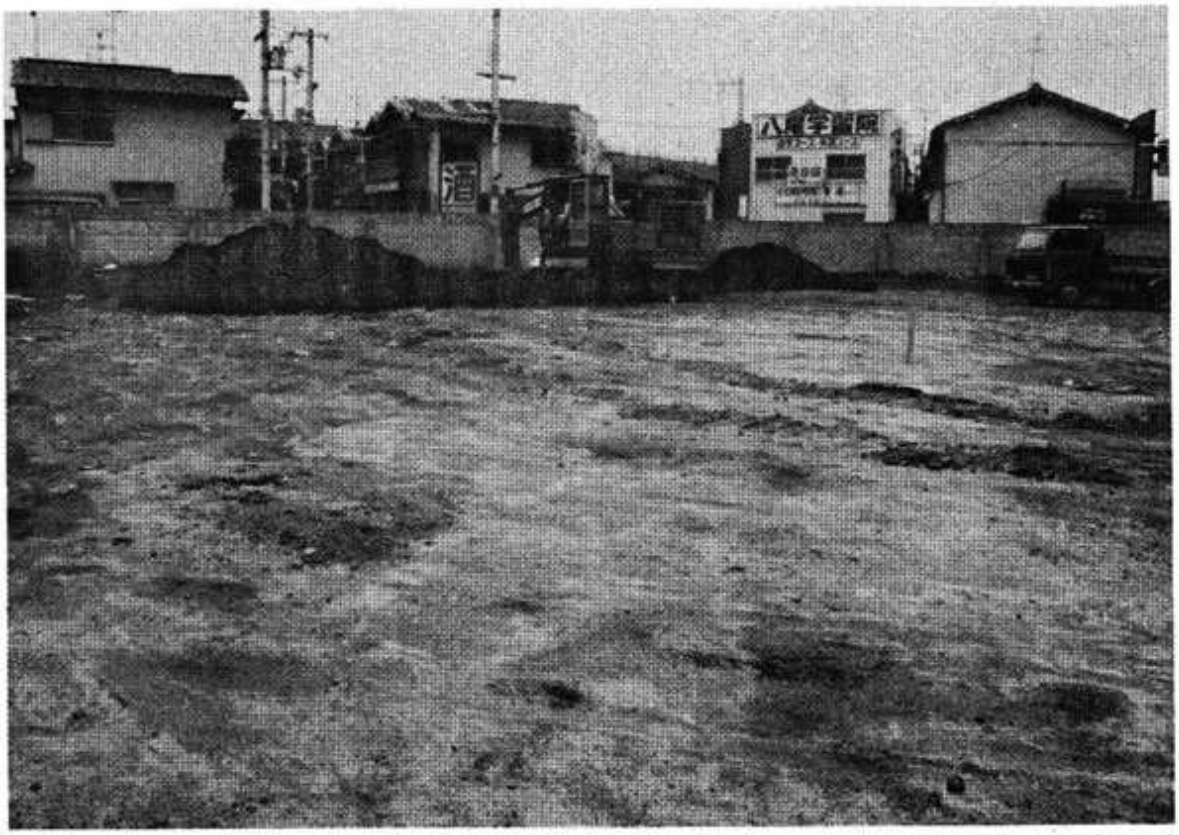


第7グリッド遺構検出状況（北から）



第8グリッド土層断面（西から）

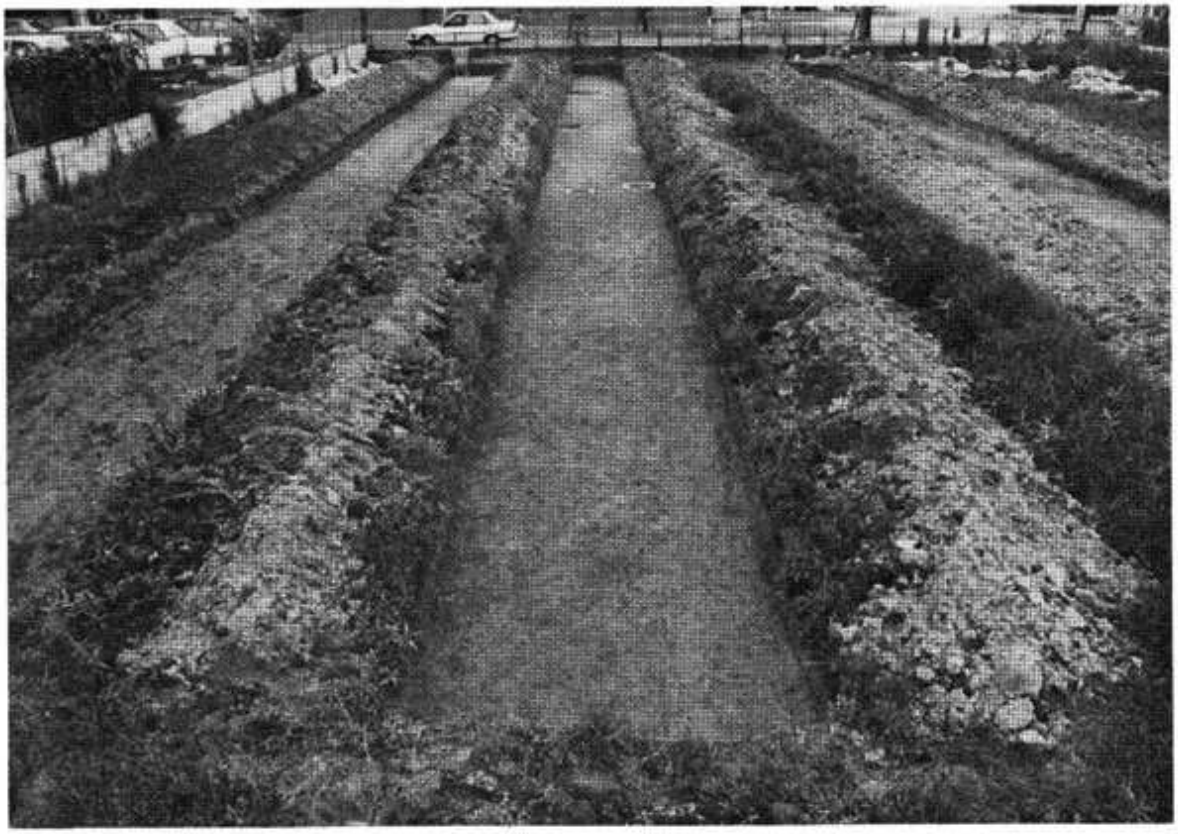
第8グリッド甕棺出土状況



機械掘削風景（東から）

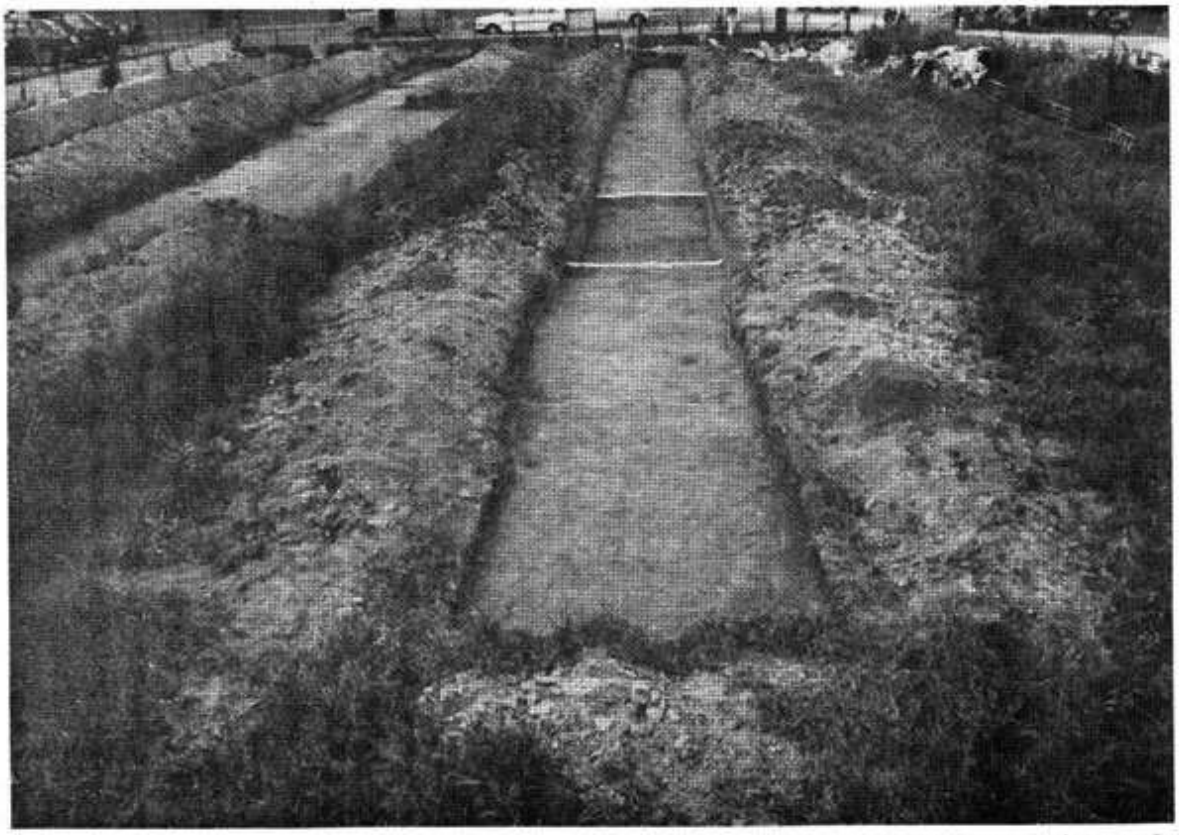
掘削状況（東から）

調査風景（南東から）

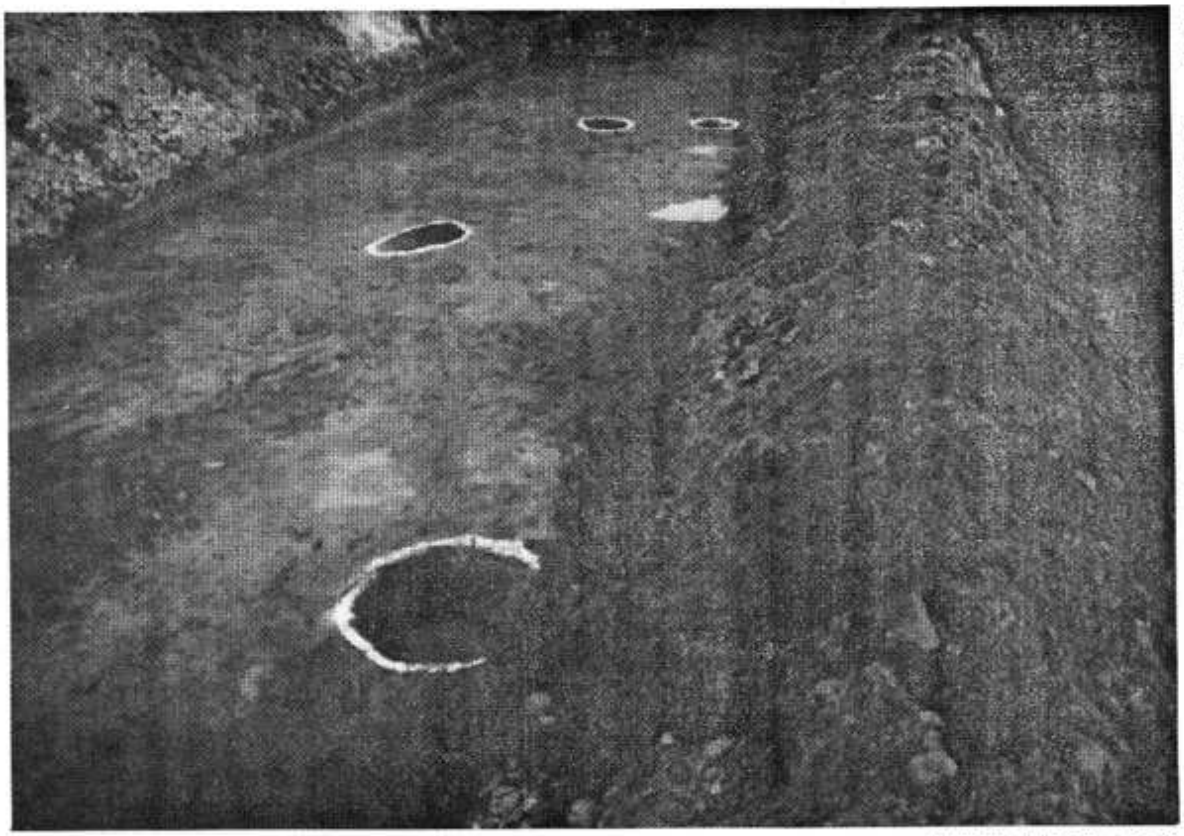


中央トレンチ遺構検出状況（南から）

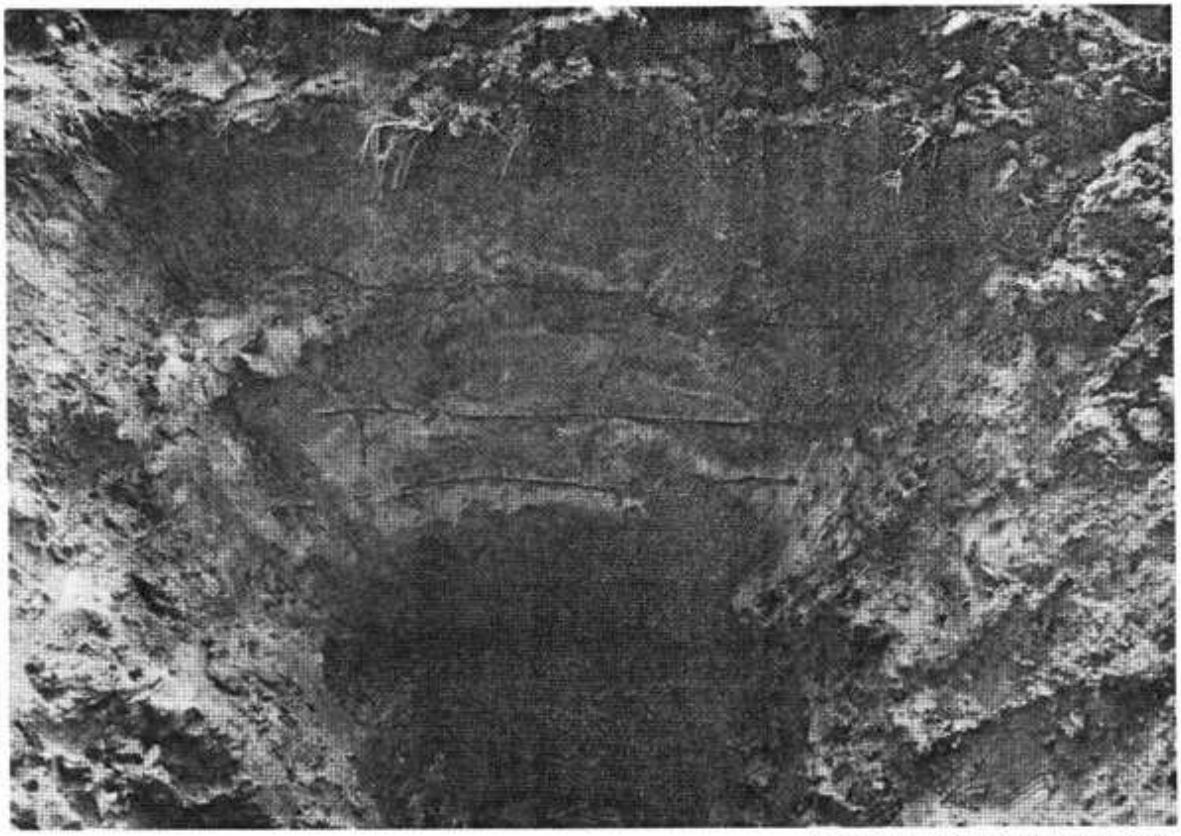
西トレンチ遺構検出状況（南から）



東トレンチ遺構検出状況（南から）



中央トレンチ遺構検出状況（北から）

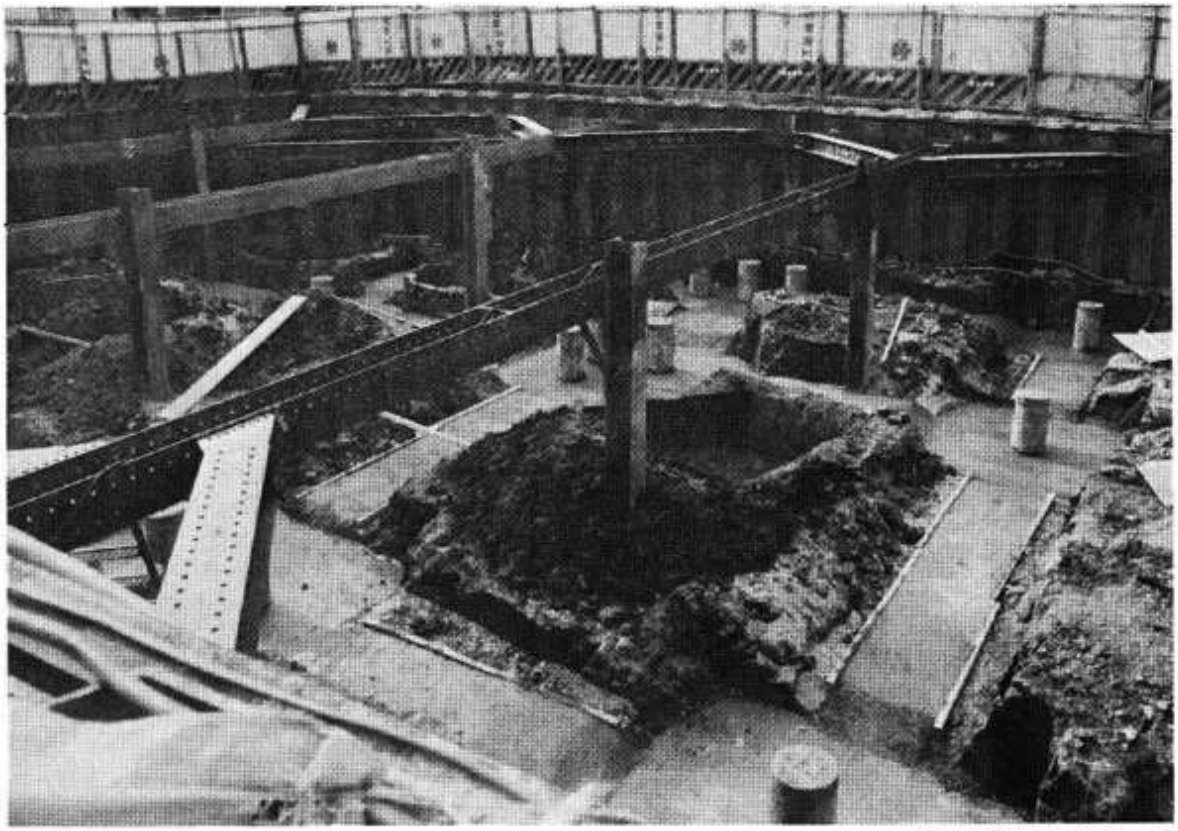


第1グリッド土層断面（東から）

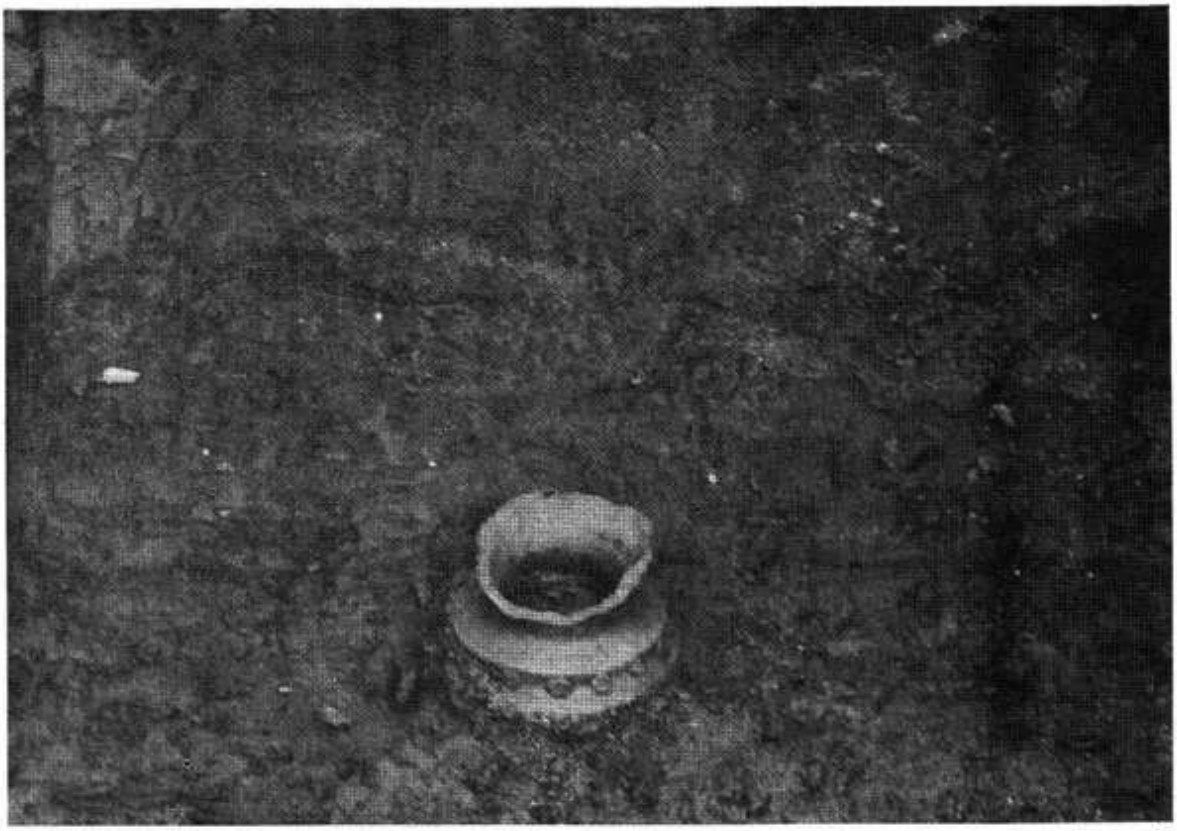
図版8　成法寺遺跡〈清水町1丁目33〉

調査開始前風景（西から）

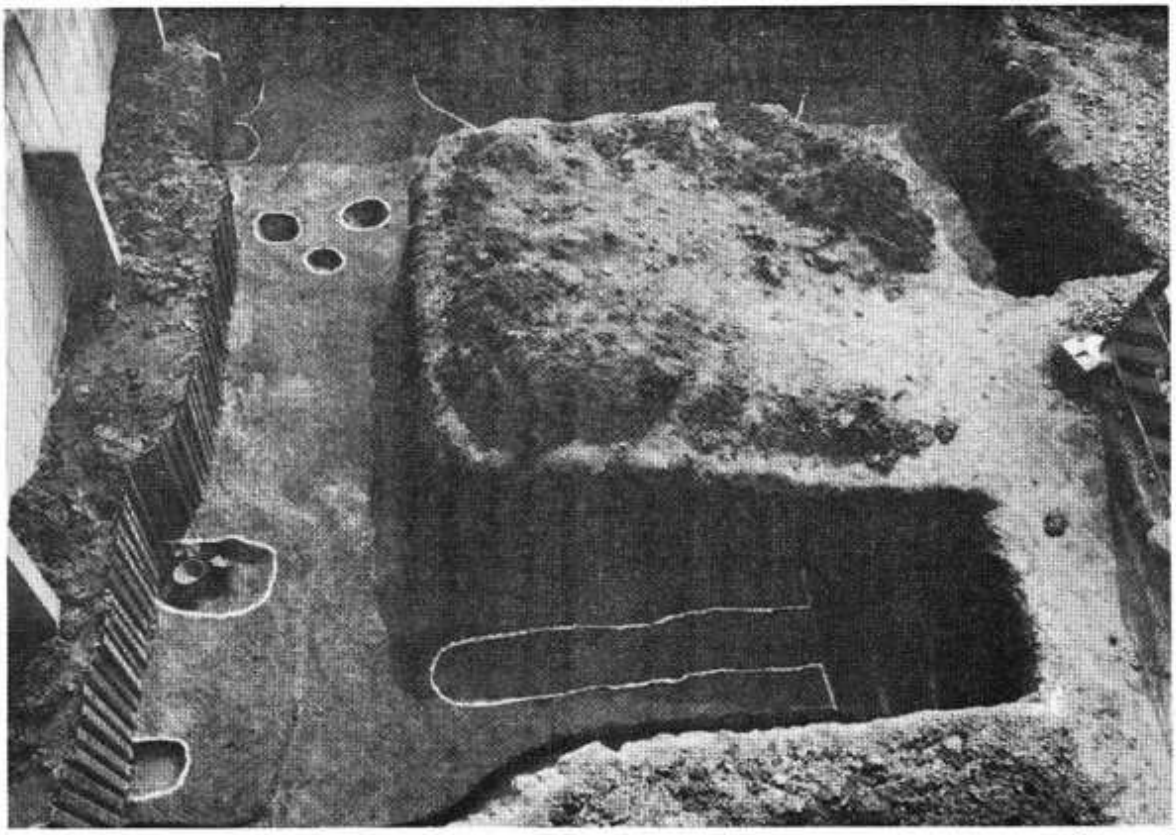
調査風景（西から）



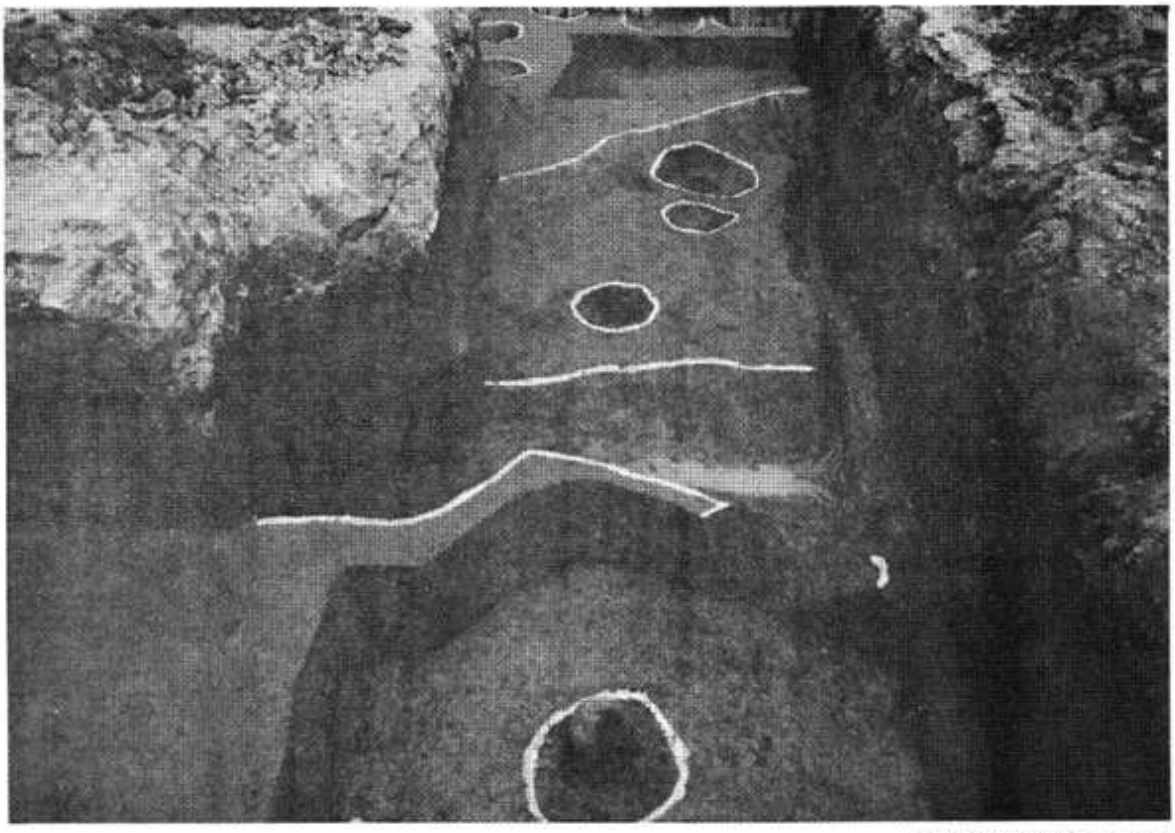
遺構検出状況（南から）



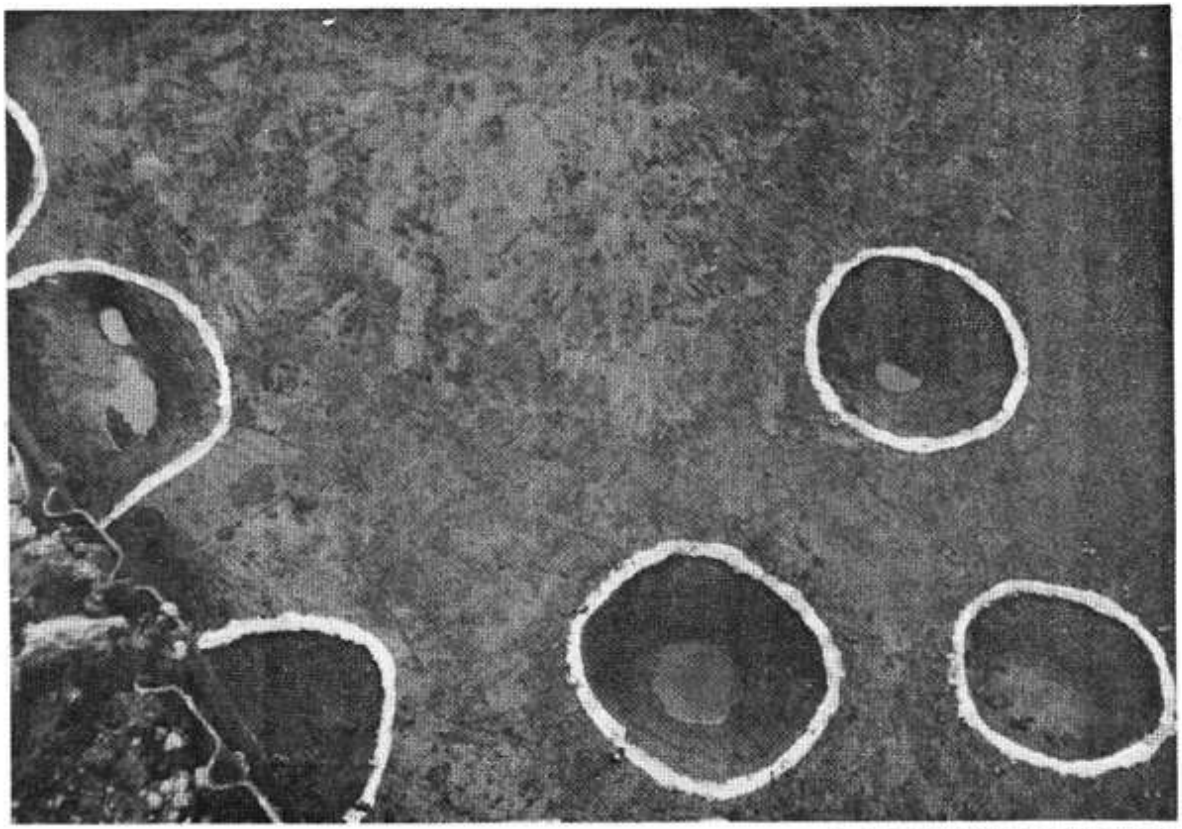
溝（SD）遺物出土状況（南から）



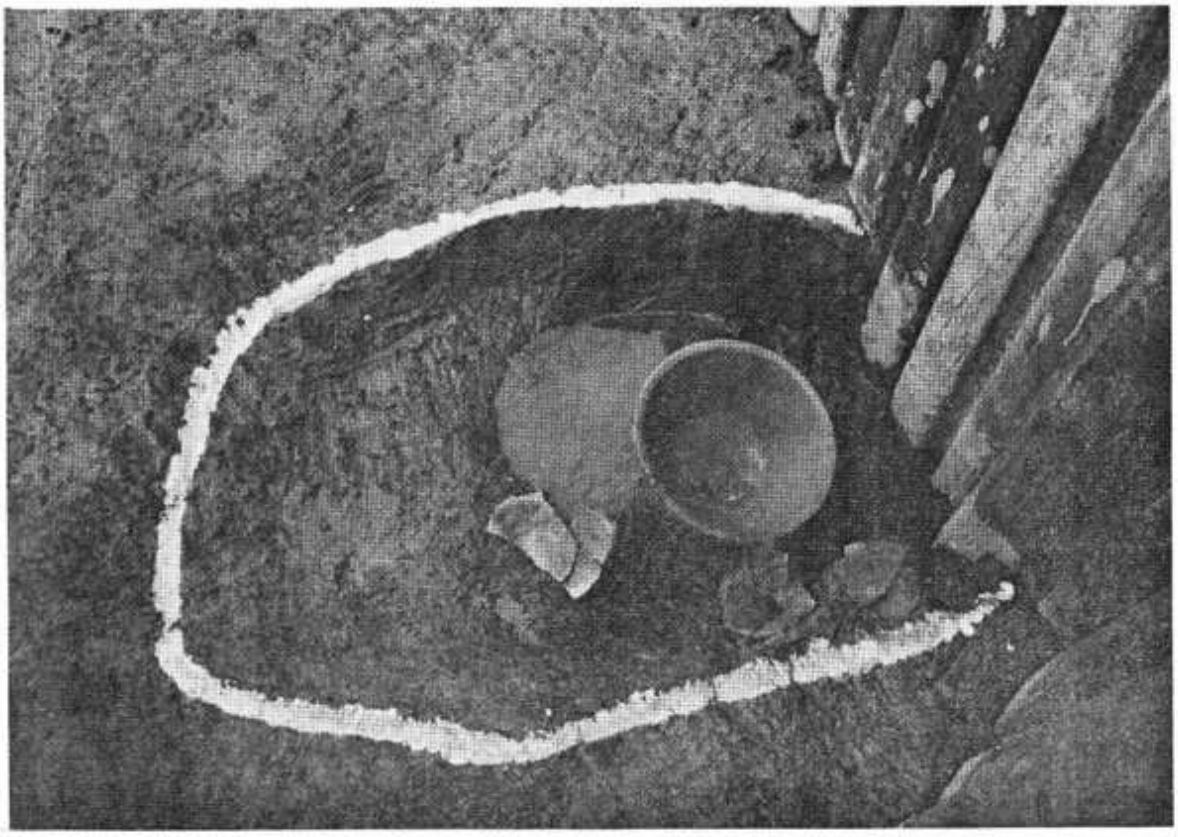
遺構検出状況（北から）



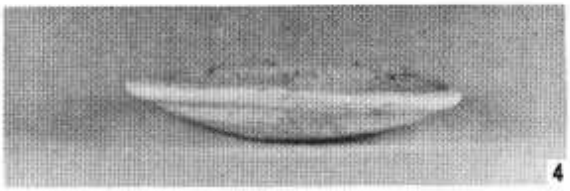
遺構検出状況（西から）

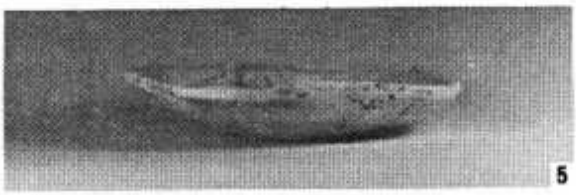


ピット（SP）検出状況（北東から）

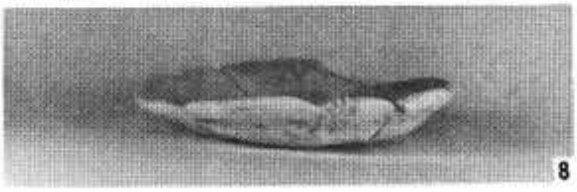


土坑（SK）土器出土状況（南から）

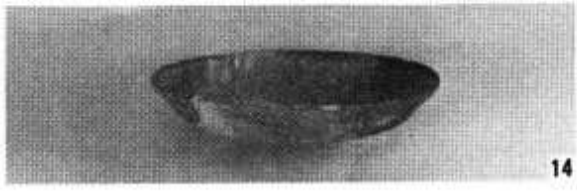

4

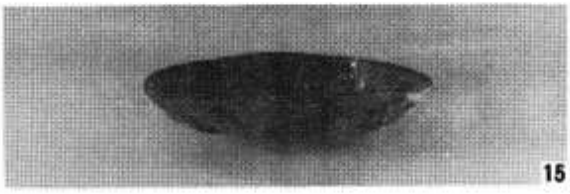

5

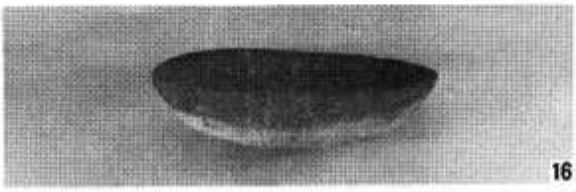
6

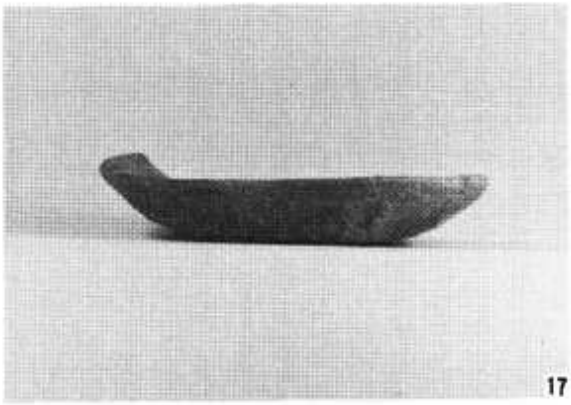

8

9

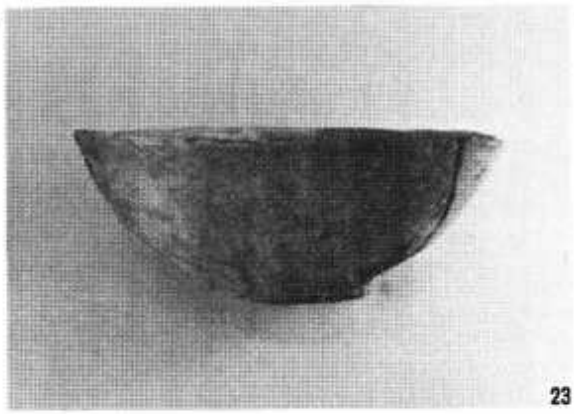

14

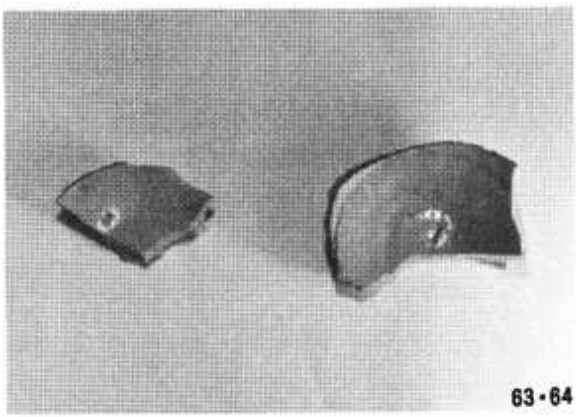

15

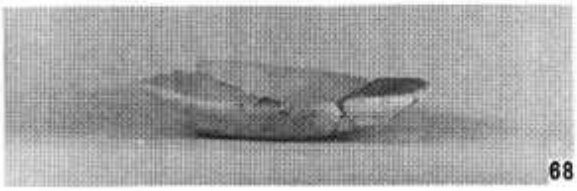

16

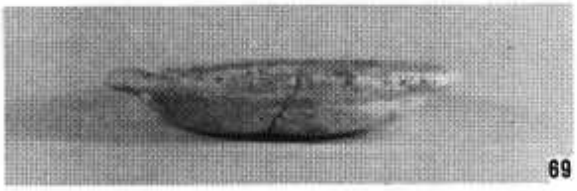

17

20


23

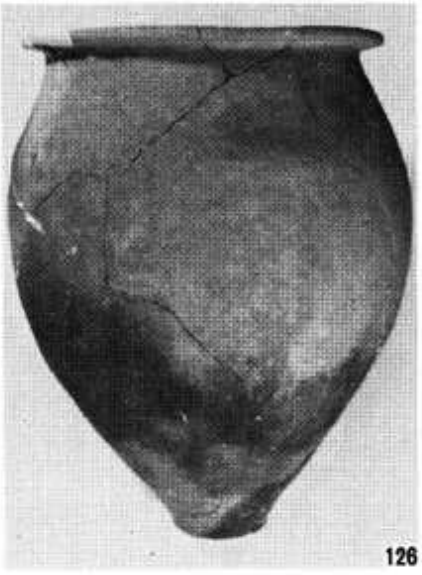

63・64

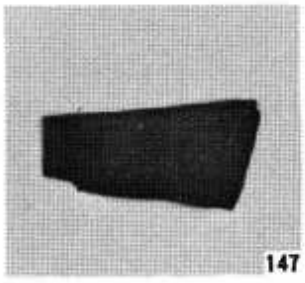

68


69

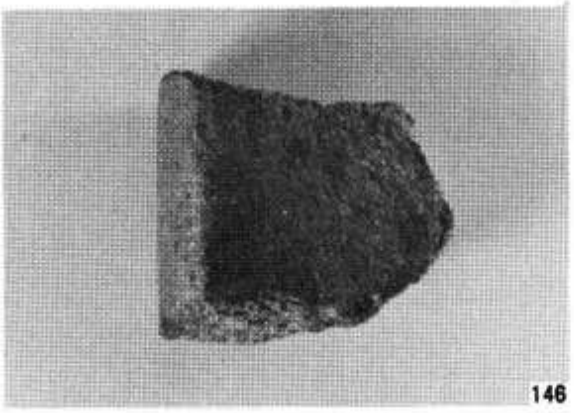
130

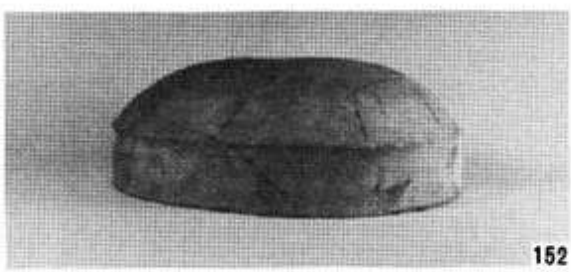
122


126

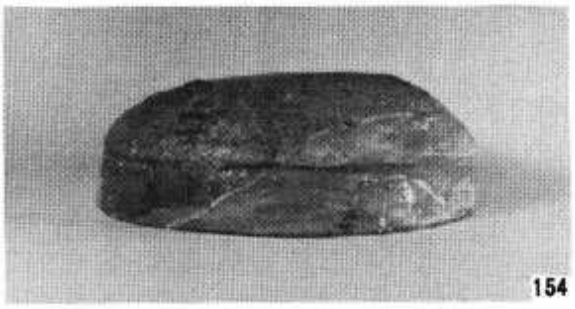

147

145

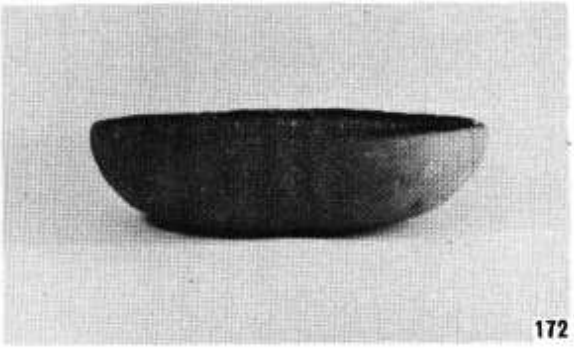

146

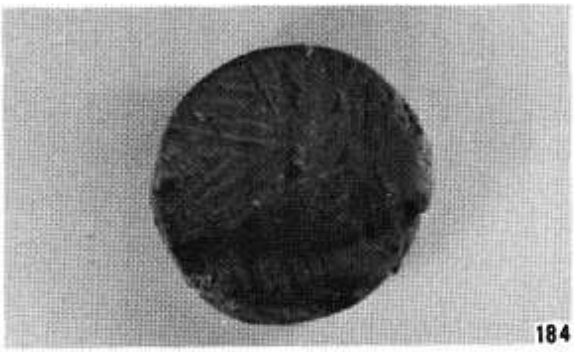

152

153


154

171


172


184

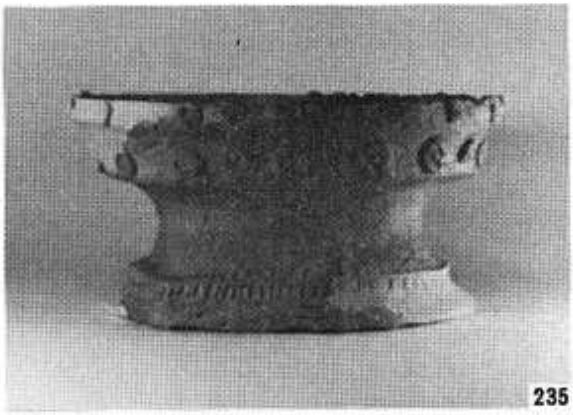
189

226

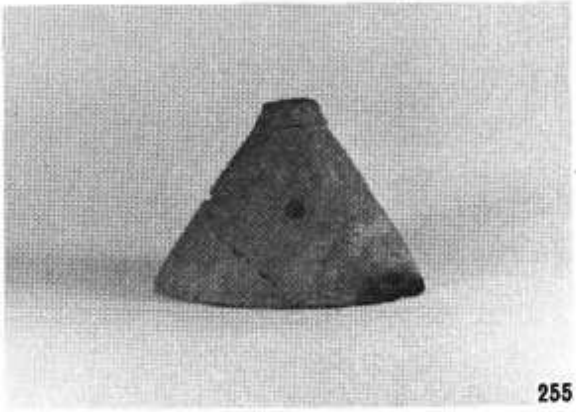
215

跡部遺跡〈安中町3丁目52−2〉出土獣骨

跡部遺跡〈安中町3丁目52−2〉出土馬歯



235



255

260

262

267

268

八尾市文化財調査報告11
昭和59年度国庫補助事業

八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書

編集・発行　八尾市教育委員会
〒581　八尾市本町1丁目1番1号